新潟県中越大震災（2年後）
被災者こころのケア調査概要

平成20年2月

新潟県福祉保健部障害福祉課
新潟県精神保健福祉協会 こころのケアセンター

目　次

Ⅰ　調査概要 ---------- 3

1 調査目的
2 調査対象
3 調査期間
4 調査内容
5 調査方法
6 調査実施機関
7 調査数(回収数)
8 アンケート項目

Ⅱ　調査結果

1 世帯主編
(1)仮設・仮設住宅別回収結果 ---------- 13
(2)結果および考察 ---------- 33

2 子ども編
(1)世帯主の精神保健と子どものPTSD症状の比較 ---------- 37
① 分析方法
② 世帯主の仮設住宅経験の有無によるその子どものPTSD症状の比較
③ 世帯主のGHQスコアにおけるカットオフ以上(GHQ+)とカットオフ未満(GHQ-)の子どものPTSD症状の比較
④ 世帯主のIES-Rスコアにおけるカットオフ以上(IES-R+)とカットオフ未満(IES-R-)の子どものPTSD症状の比較

Ⅲ　資料

1 調査依頼文 ---------- 43
2 調査員証明書 ---------- 45
3 世帯主用アンケート用紙 ---------- 46
4 子ども用アンケート用紙 ---------- 56
5 世帯主用＜調査結果集計表＞ ---------- 57
6 子ども用＜調査結果集計表＞ ---------- 69
7 世帯主用＜調査結果集計グラフ＞ ---------- 71
8 子ども用＜調査結果集計グラフ＞ ---------- 93
9 世帯主用アンケート＜その他の回収結果＞ ---------- 97
10 子ども用アンケート＜その他の回答集計結果＞ ---------- 107

Ⅰ　調 査 概 要

Ⅰ 調査概要

1.調査目的

新潟県中越大震災の被災者は、震災から2ヶ年経過した現在においても、将来の見通しが不透明なまま、仮設住宅などでの不自由な生活や地域での生活再建を強いられている。

本調査は、このような状況下における被災者の生活の復興状況や心の健康状態を把握することを目的とした。

また、仮設入居者(以下仮設群)と仮設に入居しなかった者(以下非仮設群)との住居形態の違いにより心の健康状態に差が生じているか否かを検討することとした。

2.調査対象

【世帯主】

調査対象地区に震災発生時および現在も居住する世帯(仮設住宅入居者含む。)で、それぞれ世帯主もしくは世帯主に準じる方を調査対象とした。

【子ども】

調査対象世帯内に小学生および中学生の子どもがいる場合については、その子どもも調査対象とした。

3.調査期間

平成 18 年 11 月 1 日～11 月 25 日

4.調査内容

【世帯主】

(1)個人属性(性別、年齢、婚姻状態、住所、職業、同居家族の有無)

(2)被災状況(地震に対する恐怖感、被害認定、けが・病気の有無)

(3)行政サービス(利用頻度、利用効果)

(4)震災から 2 年後の状況(生活場所、家族構成の変化、生活再建の程度、困っていること)

(5)こころの健康状態(主観的健康状態、GHQ12、IES-R)

【子ども】

(1)個人属性(性別、学年、同居家族の続柄)

(2)被災状況(地震後一番心配したこと)

(3)こころの健康状態(PTSSC15)

5.調査方法

(1)説明会の開催

平成 18 年 10 月 28 日(土)に長岡市、29 日(日)に小千谷市にて調査員に対して説明会を実施し、正確な調査を期すため調査の目的・調査方法等を説明した。

また、調査にあたり、調査員の安全および事故誘発防止等、調査員全員に安全意識の徹底を図るとともに調査を円滑に遂行するための教育をした。

(2)家庭訪問によるアンケート調査

調査員による訪問配布・訪問回収(留め置き法)を実施した。エリアサンプリング(※1)にて対象世帯サンプル

数を抽出しているため、偏ることなく万遍に対象世帯の選定を行い、集合住宅(マンション等)でまとめて配布することは禁止とした。

(※1)エリアサンプリング法

各市町の9月1日現在(小千谷市については8月末現在)の世帯数および9月末現在の仮設入居世帯数を元に世帯分布率を算出し、目標回収世帯数(※2)に世帯分布率を乗じ地域ごとの目標回収世帯数を算出した。次に、調査対象地域(※3)の住宅地図をサンプリング台帳として使用し、住宅地図をメッシュで区切り、メッシュごとに目標回収世帯数を設定し、地域に偏りがでないようにメッシュごとに訪問間隔を設定し抽出した。(仮設住宅についても、各市町の目標回収世帯数を設定した。)

(※2)目標回収世帯数

非仮設住宅・仮設住宅合計の目標回収世帯数 2,000 票より、仮設住宅入居世帯数の減少を考慮し、非仮設住宅の目標回収世帯数を 1,700 票、仮設住宅の目標回収世帯数を 300 票と設定した。

＜市町別分布率および目標回収世帯数＞

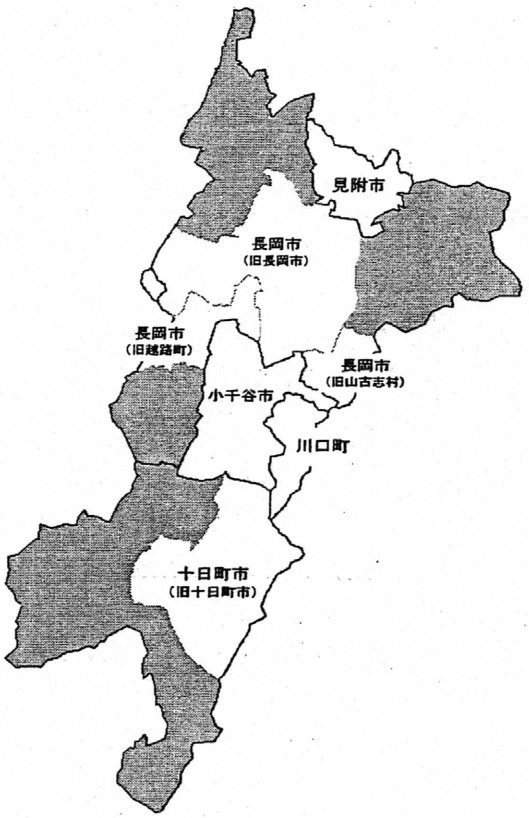
	非仮設別 入居世帯数 a	非仮設別 分布率 b	仮設別 入居世帯数 c	仮設別 分布率 d	非仮設別 目標回収 世帯数 e	仮設別 目標回収 世帯数 f	目標回収 世帯数 合計 g
長岡市（旧長岡市）	27,136	39.56%	505	29.53%	673	89	762
長岡市（旧越路町）	4,198	6.12%	55	3.22%	104	10	114
長岡市(旧山古志村)	620	0.90%	472	27.60%	15	83	98
小千谷市	12,369	18.03%	396	23.16%	307	69	376
見附市	9,364	13.65%	44	2.57%	232	8	240
十日町市	13,369	19.49%	42	2.46%	331	7	338
川口町	1,533	2.24%	196	11.46%	38	34	72
合計	68,589	100.0%	1,710	100.0%	1,700	300	2,000

b=非仮設別入居世帯数/全対象地域世帯数　　d=仮設別入居世帯数/全仮設入居世帯数

e=1700 票*非仮設別分布率　　f=300 票*仮設別分布率

(※3)調査対象地域

市町村名	対象地域
長岡市（旧長岡市）	旧長岡市内で上越新幹線・信越線線路より東側を対象地域と設定
長岡市(旧越路町)	全域
長岡市(旧山古志村)	全域
小千谷市	全域
見附市	信越線線路より東側を対象地域と設定
十日町市	旧十日町市
川口町	全域



6.調査実施機関

新潟県福祉保健部障害福祉課

新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンター

7.調査数(回収数)

＜非仮設･仮設別最終回収結果＞

エリア名	区分	目標回収世帯数 a	配布世帯数 b	最終回収数 世帯主用 c	最終回収数 子ども用 d	達成率 e=c/a
旧長岡市	非仮設住宅	673	700	698	256	103.7%
旧越路町	非仮設住宅	104	111	111	20	106.7%
旧山古志村	非仮設住宅	15	18	18	3	120.0%
小千谷市	非仮設住宅	307	336	332	93	108.1%
見附市	非仮設住宅	232	243	242	56	104.3%
旧十日町市	非仮設住宅	331	336	332	99	100.3%
川口町	非仮設住宅	38	43	43	16	113.2%
非仮設住宅合計		1,700	1,787	1,776	543	104.5%
旧長岡市	仮設住宅	89	101	99	16	111.2%
旧越路町	仮設住宅	10	11	11	0	110.0%
旧山古志村	仮設住宅	83	99	95	9	114.5%
小千谷市	仮設住宅	69	68	67	15	97.1%
見附市	仮設住宅	8	9	9	0	112.5%
旧十日町市	仮設住宅	7	8	8	0	114.3%
川口町	仮設住宅	34	46	42	16	123.5%
仮設住宅合計		300	342	331	56	110.3%
合計		2,000	2,129	2,107	599	105.4%

＜市町別最終回収結果＞

エリア名	区分	目標回収世帯数 a	配布世帯数 b	最終回収数 世帯主用 c	最終回収数 子ども用 d	達成率 e=c/a
旧長岡市	非仮設+仮設	762	801	797	272	104.6%
旧越路町	非仮設+仮設	114	122	122	20	107.0%
旧山古志村	非仮設+仮設	98	117	113	12	115.3%
小千谷市	非仮設+仮設	376	404	399	108	106.1%
見附市	非仮設+仮設	240	252	251	56	104.6%
旧十日町市	非仮設+仮設	338	344	340	99	100.6%
川口町	非仮設+仮設	72	89	85	32	118.1%
合計		2,000	2,129	2,107	599	105.4%

8. アンケート項目

世帯主用

項目	内容	備考
SAMPLE	整理番号	
Q01	問1．性別	
Q02	問2．年齢	
Q03	問3．現在の婚姻状態	
Q04	問4．震災時の住所	
Q05	問5．震災時の職業	
Q06	問6．震災時の同居家族の有無	
Q07	問7．最初の地震発生時、誰と一緒にいたか	
Q08	問8．最初の地震や余震に対する恐怖感	
Q09	問9．地震による住宅の被害状況	
Q09-01	問9－1．住宅被害の認定状況	
Q10	問10．地震直後の避難場所	
Q11	問11．震災時のけがの有無	
Q11-01	問11－1．震災時のけがについて、現在も治療しているか	
Q12	問12．震災後の病気の有無	
Q12-01	問12－1．震災後の病気について、現在も治療しているか	
Q13	問13．震災後に精神的症状がひどい時期があったか	
Q14-01	問14．震災後に受けた行政サービス	複数回答
Q14-02		
Q14-03		
Q14-04		
Q14-05		
Q14-06		
Q14-07		
Q14-08		
Q14-09		
Q14-10		
Q14-11		
Q14-12		
Q14-13		
Q15-01	問15．役立った行政サービス	複数回答
Q15-02		
Q15-03		
Q15-04		
Q15-05		
Q15-06		
Q15-07		
Q15-08		
Q15-09		
Q15-10		
Q15-11		
Q15-12		
Q15-13		

Q16	問 16. 今後の心身の健康のために必要と思われるサービス	自由記載
Q17	問 17. 現在の生活場所	
Q17-01	問 17-1. 今後の生活場所決定有無	
Q17-011	問 17-1-1. 今後の生活場所	
Q17-012	問 17-1-2. 今後の生活場所希望	
Q18	問 18. 現在の職業	
Q19	問 19. 現在の同居家族の有無	
Q20	問 20. 震災による家族構成変化の有無	
Q21	問 21. 生活再建の程度	
Q22	問 22. 現在、一番困っていること	
Q23-01	問 23-1. こころの健康状態（震災前）	
Q23-02	問 23-2. こころの健康状態（震災後～1 週間後）	
Q23-03	問 23-3. こころの健康状態（現在）	
Q24	問 24. 震災後につらさや苦労について誰かに話したか	
Q24-01	問 24-1. つらさや苦労を話さなかった理由	
Q25	問 25. 現在、つらさや苦労を誰かに話すか	
Q25-01	問 25-1. つらさや苦労を話さない理由	
Q26-01	問 26-1. 何かをするとき、集中することが	
Q26-02	問 26-2. 自分のしていることに生きがいを感じることが	
Q26-.03	問 26-3. 容易に（さっさと）物事を決めることが	
Q26-.04	問 26-4. 日常生活を楽しく送ることが	
Q26-05	問 26-5. 問題を積極的に解決しようとすることが	
Q26-06	問 26-6. 心配事があって眠れないことが	
Q26-07	問 26-7. ストレスを感じることが	
Q26-08	問 26-8. 問題を解決できなくて困ることが	
Q26-09	問 26-9. 気が重くゆううつになることが	
Q26-10	問 26-10. 自信を失うことが	
Q26-11	問 26-11. 自分は役に立たない人間だと考えることが	
Q26-12	問 26-12. 一般的に見て、しあわせと感じることが	
Q27-01	問 27-1. 地震のことを思い出すとそのときの気持ちがぶり返してくる	
Q27-02	問 27-2. 睡眠の途中で目が覚める	
Q27-03	問 27-3. 別のことをしていても、地震の事が頭から離れない	
Q27-04	問 27-4. イライラして、怒りっぽくなっている	
Q27-05	問 27-5. 地震のことを考えたり思い出すときは、気持ちを落ち着かせるようにしている	
Q27-06	問 27-6. 考えるつもりはないが、地震のことを考えてしまうことがある	
Q27-07	問 27-7. 地震は、現実のことではなかった気がする	
Q27-08	問 27-8. 地震のことを思い出させるようなものには近寄らない	
Q27-09	問 27-9. 地震の場面が、いきなり頭に浮かぶ	
Q27-10	問 27-10 神経が敏感になり、少しのことでもどきっとする	
Q27-11	問 27-11. 地震のことは考えないようにしている	
Q27-12	問 27-12. 地震のことについて、色々な気持ちがあるが触れないようにしている	
Q27-13	問 27-13. 地震のことについての感情は、麻痺したようである	
Q27-14	問 27-14. 気がつくと、地震のときに戻ったように振舞ったり感じたりする	
Q27-15	問 27-15. 寝つきが悪い	
Q27-16	問 27-16. 地震のことについて、感情が強くこみ上げることがある	
Q27-17	問 27-17. 地震のことを忘れようとしている	
Q27-18	問 27-18. 物事に集中できない	

Q27-19	問 27-19. 地震のことを思い出すと、汗ばみ・息苦しさ・むかつき・動悸等の症状がある	
Q27-20	問 27-20. 地震のことについての夢を見る	
Q27-21	問 27-21. 警戒して用心深くなった.	
Q27-22	問 27-22. 地震のことについて、話さないようにしている	

子ども用

項目	内容	備考
SAMPLE	整理番号	
Q01	問１．性別	
Q02	問２．学年	
Q03-01	問３．同居家族	複数回答
Q03-02		
Q03-03		
Q03-04		
Q03-05		
Q03-06		
Q03-07		
Q03-08		
Q03-09		
Q03-10		
Q03-11		
Q03-12		
Q04	問４．地震後、一番心配したこと	
Q05-01	問５-1. 眠れない（寝つきが悪い・夜中に目が覚める）	
Q05-02	問５-2. 嫌な夢や怖い夢を見る	
Q05-03	問５-3. 気分が沈む	
Q05-04	問５-4. 小さな音でも驚く	
Q05-05	問５-5. 人と話す気にならない	
Q05-06	問５-6. いらいらしやすい	
Q05-07	問５-7. 気持ちが動揺しやすい（落ち着かない）	
Q05-08	問５-8. 嫌なことを思い出させる場所や人や物事を避ける	
Q05-09	問５-9. 体が緊張しやすい	
Q05-10	問５-10. 自分を責める（自分のせいで悪いことが起こったと思う）	
Q05-11	問５-11. 思い出したくないのに、嫌なことを思い出す	
Q05-12	問５-12. 食欲がない	
Q05-13	問５-13. 物事（勉強等）に集中できない	
Q05-14	問５-14. 頭やお腹が痛い	
Q05-15	問５-15. 何か不安だ	

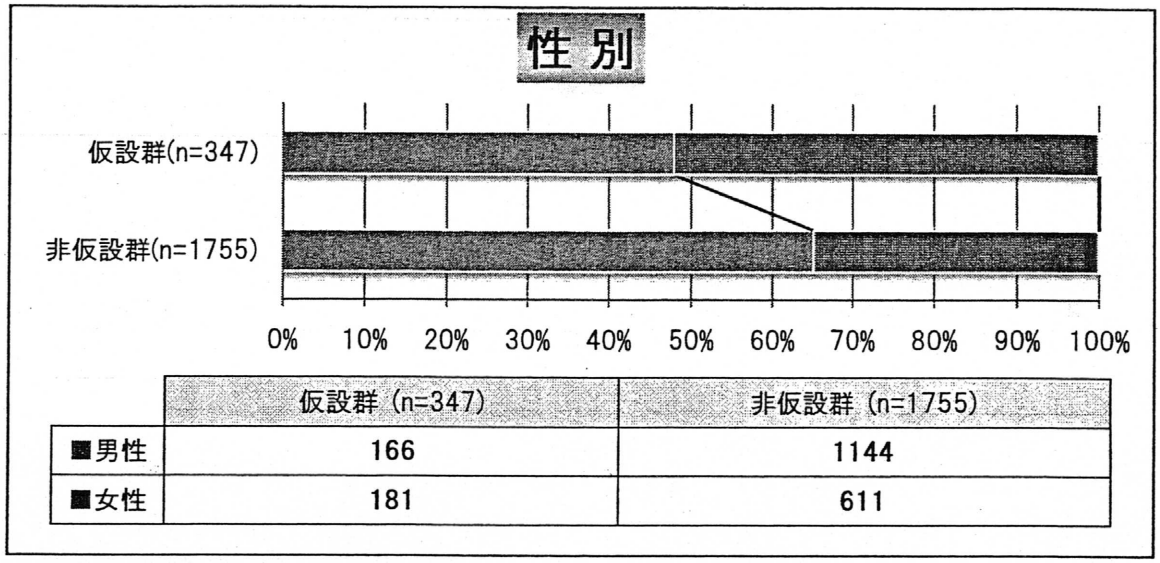
Ⅱ 調 査 結 果

1 世 帯 主 編

※問 17.「現在の生活場所はどこですか。」の質問項目で「仮設から自宅(新築・改築または移転した自宅)」及び「仮設住宅」と回答した者を仮設群、それ以外の者を非仮設群とし分析を行った。また、各項目で欠損により分析対象数が異なる。

(1)非仮設・仮設住宅別回収結果(仮設群×非仮設群における比較)

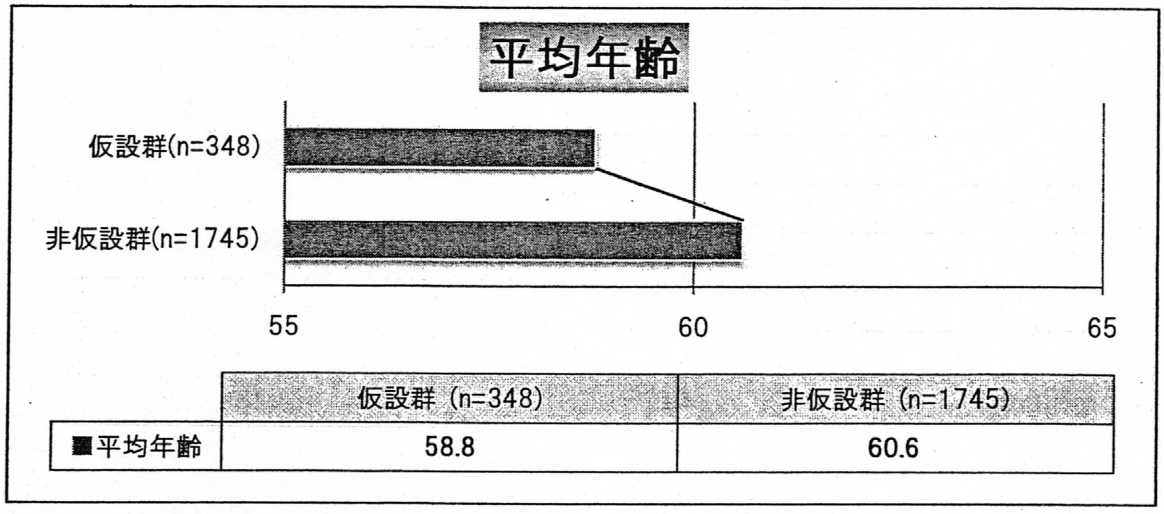
問1. あなたの性別は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=347)	非仮設群 (n=1755)
■男性	166	1144
■女性	181	611

仮設群においては、男性と女性の割合が近かったのに対し、非仮設群においては男性の割合が60%を超えた。これは、以下の平均年齢に関連して、男性の自宅滞在率が高かったゆえであると考えられる。性別は、精神保健において影響を受ける重要な因子である。調査の結果は、この点に注意してみていく必要がある。

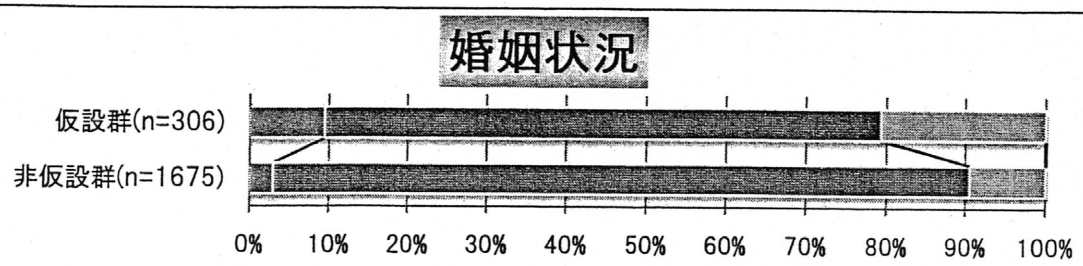
問2. あなたの年齢は。



	仮設群 (n=348)	非仮設群 (n=1745)
■平均年齢	58.8	60.6

仮設群における平均年齢は58.8歳、非仮設群では60.6歳であり、非仮設群のほうが高かった。年齢が高くなると様々なリスクが高くなるといわれているように、調査結果に年齢が影響することが懸念されるが、この場合、仮設群の方において平均年齢が低いため、より問題を見えにくくする影響はあったとしても誇張する結果とはならないと考えられる。

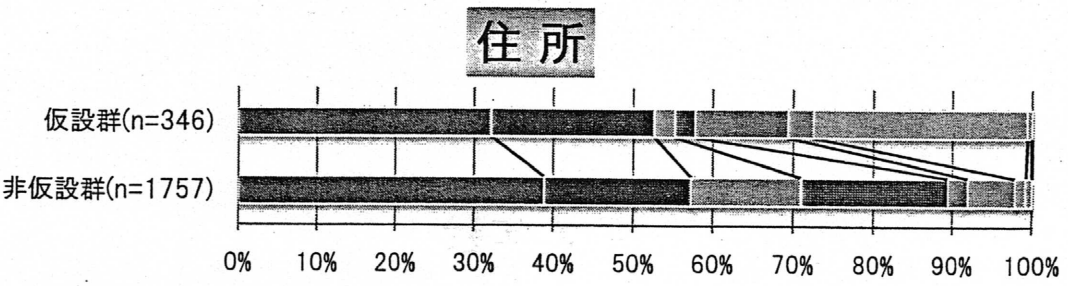
問3. あなたの現在の婚姻状態は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=306)	非仮設群 (n=1675)
■未婚	32	51
■既婚	236	1512
■死別・離婚後	70	163

仮設群においては、非仮設群と比較し、未婚・死別/離婚が多くそれぞれ約 10%と 20%であった。特に未婚が多いのは、経済的な問題および甚大な被災を受けた地域がかなりの過疎地であるためであると予想される。この回答が以下の「震災時同居」、「震災時一緒」と関連する事が予想される。

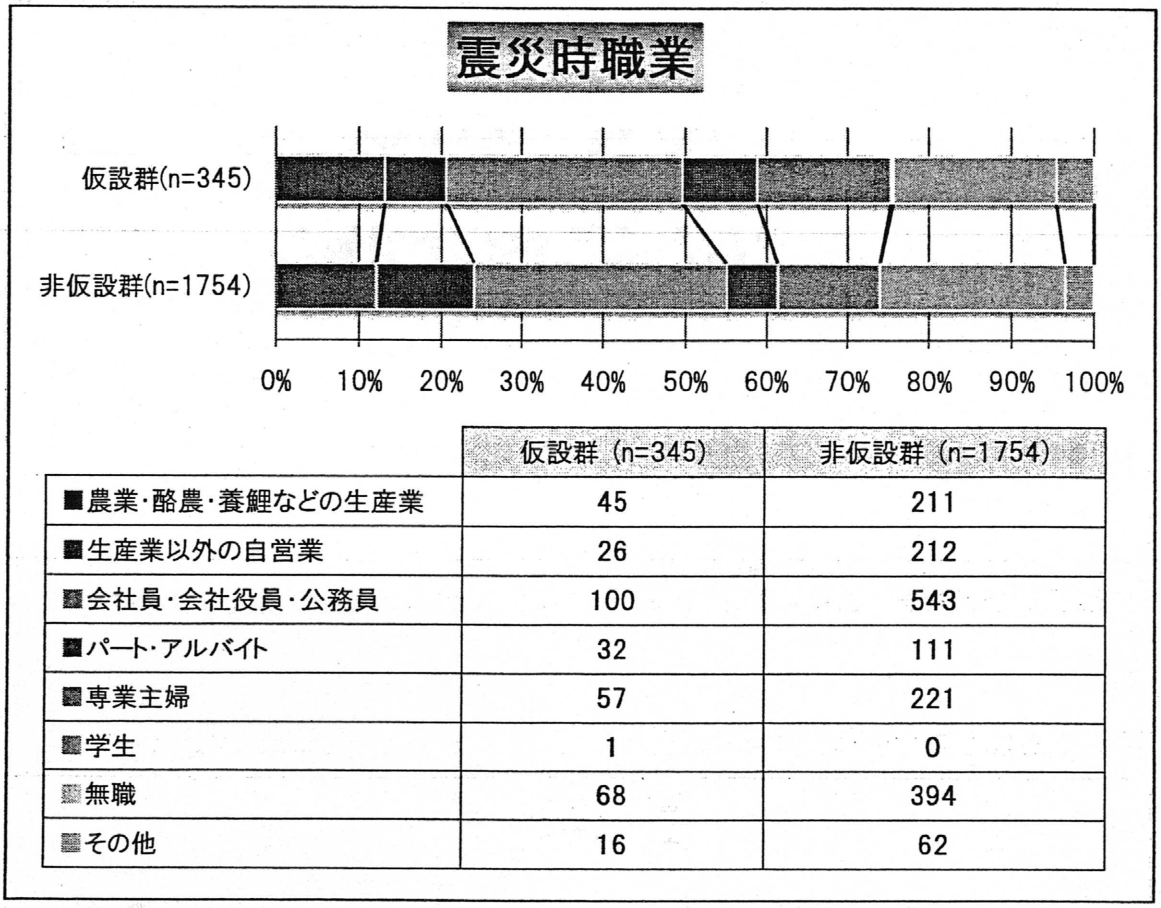
問4. 震災時のあなたの住所は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=346)	非仮設群 (n=1757)
■長岡市	111	683
■小千谷市	71	324
■見附市	9	240
■十日町市	9	325
■川口町	40	45
■旧越路町	11	104
■旧山古志村	93	22
■その他	2	14

仮設群における住所分布では、震災の被害が甚大とされた旧山古志村の割合が高く約 27%であった。被害がより大きかった地域住民が支援を潜在的に求め、多く調査に参加したことも考えられる。

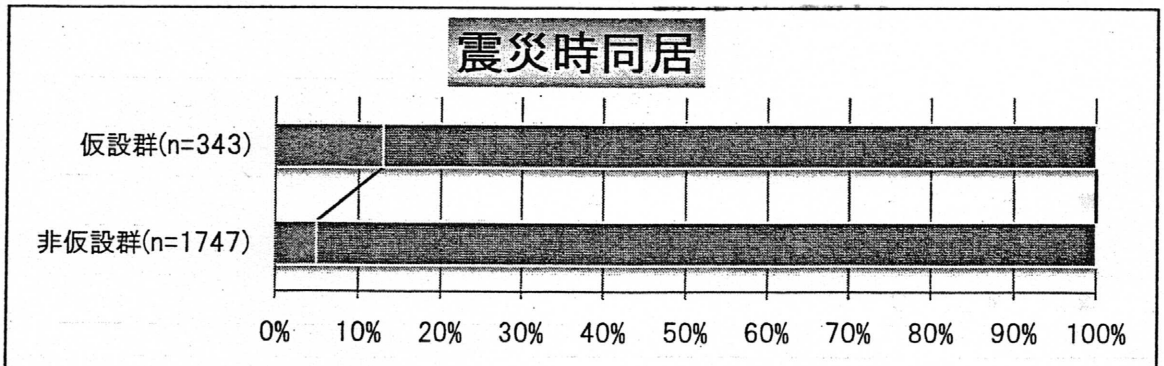
問5. 震災時のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=345)	非仮設群 (n=1754)
■農業・酪農・養鯉などの生産業	45	211
■生産業以外の自営業	26	212
■会社員・会社役員・公務員	100	543
■パート・アルバイト	32	111
■専業主婦	57	221
■学生	1	0
■無職	68	394
■その他	16	62

仮設群においては、生産業が多く、非仮設群では生産以外の自営業が多かった。

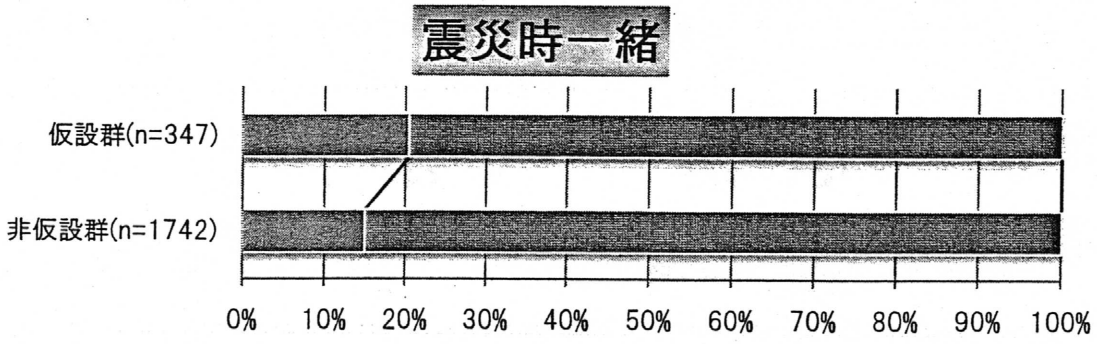
問6. 震災前にあなたと同居していたご家族は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=343)	非仮設群 (n=1747)
■いなかった	44	85
■いた	299	1662

仮設群は非仮設群と比べ、震災時に誰かと同居していなかった割合が高く、約 13%であった。

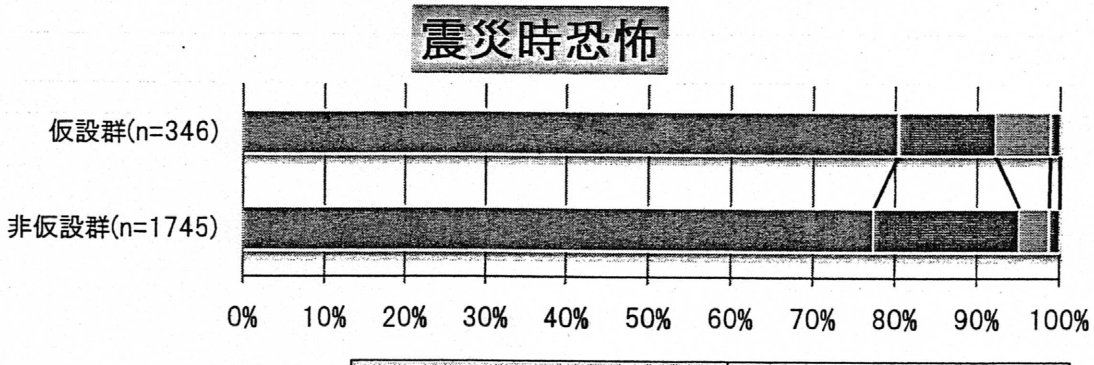
問7. 最初の地震が発生したとき、誰かと一緒にいましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=347)	非仮設群 (n=1742)
■いなかった	71	262
■いた	276	1480

仮設群は非仮設群と比べ、震災時に誰かと一緒にいなかった割合が高く、約 20%であった。

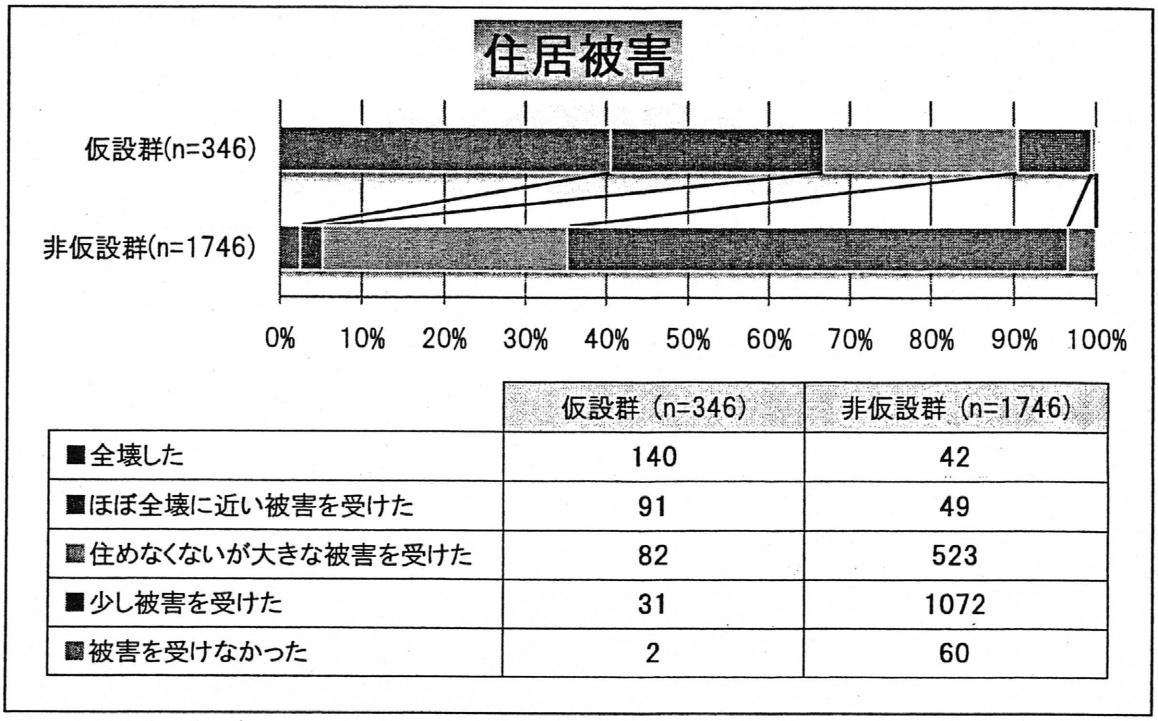
問8. 最初の地震や余震に対する恐怖感はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=346)	非仮設群 (n=1745)
■非常に恐怖を感じた	278	1349
■少し恐怖を感じた	41	311
■あまり恐怖を感じなかった	23	63
■全く恐怖を感じなかった	4	22

仮設群は、非仮設群と比べ、より強い恐怖を感じていた。また、仮設群においては、上記したように「震災時同居」・「震災時一緒」の割合が少ないため、これが関連している可能性がある。

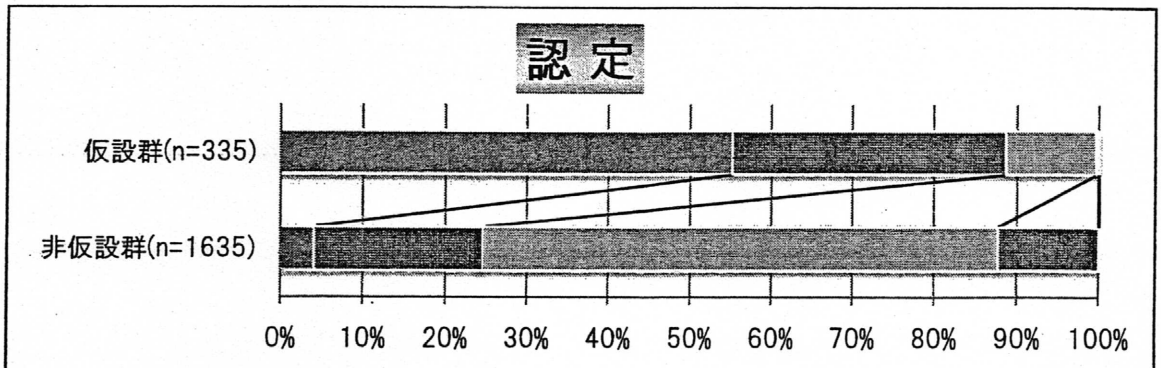
問9. 地震後、あなたのお住まいの被害はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群（n=346）	非仮設群（n=1746）
■全壊した	140	42
■ほぼ全壊に近い被害を受けた	91	49
■住めなくないが大きな被害を受けた	82	523
■少し被害を受けた	31	1072
■被害を受けなかった	2	60

仮設群は、非仮設群と比べ、すべての程度において住居被害が甚大であった。

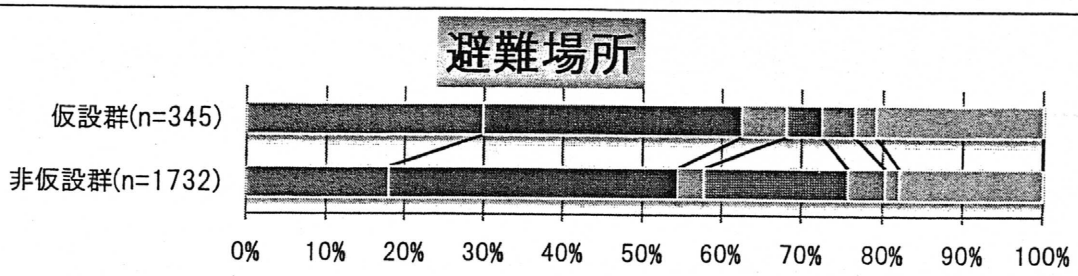
問9－1. 住まいの被害はどう認定されましたか。ひとつだけ選んでください。
（問9で「2」～「5」と回答された方のみ、ご回答ください。）



	仮設群（n=335）	非仮設群（n=1635）
■全壊	185	66
■半壊	112	336
■一部損壊	37	1033
■認定なし	1	200

仮設群の半数以上が「全壊」の認定を受け、「半壊」を含めると全体の約89%にのぼった。非仮設群においては、「全壊」が約4%、「半壊」を含めると約25%であった。

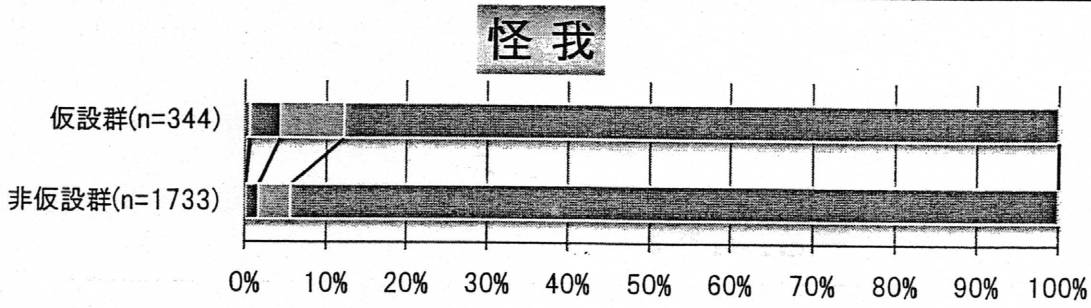
問10. 地震直後、最初にどこへ避難しましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=345)	非仮設群 (n=1732)
■公共の避難所	103	312
■自動車	113	632
■親族・友人・知人宅	19	57
■自宅	15	311
■車庫	14	79
■テント	9	31
■その他	72	310

仮設群と非仮設群において、公共の避難所と自動車へ避難した割合が高かった。一方で、非仮設群においては、自宅避難の割合が多いのは、住居被害によるものと思われる。

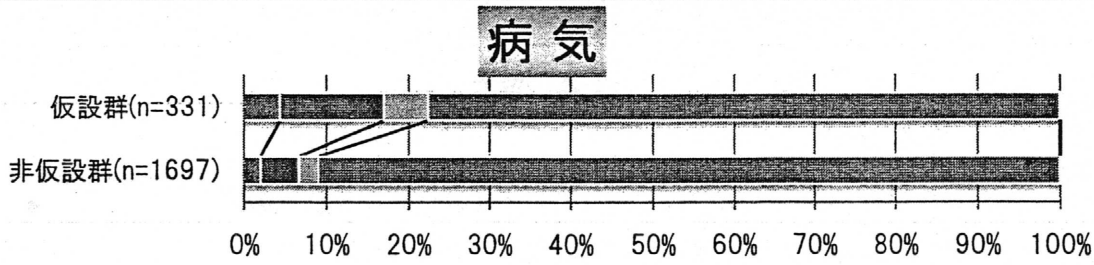
問11. 震災時にけがをされましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=344)	非仮設群 (n=1733)
■怪我のため入院した	2	2
■怪我のため治療を受けた	13	26
■怪我をしたが治療は受けなかった	27	69
■怪我をしなかった	302	1636

仮設群における怪我の割合が高く、入院および治療を受けた割合が約 4%であり、非仮設群においては約 2%であった。治療を受けなかった怪我を含めると、仮設群で約 12%、非仮設群で約 6%であった。

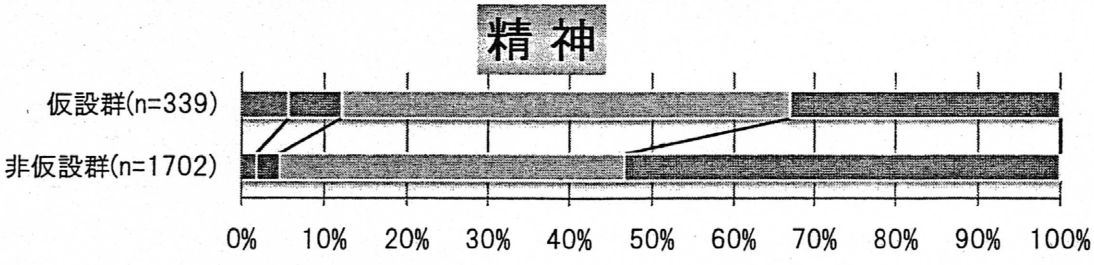
問12. 震災後に病気をなさいましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=331)	非仮設群 (n=1697)
■病気のため入院した	14	33
■病気のため治療を受けた	42	79
■病気をしたが治療は受けなかった	18	40
■病気をしなかった	257	1545

仮設群においては、全体的に非仮設群よりも病気にかかった割合が高かった。病気のために入院したものが、約4%であり、病気のために治療を受けたものを含めると約17%であったのに対し、非仮設群においては約7%であった。仮設群の方が以下の[精神]に加え[身体]も脆弱であることが示唆された。

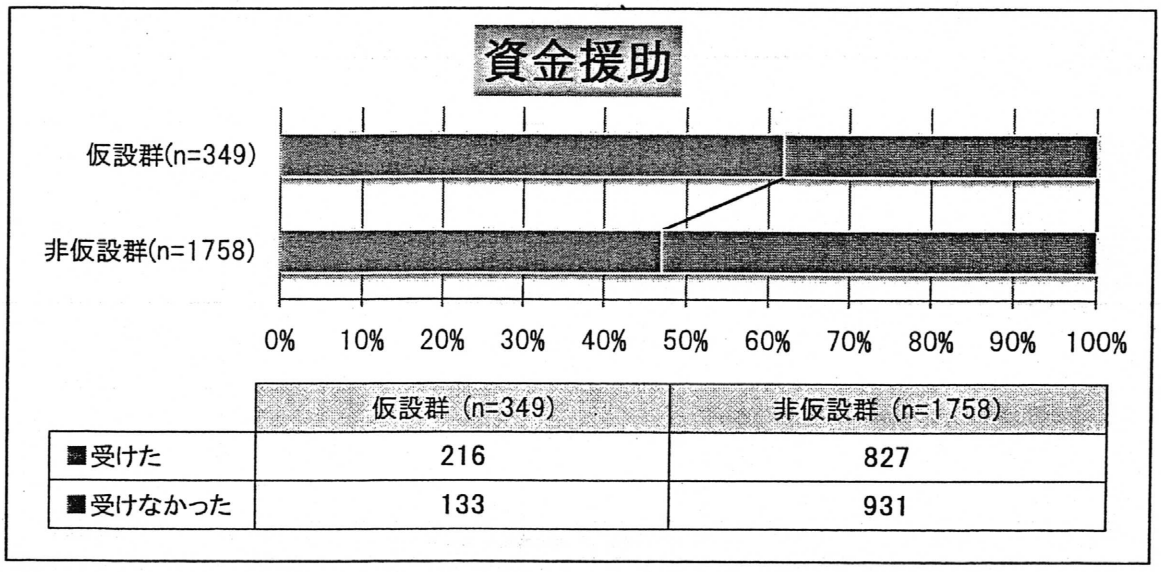
問13. 震災後、不眠・不安・気分の落ち込みなど精神的な症状がひどい時期はありましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=339)	非仮設群 (n=1702)
■今も治療を受けている	19	30
■一時治療を受けた	22	47
■あったが治療は受けなかった	186	716
■なかった	112	909

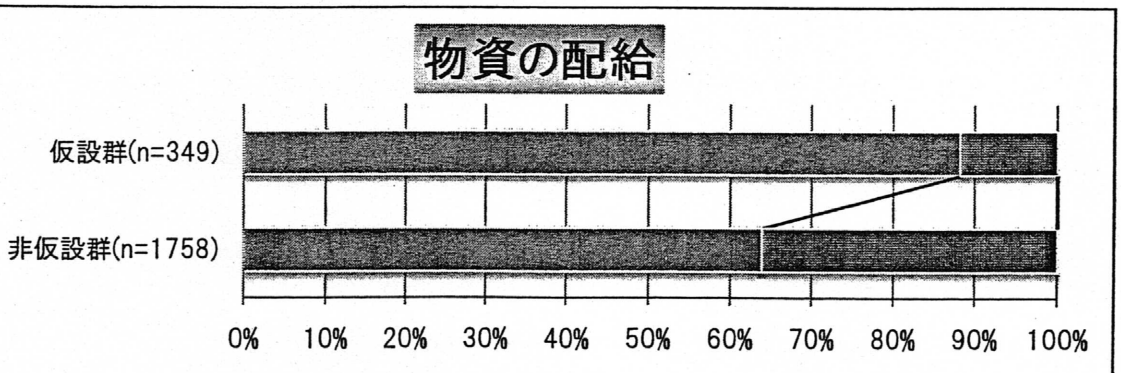
「震災後、精神的にひどい症状の時期があったか」という質問に関して、なんらかの症状があったと答えた割合は、仮設群では 60%を大きく超えた。精神保健に関する現在や一時的な治療を受けた者の割合は、非仮設群で4.5%、仮設群では約3倍の12.1%であった。特に仮設群においては震災の影響(およびそれに付随する問題)による精神保健への影響が示唆された。

問14. 震災後、どのような行政サービスを受けましたか。
あてはまるものをすべて選んでください。



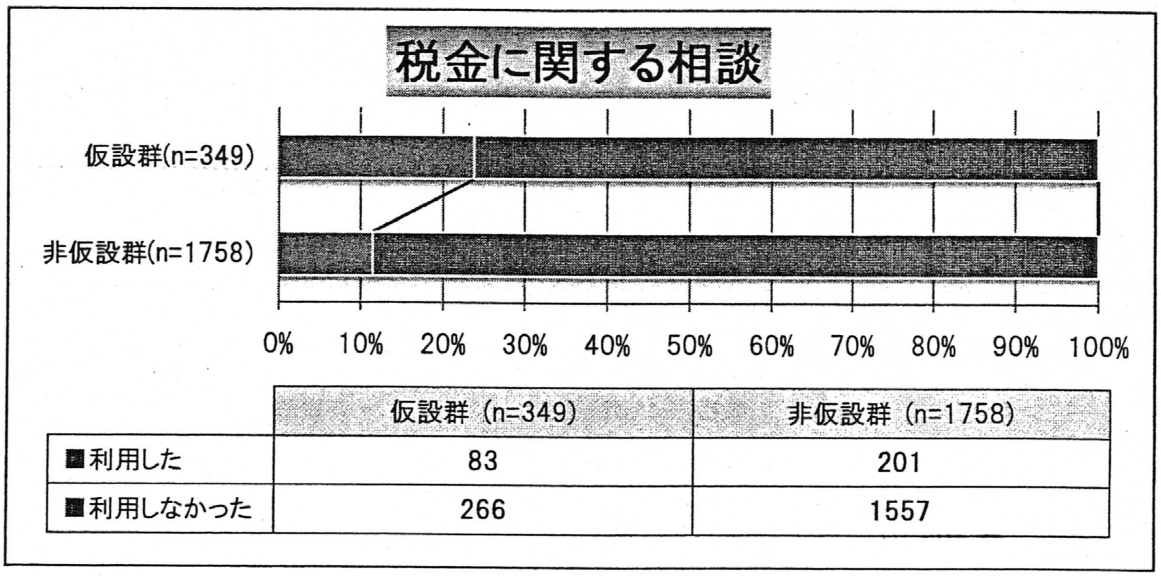
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■受けた	216	827
■受けなかった	133	931

行政サービスとして、資金援助を受けた割合は、仮設群でより多く 60%を超えていた。非仮設群においても半数弱のものが資金援助を受けた経験があった。



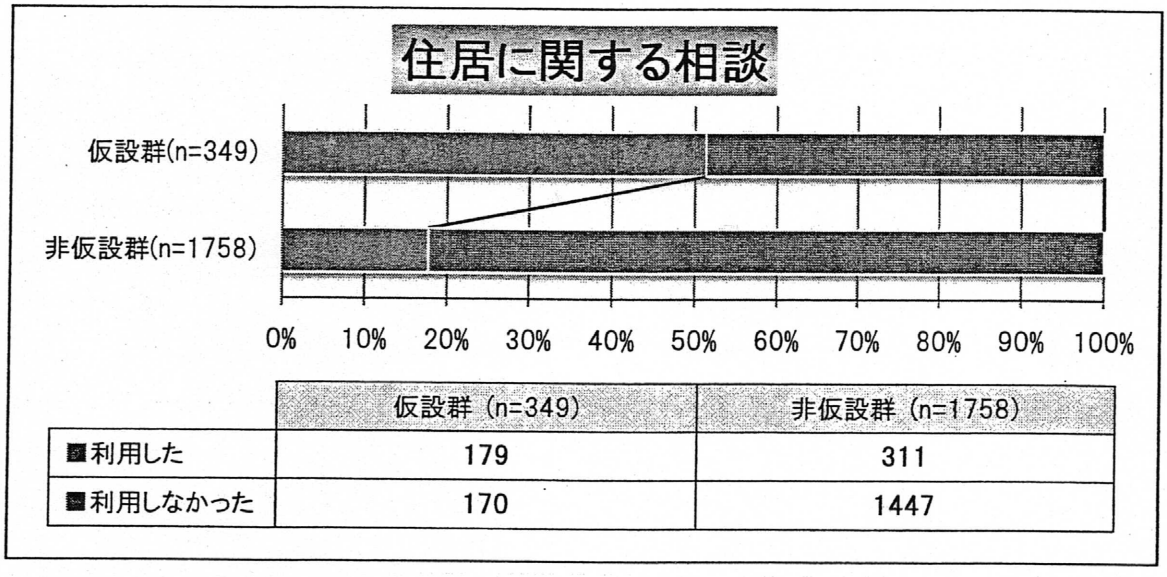
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■受けた	308	1123
■受けなかった	41	635

行政サービスにおいて、仮設群における物資の配給を受けた割合は、約 88%であり、非仮設群では 64%であった。



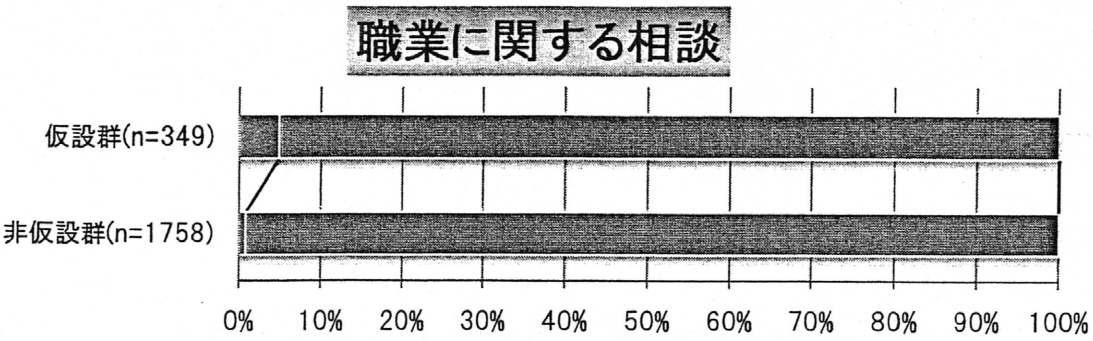
	仮設群（n=349）	非仮設群（n=1758）
■利用した	83	201
■利用しなかった	266	1557

税金に関する相談を受けたものは、仮設群で約 24%、非仮設群で半数以下の約 11%であった。



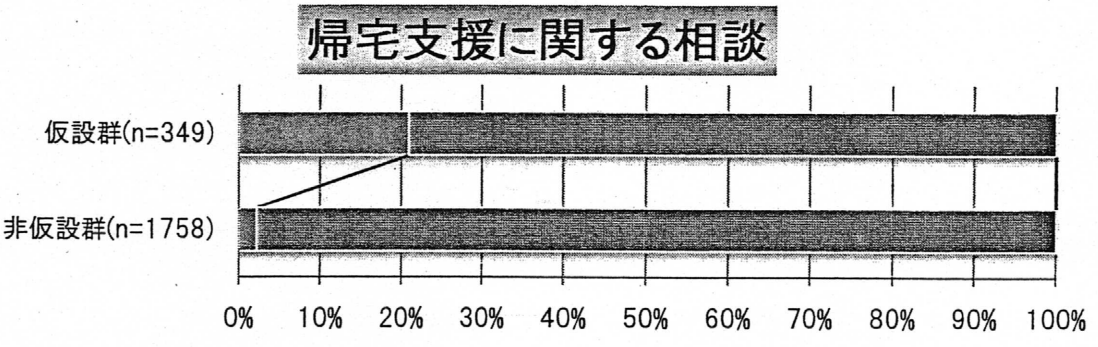
	仮設群（n=349）	非仮設群（n=1758）
■利用した	179	311
■利用しなかった	170	1447

住居に関する相談においては、上記のように住居被害がより多く報告された仮設群で半数以上が相談をしており、非仮設群では約 18%であった。



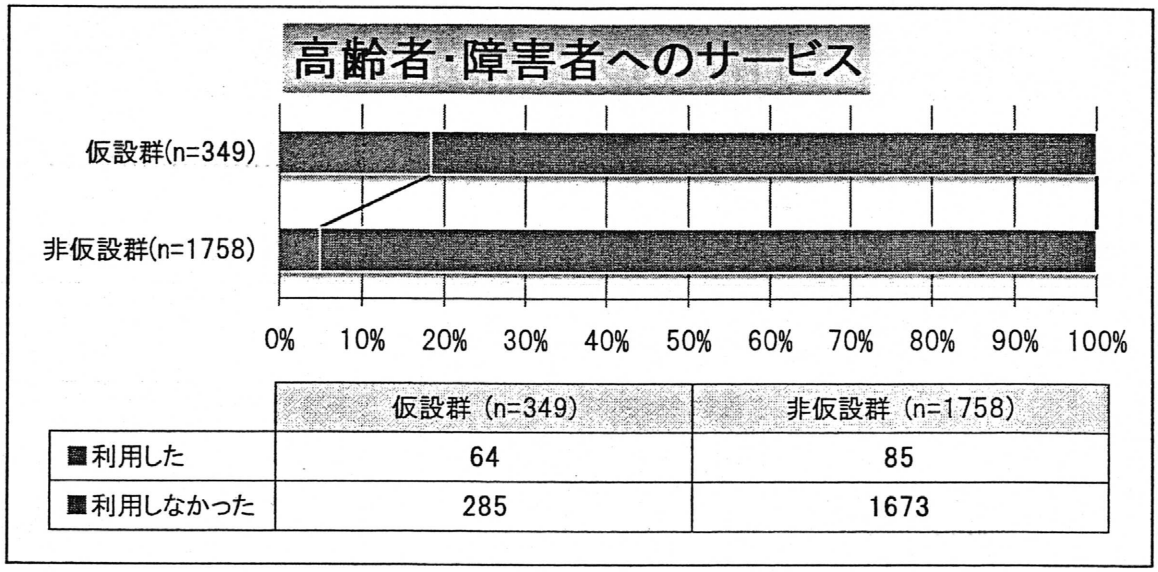
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■利用した	17	14
■利用しなかった	332	1744

職業に関する相談においては、両群においてあまりみられず、仮設群で約 5%、非仮設群で 0.8%であった。



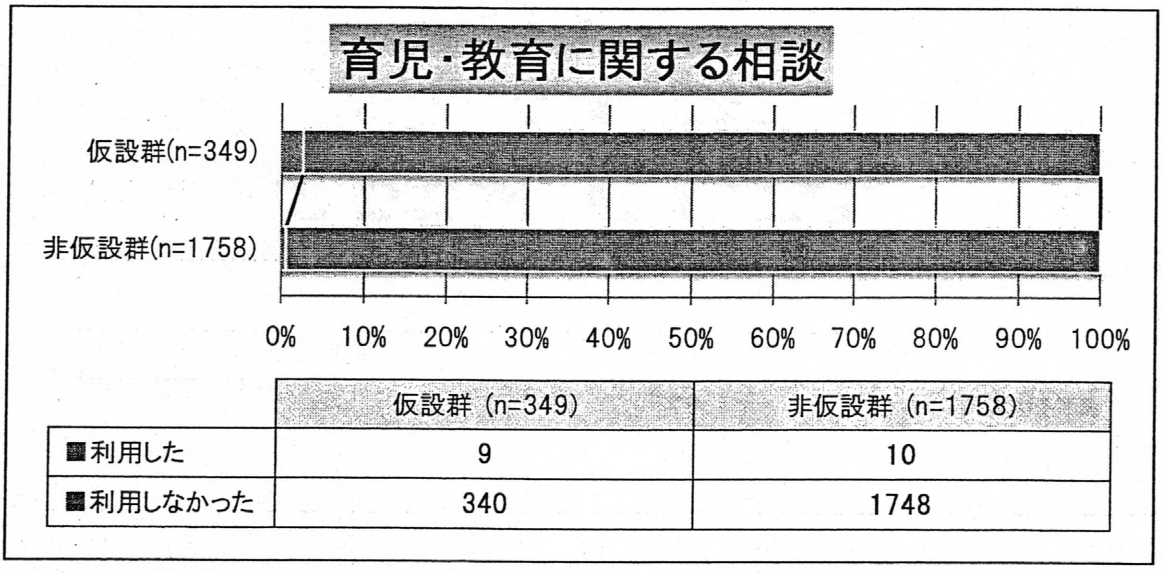
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■利用した	73	38
■利用しなかった	276	1720

帰宅支援においては、仮設群の 20%以上が帰宅支援に関する相談を受けていた。非仮設群においては、約 2%であった。



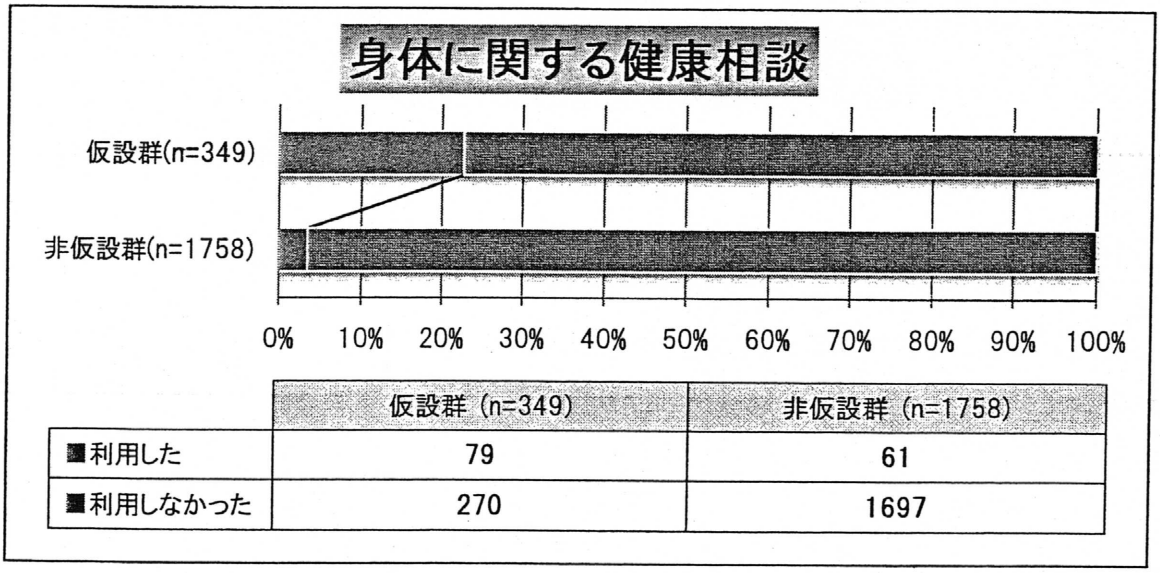
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■利用した	64	85
■利用しなかった	285	1673

高齢者・障害者へのサービスにおいては、仮設群の方がより受けており、その割合は約 18%であった。非仮設群では、約 5%であった。これは、仮設群のほうがより注目され、サービスが提供されたことによる可能性がある。また、サービスの周知が仮設群に集中した可能性もある。実は目が届きにくい非仮設群に対しても、サービスの周知・提供をしていく必要がある。



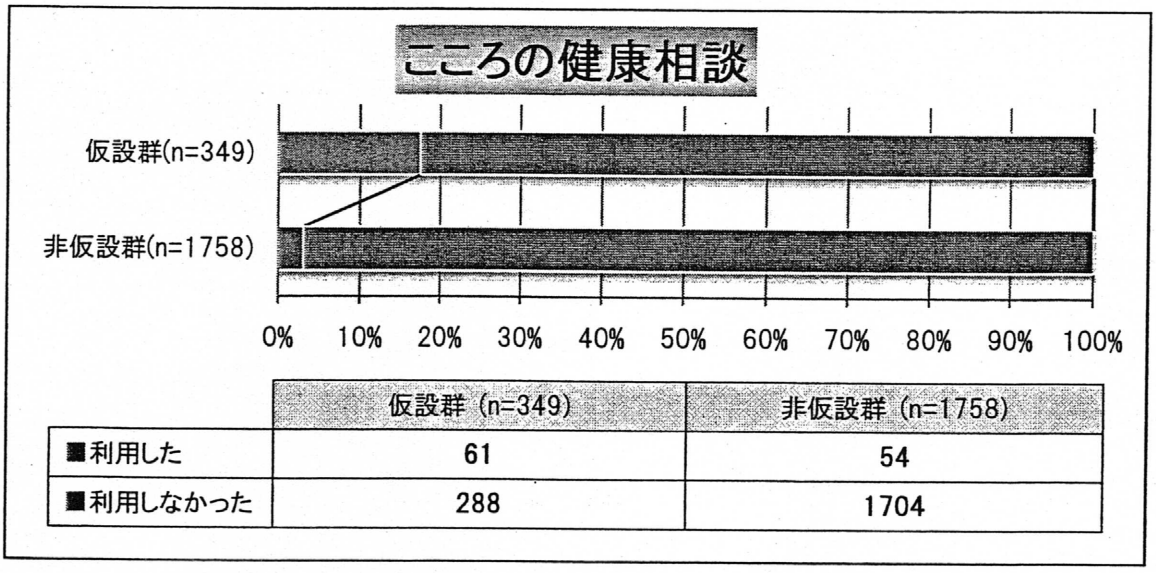
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■利用した	9	10
■利用しなかった	340	1748

育児・教育に関する相談を受けた割合は非常に低く、仮設群で2.6%、非仮設群で0.6%であった。平均年齢からすると、これらに当てはまる対象者が含まれにくかったことが考えられる。あるいは、そもそもの育児・教育に関する相談の提供がほとんどなされていなかったか、あるいはその周知が不十分だった可能性も考えられる。



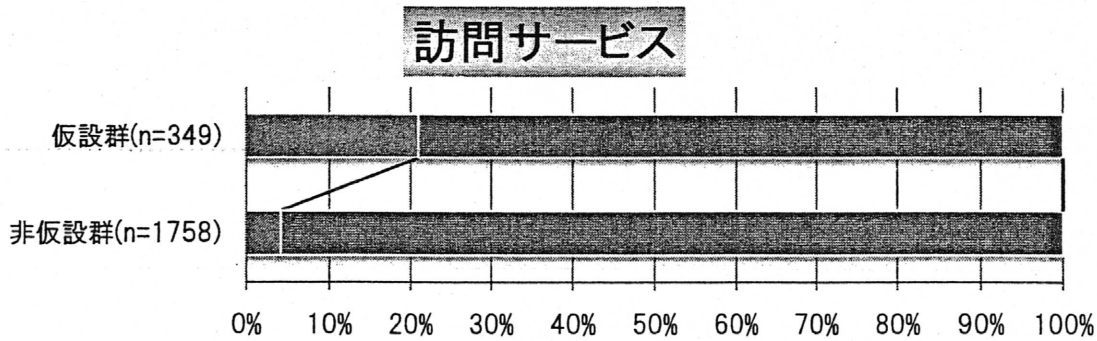
	仮設群（n=349）	非仮設群（n=1758）
■利用した	79	61
■利用しなかった	270	1697

身体に関する健康相談を受けた割合は、仮設群で 22.6%であり、非仮設群で 3.5%であった。仮設群のほうが身体に問題をかかえていたことを推測されるが、一方で身体の健康相談に対し非仮設群がアクセスしにくかった可能性もある。



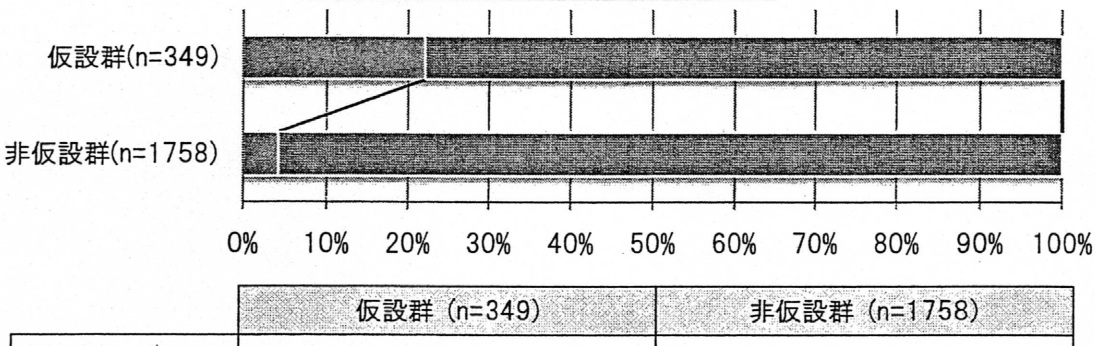
	仮設群（n=349）	非仮設群（n=1758）
■利用した	61	54
■利用しなかった	288	1704

こころの健康相談を受けた割合は、身体に関する健康相談と同じグラフを描いた。これも仮設群がより精神保健の問題に脆弱であったことを示唆する一方で、非仮設群のこのサービスへのアクセスのしにくさの可能性もある。



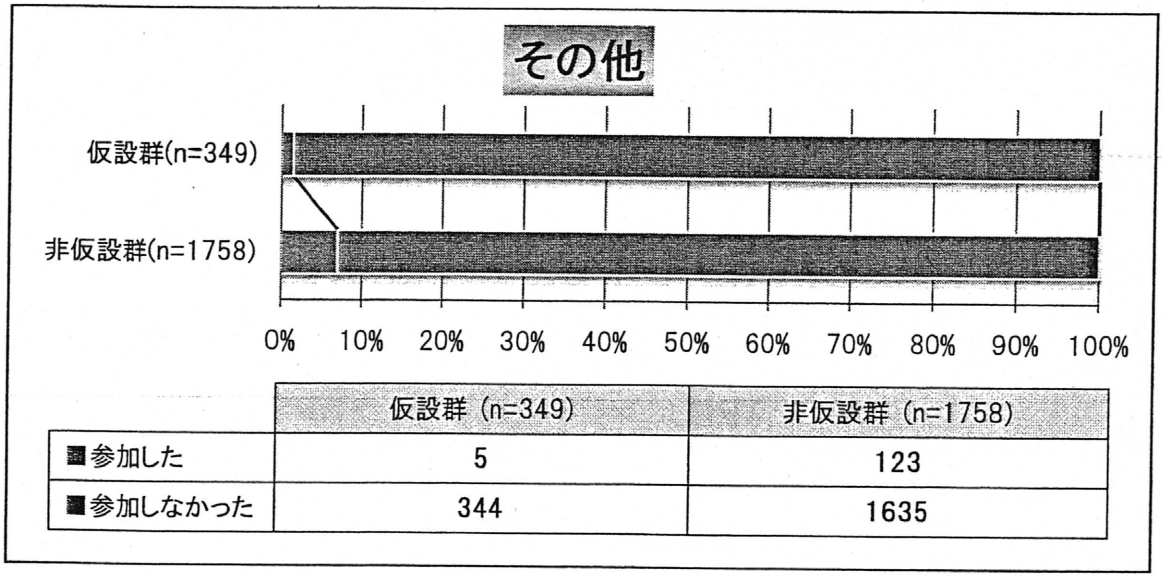
	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■利用した	73	72
■利用しなかった	276	1686

仮設群における訪問サービスを受けた割合は 20.9%で、非仮設群で 4.1%であった。



	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■参加した	77	73
■参加しなかった	272	1685

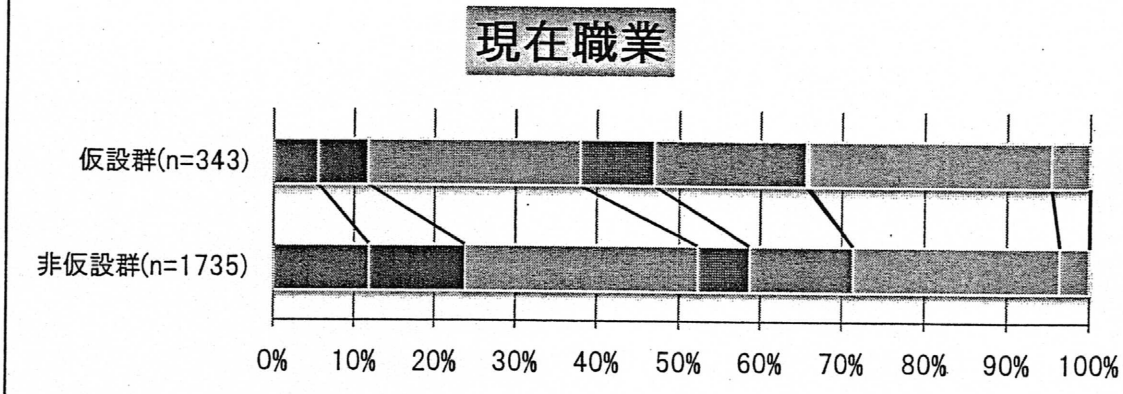
地域の座談会・講演会に参加した割合は、仮設群で 20%以上、非仮設群で 4.2%であった。これは、これらが仮設住宅居住者を対象にしたものが多かったからだと推測される。



	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■参加した	5	123
■参加しなかった	344	1635

その他のサービスを受けたものは非仮設群のほうが仮設群より多かった。

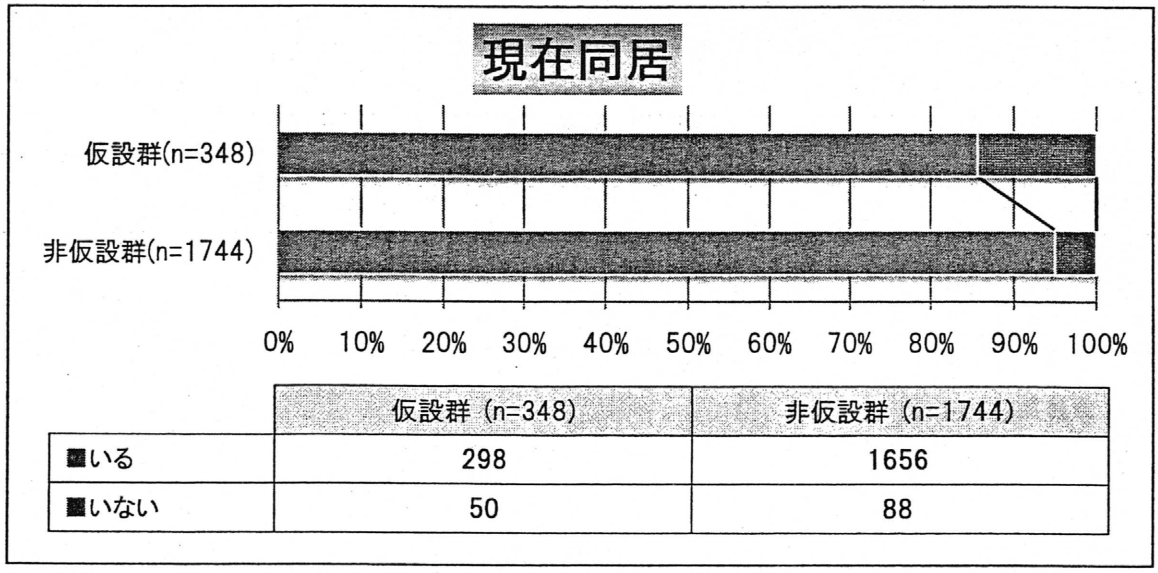
問18. 現在のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=343)	非仮設群 (n=1735)
■農業・酪農・養鯉などの生産業	19	205
■生産業以外の自営業	21	208
■会社員・会社役員・公務員	90	495
■パート・アルバイト	31	111
■専業主婦	64	220
■学生	1	0
■無職	101	433
■その他	16	63

現在の職業において、震災時の職業を比べてみると、生産業の割合が非仮設群の方が仮設群より高くなり著しい変化を見せている。これは、仮設群における職業分布が崩れたことを意味している。

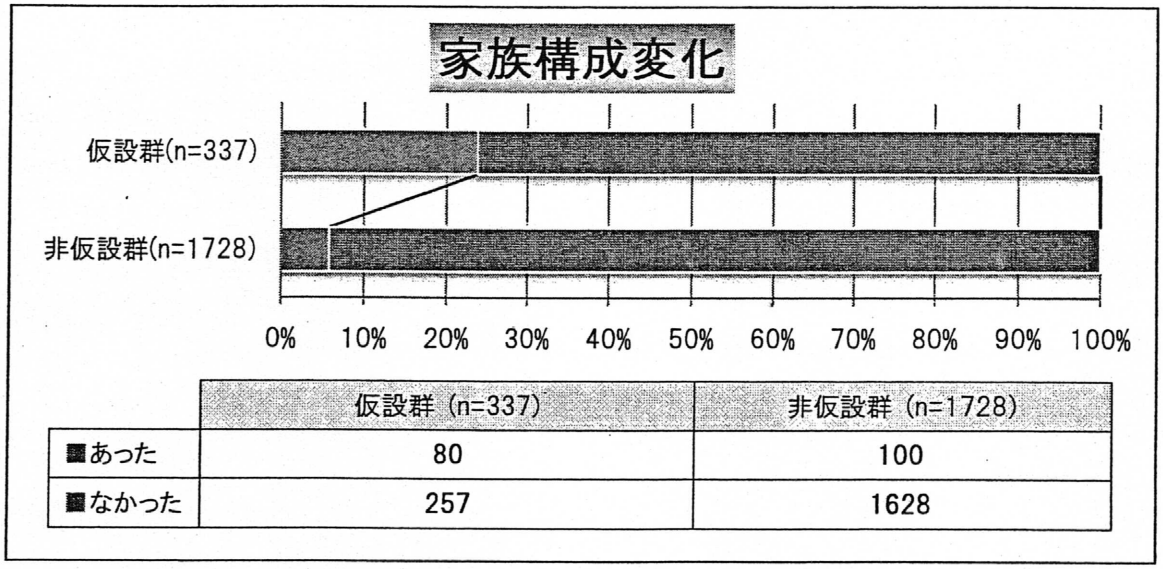
問19. 現在、同居している家族はいますか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=348)	非仮設群 (n=1744)
■いる	298	1656
■いない	50	88

現在、誰かしらと同居しているのは、仮設群で 85.6%、非仮設群では 95.0%であった。

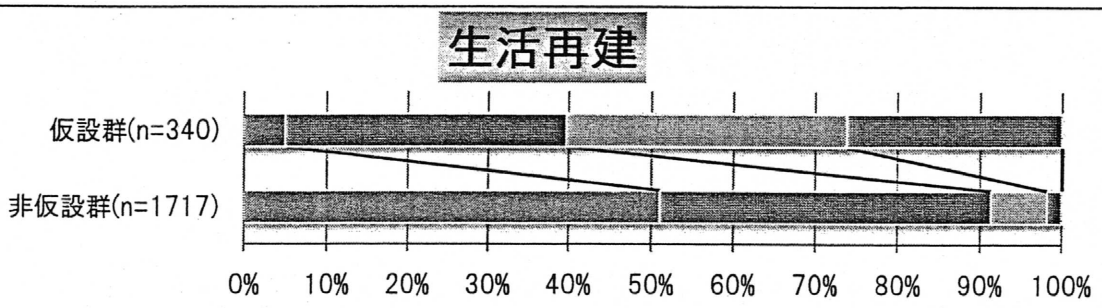
問20. 震災が原因で家族構成に変化がありましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=337)	非仮設群 (n=1728)
■あった	80	100
■なかった	257	1628

震災後に家族構成変化があったものの割合は、仮設群で 23.7%、非仮設群で 5.8%であった。この家族変化が震災の影響によるものかどうかについては詳細な検討が必要である。

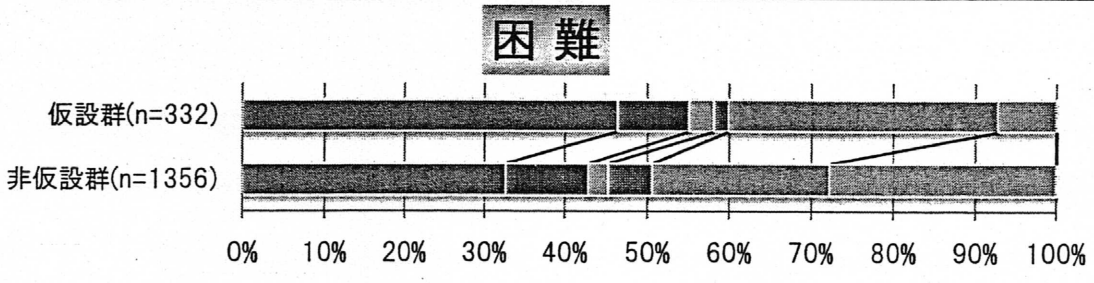
問21. 生活再建の程度はどうですか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=340)	非仮設群 (n=1717)
■震災前に戻った	17	877
■だいたい戻った	118	691
■あまり戻っていない	116	118
■全く戻っていない	89	31

震災後の生活再建の状況については、仮設群においては 26.2%が「全く戻っていない」と感じており、「震災前に戻った」と感じているものは 5%であった。一方で、非仮設群では半数以上のものが「震災前に戻った」と感じていた。「震災前に戻った」・「だいたい戻った」では、仮設群で約 40%、非仮設群では 90%を超えた。仮設群と非仮設群での捉え方の差が浮き彫りになった。

問22. 現在、一番お困りのことは何ですか。ひとつだけ選んでください。

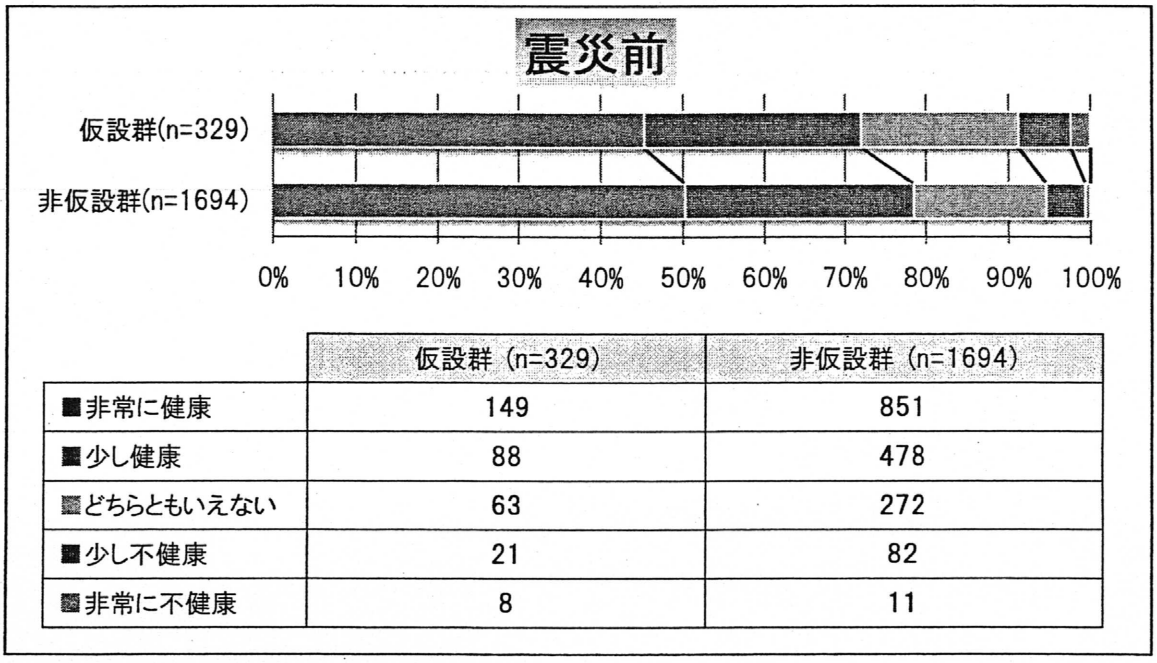


	仮設群 (n=332)	非仮設群 (n=1356)
■生活費などの金銭的な問題	154	442
■健康状態の悪化	29	139
■家庭内の人間関係	10	33
■職業上の問題	6	72
■住居の問題	109	293
■その他	24	377

生活における最も深刻な困難は、仮設群においては金銭面での困難が多く、46.4%であった。また、住居の問題も 32.8%であった。非仮設群においても、金銭的な問題が多く見られた。

問23－1. こころの健康状態はどうでしたか。

あてはまるものをひとつだけ選んでください。（震災前）

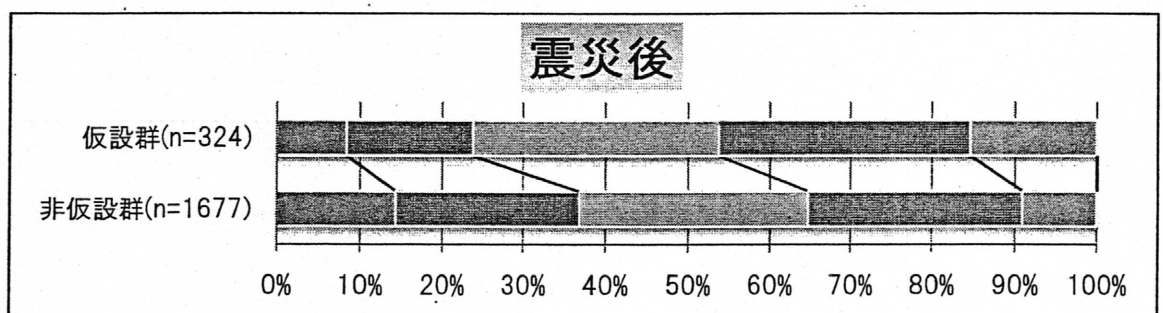


	仮設群（n=329）	非仮設群（n=1694）
■非常に健康	149	851
■少し健康	88	478
■どちらともいえない	63	272
■少し不健康	21	82
■非常に不健康	8	11

震災前の主観的健康度は、仮設群のほうが不健康だと感じている傾向はあるが、非仮設群においても同じような分布を示している。

問23－2. こころの健康状態はどうでしたか。

あてはまるものをひとつだけ選んでください。（震災直後～1 週間後）

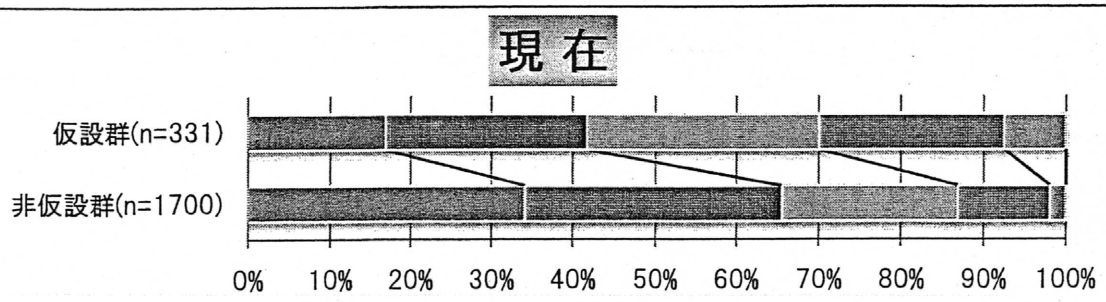


	仮設群（n=324）	非仮設群（n=1677）
■非常に健康	27	239
■少し健康	50	379
■どちらともいえない	97	468
■少し不健康	100	439
■非常に不健康	50	152

震災後の主観的健康度は、両群において全体的に不健康になっている。

問23－3. こころの健康状態はどうでしたか。

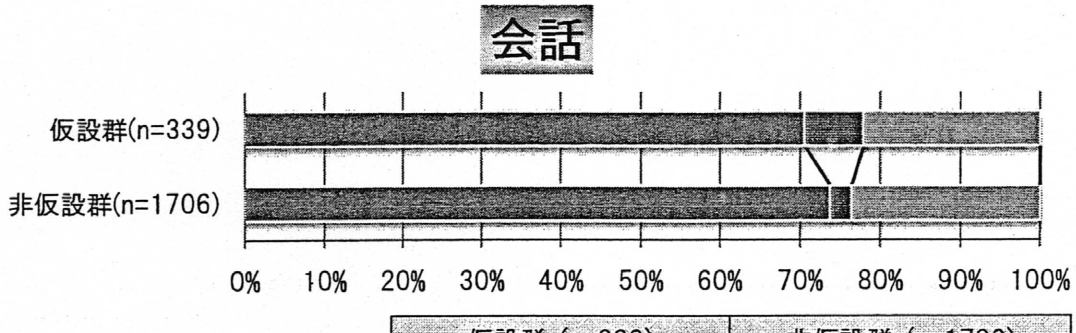
あてはまるものをひとつだけ選んでください。（現在）



	仮設群（n=331）	非仮設群（n=1700）
■非常に健康	56	580
■少し健康	82	535
■どちらともいえない	94	361
■少し不健康	74	191
■非常に不健康	25	33

調査時点での主観的健康度は、両群において震災後の主観的健康度より改善が見られるが、震災前の主観的健康度と比べてまだ不健康な傾向がある。特に仮設群においては、非仮設群と比べ回復していないことが示唆される。

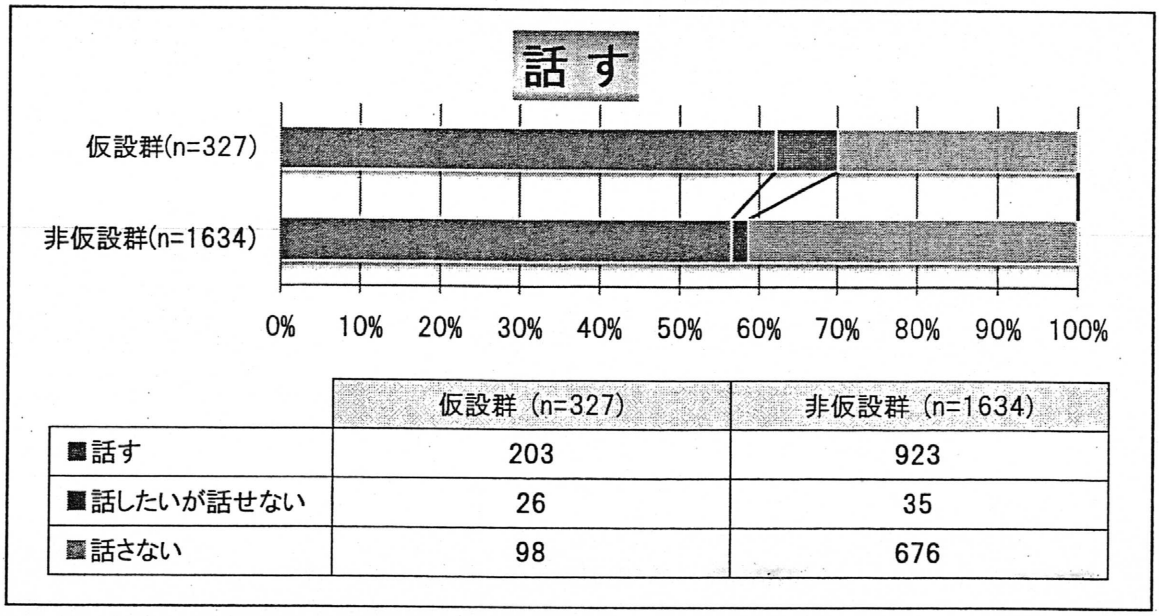
問24. 震災後、つらさや苦労を誰かに話しましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群（n=339）	非仮設群（n=1706）
■話した	239	1258
■話したかったが話せなかった	25	45
■話さなかった	75	403

震災について、誰かとその経験や問題のつらさや苦労について会話をしたかについては、両群とも70%以上が会話していた。特筆すべきは、仮設群は「話したかったが話せなかった」の割合が 7.4%あり、非仮設群と比べ 2.8 倍高いことである。

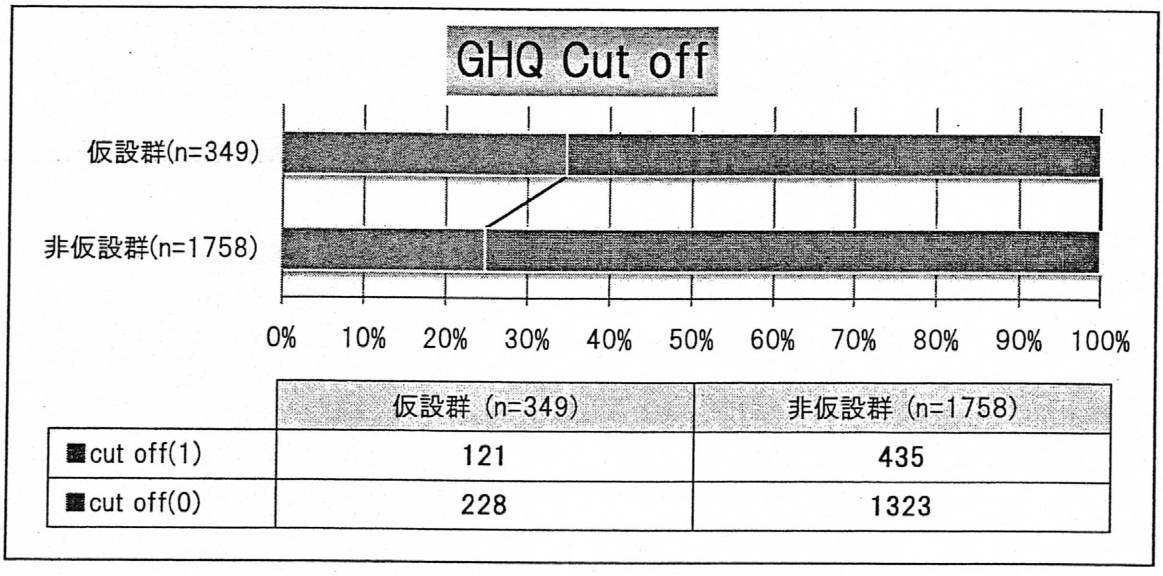
問25. 現在、つらさや苦労を誰かに話しますか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=327)	非仮設群 (n=1634)
■話す	203	923
■話したいが話せない	26	35
■話さない	98	676

調査時点でのつらさや苦労を誰かに話す割合は、仮設群で約 62%、非仮設群で約 57%であり問24の震災後より減少していた。また、話したいが話せない割合は、非仮設群では約 2.1%、仮設群では約 8%と仮設群が約 4 倍高くなっていた。

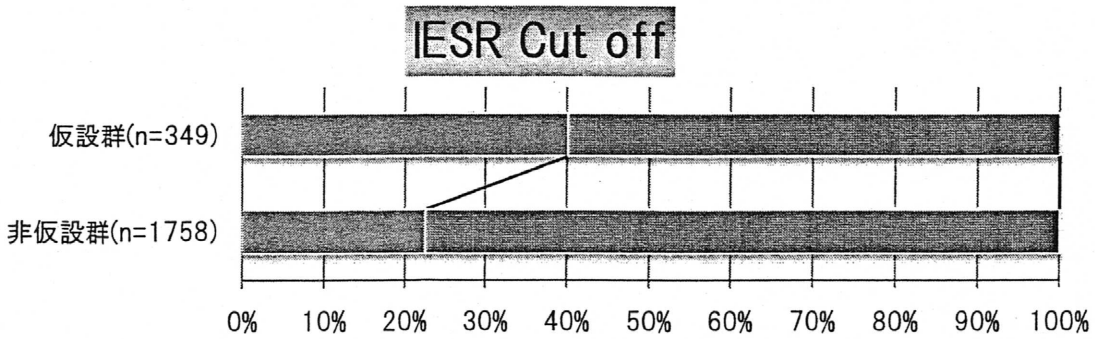
問26(1～12). あなたは現在、次にあげる状態をどのくらい体験し、感じ、思いますか。
あてはまるものをひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
■cut off(1)	121	435
■cut off(0)	228	1323

全般的精神健康度を計る GHQ のカットオフポイントを超えた割合は、仮設群で 34.7%、非仮設群で 24.7%であった。仮設群のほうがより高い割合を示し、仮設にいることがリスクを高めている可能性が示唆される。一方で、非仮設群においても、平時と比べ高い割合を示している。これに注意する必要がある。

問27(1～22). 中越地震に関して、この一週間で、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まれましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。(答えに迷われた場合は、不明とせずに最も近いと思うものを選んでください。)



	仮設群 (n=349)	非仮設群 (n=1758)
cut off(1)	140	396
cut off(0)	209	1362

外傷後ストレス障害のスクリーニングで私用される IES-R のカットオフポイント超えた割合は、仮設群で 40.1%、非仮設群で 22.5%であった。仮設群のほうがより高い割合を示し、仮設にいることがリスクを高めている可能性が示唆される。一方で、非仮設群においても、平時と比べ高い割合を示している。これに注意する必要がある。

(2)結果および考察

全般的に仮設群において、震災前後の生活環境の変化が見られた。これは、居住地が変わったという事実だけでなく、それに伴う生活の苦しさへの直面も示唆されている。また、家族構成の変化、怪我や病気などの身体的な問題、主観的健康観の低さなども仮設群では非仮設群よりも多く見られた。さらに、GHQ や IES-R で陽性とされた被災者の割合も、仮設群により多く見られた。

本調査では、震災 2 年後においても、被災者は精神保健上の問題を抱えていることが明らかになった。加えて、仮設に居住している被災者はよりリスクが高いことが示された。今後、彼らに対する効果的な支援が求められる。一方で、非仮設群においてもある一定程度精神保健上の問題が観察された。仮設群に隠れ支援が届きにくく、行政サービスを受けた割合も仮設群より低い。これは、単に問題がないというよりは、情報が届きにくかった可能性もある。両群における更なる包括的な精神保健福祉に関連する支援体制が必要であることが示された。そのためには、既存の支援や保健活動の中に精神保健福祉を統合していくことが重要だと思われる。具体的には、保健師活動の中に精神保健福祉を一つの柱として統合していくことなどが求められる。

2 子ども編

(1)世帯主の精神保健と子どものPTSD症状の比較

①分析方法:

本研究では、世帯主の仮設住宅経験有無、世帯主の全般的精神健康(GHQ12)、世帯主のPTSD症状(IES-R)と、その家庭の子どものPTSDの各症状と全体的PTSD症状(PTSSC15)とを比較した。つまり、世帯主の精神保健状態とその家庭の子どものPTSD症状との関連を見ることを目的としている。

統計方法としては、仮設住宅経験の有無、およびGHQとIES-Rのスクリーニングカットオフポイントで2群に分類し、2群間における子どものPTSD症状をノンパラメトリック検定(Mann-Whitneyの*U*検定)で比較した。これは、2群間におけるこどものPTSD症状の各データが正規分布しておらず、そのデータの分散が大きいためである。通常、平均値の比較をする場合、*t*検定が行われるが、データのバラツキが大きい際に平均値の比較は適当でない。なぜなら、少数の例外的な大きな(あるいは小さな)データが全体のデータをゆがめる恐れがあるからである。この場合、平均値の比較ではなく、中央値の比較が最適となる。中央値とは、対象者のちょうど50%に位置する得点である。よって、連続量としての比較ではなくノンパラメトリックデータ(ここでは順序尺度)としての比較となる。100人のデータであれば、50位に位置する者の得点が中央値となる。その中央値と四分位(25%および75%に位置する得点)で群間の比較を行う。

②世帯主の仮設住宅経験の有無によるその子どものPTSD症状の比較

PTSSC1「眠れない」:両群において中央値、四分位とも0であったが、非仮設群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC2「いやな夢や怖い夢を見る」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC3「気分が沈む」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC4「小さな音でもびくっとする」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC5「いらいらしやすい」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC6「人と話す気にならない」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC7「おちつかない」:両群間において有意な差はみられなかったが、非仮設群の方が高スコアの傾向があった。

PTSSC8「嫌なことを思い出させる場所や人や物事を避ける」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC9「からだが緊張しやすい」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC10「自分を責める」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC11「思い出したくないのに、いやなことを思い出す」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC12「食欲がない」:両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC13「集中できない」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC14「頭やおなかが痛い」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC15「なにか不安だ」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC 合計：非仮設の世帯主の子どものほうが、仮設住宅経験者の世帯主の子どもより、有意に高いスコアであった。

まとめ：「眠れない」で有意、「落ちつかない」傾向が非仮設の世帯主の子どもの方で明らかにされた。また、合計点で見ると、非仮設の世帯主の子どものほうが高い得点を示した。仮設居住経験者だけでなく、非仮設においても支援体制を組み、具体的なケア対策を講じる必要性が示唆された。これは、新潟県では仮設入居にあたり、各地区別に抽選会を行い、地域住民を分散するのではなく、近隣者同士で入居できるよう配慮がなされた。それによって震災前と同様、若しくは震災以前よりも住民同士がコミュニケートできる機会が増え、安心感、連帯感といったソーシャルサポートが得られたためだと考えられる。

③世帯主の GHQ スコアにおけるカットオフ以上（GHQ+）とカットオフ未満者（GHQ-）の子どもの PTSD 症状の比較
PTSSC1「眠れない」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC2「いやな夢や怖い夢を見る」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC3「気分が沈む」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC4「小さな音でもびくっとする」：両群間において GHQ＋群の方が有意に高いスコアを示した。
PTSSC5「いらいらしやすい」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC6「人と話す気にならない」：両群間において GHQ＋群の方が有意に高いスコアを示した。
PTSSC7「おちつかない」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC8「嫌なことを思い出させる場所や人や物事を避ける」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC9「からだが緊張しやすい」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC10「自分を責める」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC11「思い出したくないのに、いやなことを思い出す」：両群間において GHQ＋群の方が有意に高いスコアを示した。
PTSSC12「食欲がない」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC13「集中できない」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC14「頭やおなかが痛い」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC15「なにか不安だ」：両群間において有意な差はみられなかった。
PTSSC 合計：GHQ+の世帯主の子どもの方が、GHQ-の世帯主の子どもに比べて、有意に高いスコアであった。

まとめ：GHQ+の世帯主の子どもの方が、GHQ-の世帯主の子どもに比べて、よりPTSD 症状が強いことが明らかになった。世帯主の一般精神健康が子どものPTSD 症状にも影響を与えている可能性があることが示唆された。同程度の震災のインパクトがあった可能性や、世帯主の精神健康状態が悪いと、子どもの精神健康状態を見逃しやすいといった点、子どもの精神健康状態を改善するような家族のサポートなどを提供しにくいという点が、このような結果に影響を与えた可能性もある。今後、個人だけではなく、家族へのアプローチが必要であるだろう。

④世帯主のIES-R スコアにおけるカットオフ以上（IES-R+）とカットオフ未満者（IES-R-）の子どものPTSD 症状の比較

PTSSC1「眠れない」：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC2「いやな夢や怖い夢を見る」：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC3「気分が沈む」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC4「小さな音でもびくっとする」：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC5「いらいらしやすい」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC6「人と話す気にならない」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC7「おちつかない」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC8「嫌なことを思い出させる場所や人や物事を避ける」：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC9「からだが緊張しやすい」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC10「自分を責める」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC11「思い出したくないのに、いやなことを思い出す」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC12「食欲がない」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC13「集中できない」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC14「頭やおなかが痛い」：両群間において有意な差はみられなかった。

PTSSC15「なにか不安だ」：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

PTSSC 合計：IES-R+群のほうが有意に高いスコアであった。

まとめ：IES-R+の世帯主の子どもはPTSD 症状が強いことが明らかになった。同程度の震災のインパクトがあったことが予想されるが、それに加えて、世帯主のPTSD 症状のため家庭における子どもへのサポートが十分に機能しなったことなどが理由として考えられる。また、特に過覚醒の症状が特徴として示唆された。これらに注目し、今後の支援体制を構築していく必要がある。

	仮設住宅居住経験							世帯主の全般的精神保健							世帯主のPTSD症状						
	仮設(n=47)		非仮設(n=350)		Z	U		GHQ+ (n=147)		GHQ− (n=251)		Z	U		IES-R+ (n=89)		IES-R− (n=309)		Z	U	
	中央値	四分位	中央値	四分位				中央値	四分位	中央値	四分位				中央値	四分位	中央値	四分位			
PTSSC1 眠れない	0	0-0	0	0-0	-2.30	7074.00	*	0	0-0	0	0-0	-0.57	17649.5		0	0-3.00	0	0-0	-3.05	11483.50	**
PTSSC2 いやな夢や怖い夢を見る	0	0-0	0	0-.25	-1.40	7458.00		0	0-.25	0	0-0	-0.33	18055.5		0	0-3.00	0	0-0	-2.33	11956.50	*
PTSSC3 気分が沈む	0	0-0	0	0-0	-1.03	7851.50		0	0-0	0	0-0	-0.34	18199.0		0	0-0	0	0-0	0.60	13318.00	
PTSSC4 小さな音でもびくっとする	0	0-0	0	0-1.00	-0.14	8146.50		0	0-2.00	0	0-0	-2.47	16278.5	*	0	0-2.00	0	0-0	-2.21	12086.50	*
PTSSC5 いらいらしやすい	0	0-0	0	0-0	-1.34	7896.00		0	0-0	0	0-0	-0.12	18210.0		0	0-0	0	0-0	-0.76	13329.50	
PTSSC6 人と話す気にならない	0	0-0	0	0-.50	-0.92	7691.50		0	0-2.00	0	0-0	-4.05	14965.5	**	0	0-2.00	0	0-0	-1.14	12745.00	
PTSSC7 おちつかない	0	0-0	0	0-0	-1.95	7227.00	†	0	0-0	0	0-0	-1.60	17109.5		0	0-0	0	0-0	-0.90	13078.50	
PTSSC8 嫌なことを思い出させる場所や人や物事を避ける	0	0-0	0	0-0	-0.23	8124.00		0	0-0	0	0-0	-1.24	17551.5		0	0-2.00	0	0-0	-4.17	11319.00	**
PTSSC9 からだが緊張しやすい	0	0-0	0	0-0	-0.04	8183.50		0	0-0	0	0-0	-0.65	17752.5		0	0-0	0	0-0	-0.20	13423.00	
PTSSC10 自分を責める	0	0-0	0	0-0	-1.23	7719.50		0	0-0	0	0-0	-0.04	18349.5		0	0-0	0	0-0	-0.50	13439.50	
PTSSC11 思い出したくないのに、いやなことを思い出す	0	0-0	0	0-0	-1.24	7396.50		0	0-1.00	0	0-0	-2.22	16482.5	*	0	0-.75	0	0-0	-1.36	12613.50	
PTSSC12 食欲がない	0	0-0	0	0-0	-0.20	8147.50		0	0-0	0	0-0	-0.50	18046.5		0	0-0	0	0-0	-0.13	13507.00	
PTSSC13 集中できない	0	0-0	0	0-0	-1.55	7416.50		0	0-0	0	0-0	-1.57	17027.0		0	0-0	0	0-0	-0.04	13483.00	
PTSSC14 頭やおなかが痛い	0	0-0	0	0-0	-0.07	8196.00		0	0-0	0	0-0	-1.30	17603.0		0	0-0	0	0-0	-0.25	13575.00	
PTSSC15 なにか不安だ	0	0-0	0	0-0	-1.53	7464.00		0	0-0	0	0-0	-1.56	17137.0		0	0-1.00	0	0-0	-2.94	11844.00	**
合計	0	0-8.00	3.00	0-11.00	-1.92	6854.50	†	3.00	0-13.00	3.00	0-9.00	-2.54	15663.5	*	6.00	0-13.00	3.00	0-9.00	-3.02	10927.00	**

** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$

Ⅲ 資 料

1 調査依頼文

整	理	番	号
			1

新潟県中越大震災被災者こころのケア調査

—— 調査の趣旨とご協力のお願い ——

新 潟 県 福 祉 保 健 部
新潟県精神保健福祉協会(こころのケアセンター)

先の新潟県中越大震災により被災された皆様には、心からお見舞い申しあげます。
震災から2年が経ち、被災地では、本格的な生活再建・地域復興が進んでいることと思います。

このたび、新潟県では、今後の心身の健康状態等に対する施策のあり方を検討するため、新潟県精神保健福祉協会(こころのケアセンター)と共同して、標記調査を行うこととといたしました。本調査は、今回の大震災により被災された長岡市、小千谷市、十日町市、見附市、川口町の各市町にお住まいの方を対象として実施するものです。

ご回答いただきました方の個人的な名前や内容は、一切外部には出さないことをお約束いたしますので、率直なお気持ちをお聞かせいただきたいと存じます。

ご多忙のおりご面倒とは存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本調査は株式会社タイム・エージェントに委託し行います。委託先職員が家庭訪問いたしますので、よろしくお願いします。

平成18年11月

＜ ご記入にあたってのお願い ＞

1. 記入は、調査員が指定した方本人がご記入下さい。
2. 記入は、黒または青の鉛筆・ペン・ボールペンでお願いします。
3. ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。○の数は、ひとつだけ、あてはまるものをすべて、など設問ごとに指示がありますので、指示に沿ってご回答ください。
4. ご回答で、「その他( )」を選ばれた場合は、なるべく具体的な内容を( )に記入して下さい。
5. 質問によっては、ご回答していただく方を限定するものがありますので、質問文等をよくお読み下さい。
6. 調査内容や記入方法など、ご不明な点がありましたら、下記のお問い合わせ先電話番号(調査事務局)までお願いします。

新潟県精神保健福祉協会(こころのケアセンター)
〒950－0994 新潟県新潟市上所2－2－3

＜お問い合わせ先電話番号＞

調査事務局:0120－937－946

(平日午前9時30分～午後6時まで)

整理番号					
					1

新潟県中越大震災被災者こころのケア調査

ご記入いただいた調査票は、

＿＿＿月＿＿＿日（＿＿＿曜日）午前・午後＿＿＿時頃

に受け取りにおうかがいします。

ご記入の上、この封筒に入れて調査員にお渡し下さい。

回収にうかがう調査員は＿＿＿＿＿＿です。

調査票記入に関するお問い合わせは、
下記のお問い合わせ先電話番号（調査事務局）へお願いします。

新潟県精神保健福祉協会（こころのケアセンター）
〒950－0994 新潟県新潟市上所2－2－3

＜お問い合わせ先電話番号＞
調査事務局：0120－937－946
（平日午前9時30分～午後6時まで）

2 調査員証明書

＜表面＞

No.＿＿＿＿　**調 査 員 証 明 証**

（有効期間 平成18年11月1日～11月30日）

氏 名 ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記の者は、新潟県福祉保健部および新潟県精神保健福祉協会（こころのケアセンター）が実施する「新潟県中越大震災被災者こころのケア調査」の調査員であることを証明する。

平成18年11月1日

新 潟 県 福 祉 保 健 部

新潟県精神保健福祉協会（こころのケアセンター）

〒950－0994 新潟県新潟市上所2－2－3

＜裏面＞

【注意】

1. 調査員は、調査にあたって常に本証を携帯し、関係者の請求があったときは提示すること。
2. 本証は、他人に貸与または譲渡してはならない。
3. 本証は、調査の目的以外に使用してはならない。
4. 本証を紛失したときは、直ちに調査事務局に申し出て、指示を受けること。
5. 本証は、調査完了後、直ちに調査事務局の責任者に返却すること。

3　世帯主用アンケート用紙

あなたご自身のことについておうかがいします

問1. あなたの性別は。ひとつだけ選んでください。

1. 男性	2. 女性

問2. あなたの年齢は。

（　　）歳　（平成18年10月末現在）

問3. あなたの現在の婚姻状態は。ひとつだけ選んでください。

1. 未婚	2. 既婚	3. 死別・離婚後

問4. 震災時のあなたの住所は。ひとつだけ選んでください。

1. 長岡市（旧越路町・旧山古志村を除く）	5. 川口町
2. 小千谷市	6. 旧越路町
3. 見附市	7. 旧山古志村
4. 十日町市	8. その他（　　）

問5. 震災時のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。

1. 農業・酪農・養鯉などの生産業	5. 専業主婦
2. 生産業以外の自営業	6. 学生
3. 会社員・会社役員・公務員	7. 無職
4. パート・アルバイト	8. その他（　　）

問6. 震災前にあなたと同居していたご家族は。ひとつだけ選んでください。

1. あり	2. なし

地震のときの状況についておうかがいします

問7. 最初の地震が発生したとき、誰かと一緒にいましたか。ひとつだけ選んでください。

1. はい	2. いいえ

問8. 最初の地震や余震に対する恐怖感はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。

1. 全く恐怖を感じなかった	3. 少し恐怖を感じた
2. あまり恐怖を感じなかった	4. 非常に恐怖を感じた

問9. 地震後、あなたのお住まいの被害はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。

1. 被害を受けなかった	→	問10へ
2. 少し被害を受けた 3. 住めなくないが大きな被害を受けた 4. ほぼ全壊に近い被害を受けた 5. 全壊した	→	問9－1へ

問9で「2」～「5」と回答された方のみ、ご回答ください

問9－1. 住まいの被害はどう認定されましたか。ひとつだけ選んでください。

1. 認定なし	3. 半壊
2. 一部損壊	4. 全壊

問10. 地震直後、最初にどこへ避難しましたか。ひとつだけ選んでください。

1. 公共の避難所	5. 車庫
2. 自動車	6. テント
3. 親族・友人・知人宅	7. その他（　　）
4. 自宅	

問11. 震災時にけがをされましたか。ひとつだけ選んでください。

1. けがをしなかった 2. けがをしたが治療は受けなかった	→	4ページ 問12へ
3. けがのため治療を受けた 4. けがのため入院した	→	問11－1へ

問11で「3」または「4」と回答された方のみ、ご回答ください

問11－1. そのけがについては、現在も治療中ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 治療中	2. 治療終了

問12. 震災後に病気をなさいましたか。ひとつだけ選んでください。

1. 病気をしなかった 2. 病気をしたが治療は受けなかった	→	問13へ
3. 病気のため治療を受けた 4. 病気のため入院した	→	問12－1へ

問12で「3」または「4」と回答された方のみ、ご回答ください

問12－1. その病気については、現在も治療中ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 治療中	2. 治療終了

問13. 震災後、不眠・不安・気分の落ち込みなど精神的な症状がひどい時期はありましたか。ひとつだけ選んでください。

1. なかった	3. 一時治療を受けた
2. あったが治療は受けなかった	4. 今も治療を受けている

震災後の行政サービスついておうかがいします

問14. 震災後、どのような行政サービスを受けましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 資金援助	8. 育児・教育に関する相談
2. 物資の配給	9. 身体に関する健康相談
3. 税金に関する相談	10. こころの健康相談
4. 住居に関する相談	11. 訪問サービス
5. 職業に関する相談	12. 地域の座談会・講演会
6. 帰宅支援に関する相談	13. その他(　　)
7. 高齢者・障害者へのサービス	

問15. どのような行政サービスが役立ちましたか。あてはまるものを3つまで選んでください。

1. 資金援助	8. 育児・教育に関する相談
2. 物資の配給	9. 身体に関する健康相談
3. 税金に関する相談	10. こころの健康相談
4. 住居に関する相談	11. 訪問サービス
5. 職業に関する相談	12. 地域の座談会・講演会
6. 帰宅支援に関する相談	13. その他(　　)
7. 高齢者・障害者へのサービス	

問16. 今後、心身の健康のためのサービスとしてどのようなものが必要であると思いますか。

ご自由にお書きください

現在の状況についておうかがいします

問17. 現在の生活場所はどこですか。ひとつだけ選んでください。

1. 自宅(震災前と同じ) 2. 新築・改築または移転した自宅 3. 仮設住宅から自宅(新築・改築または移転した自宅)	→	問18へ
4. 仮設住宅 5. 親族・友人・知人宅	→	問17−1へ
6. 復興住宅 7. その他(　　)	→	問18へ

問17で「4」または「5」と回答された方のみ、ご回答ください

問17−1. 今後の生活場所は決まっていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 決まっている	→	問17−1−1へ
2. 決まっていない	→	問17−1−2へ

問17−1で「1」と回答された方のみ、ご回答ください

問17−1−1. 今後の生活場所はどのようにされますか。ひとつだけ選んでください。

1. 自宅に戻る	3. 他の地域に転出する
2. もとの居住地に新築する	4. その他(　　)

問17−1の回答に「2」と回答された方のみ、ご回答ください

問17−1−2. 今後の生活場所についてどのように希望していますか。ひとつだけ選んでください。

1. もとの居住地に戻りたい
2. 他の地域に転出したい
3. できるだけ長く仮設住宅での生活を続けたい
4. その他(　　)

問18. 現在のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。

1. 農業・酪農・養鯉などの生産業	5. 専業主婦
2. 生産業以外の自営業	6. 学生
3. 会社員・会社役員・公務員	7. 無職
4. パート・アルバイト	8. その他(　　)

問19. 現在、同居している家族はいますか。ひとつだけ選んでください。

1. いる	2. いない

問20. 震災が原因で家族構成に変化がありましたか。ひとつだけ選んでください。

1. あった	2. なかった

問21. 生活再建の程度はどうですか。ひとつだけ選んでください。

1. 震災前に戻った	3. あまり戻っていない
2. だいたい戻った	4. 全く戻っていない

問22. 現在、一番お困りのことは何ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 生活費などの金銭的な問題	4. 職業上の問題
2. 健康状態の悪化	5. 住居の問題
3. 家庭内の人間関係	6. その他(　　)

こころの健康状態についておうかがいします

問23. こころの健康状態はどうでしたか。「震災前」、「震災直後～1週間後」、「現在」の状況にわけて、あてはまるものをひとつだけ選んでください。

	非常に健康	少し健康	どちらともいえない	少し不健康	非常に不健康
1. 震災前	1	2	3	4	5
2. 震災直後～1 週間後	1	2	3	4	5
3. 現在	1	2	3	4	5

問24. 震災後、つらさや苦労を誰かに話しましたか。ひとつだけ選んでください。

1. 話した 2. 話したかったが話せなかった	→	問25へ
3. 話さなかった	→	問24－1へ

問24で「3」と回答された方のみ、ご回答ください

問24－1. つらさや苦労を話さなかった理由は何ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 話したくなかった	3. 話す必要がなかった
2. 話しても仕方がないと思った	4. その他(　　)

問25. 現在、つらさや苦労を誰かに話しますか。ひとつだけ選んでください。

1. 話す 2. 話したいが話せない	→	9ページ 問26へ
3. 話さない	→	問25－1へ

問25で「3」と回答された方のみ、ご回答ください

問25－1. つらさや苦労を話さなかった理由は何ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 話したくない	3. 話す必要がない
2. 話しても仕方がないと思う	4. その他(　　)

問26. あなたは現在、次にあげる状態をどのくらい体験し、感じ、思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

	まったくできない	いつもよりできない	いつもと変わらずできる	いつもよりできる
1. 何かをする時、集中することが	1	2	3	4
2. 自分のしていることに生きがいを感じることが	1	2	3	4
3. 容易に(さっさと)物事を決めることが	1	2	3	4
4. 日常生活を楽しく送ることが	1	2	3	4
5. 問題を積極的に解決しようとすることが	1	2	3	4

	たびたびある	ある	あまりない	まったくない
6. 心配事があって眠れないことが	1	2	3	4
7. ストレスを感じることが	1	2	3	4
8. 問題を解決できなくて困ることが	1	2	3	4
9. 気が重くてゆううつになることが	1	2	3	4
10. 自信を失うことが	1	2	3	4
11. 自分は役に立たない人間だと考えることが	1	2	3	4
12. 一般的に見て、しあわせと感じることが	1	2	3	4

問27. 中越地震に関して、この一週間で、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。（答えに迷われた場合は、不明とせずに最も近いと思うものを選んでください。）

	全くなし	少し	中くらい	かなり	非常に
1. どんなきっかけでも、地震のことを思い出すとそのときの気持ちがぶり返してくる	1	2	3	4	5
2. 睡眠の途中で目が覚めてしまう	1	2	3	4	5
3. 別のことをしていても、地震のことが頭から離れない	1	2	3	4	5
4. イライラして、怒りっぽくなっている	1	2	3	4	5
5. 地震のことについて考えたり思い出すときは、何とか気持ちを落ち着かせるようにしている	1	2	3	4	5
6. 考えるつもりはないのに、地震のことを考えてしまうことがある	1	2	3	4	5
7. 地震は、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする	1	2	3	4	5
8. 地震のことを思い出させるようなものには、近寄らない	1	2	3	4	5
9. 地震の場面が、いきなり頭に浮かんでくる	1	2	3	4	5
10. 神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきっとしてしまう	1	2	3	4	5
11. 地震のことは考えないようにしている	1	2	3	4	5
12. 地震のことについては、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようにしている	1	2	3	4	5
13. 地震のことについての感情は、マヒしたようである	1	2	3	4	5
14. 気がつくと、まるで地震のときに戻ってしまったかのようにふるまったり、感じたりする	1	2	3	4	5
15. 寝つきが悪い	1	2	3	4	5
16. 地震のことについて、感情が強くこみ上げてくることがある	1	2	3	4	5
17. 地震のことを何とか忘れようとしている	1	2	3	4	5
18. 物事に集中できない	1	2	3	4	5
19. 地震のことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある	1	2	3	4	5
20. 地震のことについての夢を見る	1	2	3	4	5
21. 警戒して用心深くなっている気がする	1	2	3	4	5
22. 地震のことについては話さないようにしている	1	2	3	4	5

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。ご記入いただいた調査票は、配付の際に入っていた封筒に戻し、回収のため訪問する調査員にお渡しください。

4　子ども用アンケート用紙

整	理	番	号

あなたの体の調子やきもちなどについて質問します。

わからないところは家族の人にきいて答えてください。

あてはまるものに○をつけてください。

問1. 問1. あなたの性別は。ひとつだけ選んでください。

1. 男	2. 女

問2. 問2. あなたは何年生ですか。ひとつだけ選んでください。

1. 小学1年生	2. 小学2年生	3. 小学3年生
4. 小学4年生	5. 小学5年生	6. 小学6年生
7. 中学1年生	8. 中学2年生	9. 中学3年生

問3. 問3. あなたが一緒に住んでいる人はだれですか。あてはまる人をすべて選んでください。

1. おじいさん	2. おばあさん	3. お父さん
4. お母さん	5. お兄さん	6. お姉さん
7. おとうと	8. いもうと	9. おじさん
10. おばさん	11. その他(　　)	

問4. 問4. 地震の後、一番心配したことはなんですか。ひとつだけ選んでください。

1. 家族のこと	2. 学校や勉強のこと
3. 友だちのこと	4. 家やものがこわれたこと
5. 病気やケガのこと	6. その他(　　)
7. とくに心配したことはない	

問5. 問5. 次のそれぞれの質問に①「はい」か「いいえ」のどちらか決めて、②次にどれくらいかを考えて、

③それからあてはまるところにひとつだけ○を選んでください。

	はい			いいえ		
質問	ひじょうに	かなり	少し	少し	かなり	ひじょうに
1. ねむれない(寝つきがわるい・夜中に目がさめる)	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
2. いやな夢やこわい夢をみる	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
3. 気分がしずむ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
4. 小さな音でもびくっとする	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
5. 人と話す気にならない	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
6. いらいらしやすい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
7. 気持ちが動揺しやすい(落ち着かない)	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
8. いやなことを思いださせる場所や人や物事を避ける	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
9. からだが緊張しやすい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
10. 自分を責める(自分のせいでわるいことが起こったと思う)	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
11. 思い出したくないのに、いやなことを思い出す	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
12. 食欲がない	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
13. ものごと(勉強など)に集中できない	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
14. 頭やおなかが痛い	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
15. なにか不安だ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ

5　世帯主用＜調査結果集計表＞

市町村別基本集計表(世帯主-1)

市町村名	居住形態	1.性別				2.年齢								3.婚姻状況				
		男	女	無回答	計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳以上64歳未満	65歳以上79歳未満	80歳以上	無回答	計	未婚	既婚	死別・離婚	無回答	計
全市町村	非仮設	1153	620	3	1776	12	116	230	667	646	94	11	1776	47	1532	165	32	1776
	仮設	157	172	2	331	10	26	52	110	102	28	3	331	36	216	68	11	331
		1310	792	5	2107	22	142	282	777	748	122	14	2107	83	1748	233	43	2107
旧長岡市	非仮設	480	216	2	698	5	57	105	254	241	33	3	698	19	602	62	15	698
	仮設	46	51	2	99	2	11	16	37	26	4	3	99	13	57	24	5	99
旧越路町	非仮設	85	26	0	111	0	3	18	36	51	3	0	111	2	100	9	0	111
	仮設	6	5	0	11	0	0	2	6	3	0	0	11	1	7	3	0	11
旧山古志村	非仮設	9	9	0	18	0	0	0	7	11	0	0	18	0	13	3	2	18
	仮設	44	51	0	95	1	4	13	29	36	12	0	95	10	65	17	3	95
小千谷市	非仮設	222	109	1	332	2	19	38	129	117	21	6	332	12	287	28	5	332
	仮設	33	34	0	67	3	6	14	21	15	8	0	67	8	51	6	2	67
見附市	非仮設	138	104	0	242	1	18	26	86	98	12	1	242	2	212	23	5	242
	仮設	6	3	0	9	0	0	0	2	6	1	0	9	0	4	5	0	9
旧十日町市	非仮設	190	142	0	332	4	15	40	143	107	22	1	332	12	280	35	5	332
	仮設	4	4	0	8	1	2	0	5	0	0	0	8	1	5	2	0	8
川口町	非仮設	29	14	0	43	0	4	3	12	21	3	0	43	0	38	5	0	43
	仮設	18	24	0	42	3	3	7	10	16	3	0	42	3	27	11	1	42
総計		1310	792	5	2107	22	142	282	777	748	122	14	2107	83	1748	233	43	2107

市町村別基本集計表(世帯主-2)

市町村名	居住形態	4.震災時住所										5.震災時の職業									
		旧長岡市	小千谷市	見附市	十日町市	川口町	旧越路町	旧山古志村	その他	無回答	計	農業・酪農・養鯉などの生産業	生産業以外の自営業	会社員・会社役員・公務員	パート・アルバイト	専業主婦	学生	無職	その他	無回答	計
全市町村	非仮設	695	329	240	325	44	105	20	16	2	1776	215	214	546	113	222	0	398	63	5	1776
	仮設	99	66	9	9	41	10	95	0	2	331	41	24	97	30	56	1	64	15	3	331
		794	395	249	334	85	115	115	16	4	2107	256	238	643	143	278	1	462	78	8	2107
旧長岡市	非仮設	683	1	0	0	0	0	3	10	1	698	53	76	251	38	92	0	170	17	1	698
	仮設	94	0	0	0	0	0	3	0	2	99	6	6	30	11	18	0	18	7	3	99
旧越路町	非仮設	8	0	0	0	0	103	0	0	0	111	16	6	33	10	9	0	30	7	0	111
	仮設	1	0	0	0	0	10	0	0	0	11	0	1	8	0	1	0	1	0	0	11
旧山古志村	非仮設	1	0	0	0	0	0	17	0	0	18	5	2	2	0	2	0	5	2	0	18
	仮設	4	0	0	0	0	0	91	0	0	95	26	5	18	7	19	0	17	2	0	94
小千谷市	非仮設	2	324	0	0	4	2	0	0	0	332	67	39	108	18	25	0	63	10	2	332
	仮設	0	66	0	0	0	0	1	0	0	67	5	9	21	7	8	1	15	2	0	68
見附市	非仮設	1	0	240	0	0	0	0	1	0	242	16	37	47	17	40	0	70	14	1	242
	仮設	0	0	9	0	0	0	0	0	0	9	0	3	0	1	1	0	3	1	0	9
旧十日町市	非仮設	0	0	0	325	1	0	0	5	1	332	41	48	99	28	49	0	54	12	1	332
	仮設	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8	0	0	4	0	2	0	2	0	0	8
川口町	非仮設	0	4	0	0	39	0	0	0	0	43	17	6	6	2	5	0	6	1	0	43
	仮設	0	0	0	1	41	0	0	0	0	42	4	0	16	4	7	0	8	3	0	42
総計		794	395	249	334	85	115	115	16	4	2107	256	238	643	143	278	1	462	78	8	2107

市町村別基本集計表(世帯主-3)

市町村名	居住形態	6.震災時同居家族の有無				7.震災時誰かと一緒				8.最初の地震や余震に対する恐怖感						9.住宅の被害状況						
		あり	なし	無回答	計	はい	いいえ	無回答	計	全く恐怖を感じなかった	あまり恐怖を感じなかった	少し恐怖を感じた	非常に恐怖を感じた	無回答	計	被害を受けなかった	少し被害を受けた	住めないが大きな被害を受けた	ほぼ全壊に近い被害を受けた	全壊した	無回答	計
全市町村	非仮設	1679	85	12	1776	1496	265	15	1776	21	67	307	1370	11	1776	60	1066	526	56	58	10	1776
	仮設	282	44	5	331	260	68	3	331	5	19	45	257	5	331	2	37	79	84	124	5	331
		1961	129	17	2107	1756	333	18	2107	26	86	352	1627	16	2107	62	1103	605	140	182	15	2107
旧長岡市	非仮設	666	28	4	698	594	102	2	698	8	29	128	532	1	698	24	434	200	17	20	3	698
	仮設	79	18	2	99	70	28	1	99	0	10	15	73	1	99	2	16	22	26	31	2	99
旧越路町	非仮設	108	3	0	111	90	21	0	111	2	5	21	83	0	111	4	71	32	3	1	0	111
	仮設	10	1	0	11	10	1	0	11	0	0	2	9	0	11	0	2	5	2	2	0	11
旧山古志村	非仮設	16	2	0	18	14	3	1	18	0	1	1	15	1	18	0	4	9	2	1	2	18
	仮設	86	9	0	95	76	19	0	95	2	5	13	75	0	95	0	7	17	14	57	0	95
小千谷市	非仮設	308	21	3	332	280	44	8	332	4	10	44	268	6	332	7	154	133	13	22	3	332
	仮設	62	3	2	67	59	7	1	67	2	2	5	55	3	67	0	9	20	17	20	1	67
見附市	非仮設	226	14	2	242	206	36	0	242	2	6	34	197	3	242	13	170	52	4	1	2	242
	仮設	6	3	0	9	7	2	0	9	1	0	0	8	0	9	0	0	4	4	0	1	9
旧十日町市	非仮設	312	17	3	332	269	59	4	332	5	16	65	246	0	332	12	227	85	5	3	0	332
	仮設	7	1	0	8	6	2	0	8	0	1	1	6	0	8	0	3	0	4	1	0	8
川口町	非仮設	43	0	0	43	43	0	0	43	0	0	14	29	0	43	0	6	15	12	10	0	43
	仮設	32	9	1	42	32	9	1	42	0	1	9	31	1	42	0	0	11	17	13	1	42
総計		1961	129	17	2107	1756	333	18	2107	26	86	352	1627	16	2107	62	1103	605	140	182	15	2107

市町村別基本集計表(世帯主-4)

市町村名	9-1住宅被害の認定状況(※9.被害を受けた方を母数とする)							10.避難場所									11.震災時のけがの有無					
	居住形態	認定なし	一部損壊	半壊	全壊	無回答	計	公共の避難所	自動車	親戚・友人・知人宅	自宅	車庫	テント	その他	無回答	計	けがをしなかった	けがをしたが治療は受けなかった	けがのため治療を受けた	けがのため入院した	無回答	計
全市町村	非仮設	200	1032	336	88	50	1706	318	645	60	309	79	29	313	23	1776	1659	69	26	2	20	1776
	仮設	1	38	112	163	10	324	97	100	16	17	14	11	69	7	331	279	27	13	2	10	331
		201	1070	448	251	60	2030	415	745	76	326	93	40	382	30	2107	1938	96	39	4	30	2107
旧長岡市	非仮設	40	445	146	33	7	671	137	253	27	150	19	4	100	8	698	660	23	13	1	1	698
	仮設	1	15	38	38	3	95	36	19	5	8	2	3	22	4	99	83	8	2	2	4	99
旧越路町	非仮設	13	63	28	2	1	107	19	55	3	12	4	2	14	2	111	109	2	0	0	0	111
	仮設	0	3	6	2	0	11	2	0	2	1	3	0	3	0	11	11	0	0	0	0	11
旧山古志村	非仮設	0	2	12	1	1	16	4	3	1	0	2	0	7	1	18	17	0	0	0	1	18
	仮設	0	8	18	67	2	95	23	34	5	7	3	1	21	1	95	80	11	3	0	1	95
小千谷市	非仮設	7	189	92	26	8	322	57	117	11	11	32	14	87	3	332	290	25	7	0	10	332
	仮設	0	9	25	28	4	66	13	28	2	1	4	5	13	1	67	56	4	5	0	2	67
見附市	非仮設	75	122	10	1	19	227	29	52	8	103	1	0	43	6	242	236	2	1	0	3	242
	仮設	0	0	7	1	0	8	4	3	0	0	0	0	2	0	9	6	1	1	0	1	9
旧十日町市	非仮設	65	205	32	5	13	320	68	145	10	30	13	8	55	3	332	310	13	3	1	5	332
	仮設	0	3	4	1	0	8	2	3	0	0	1	0	2	0	8	7	1	0	0	0	8
川口町	非仮設	0	6	16	20	1	43	4	20	0	3	8	1	7	0	43	37	4	2	0	0	43
	仮設	0	0	14	26	1	41	17	13	2	0	1	2	6	1	42	36	2	2	0	2	42
総計		201	1070	448	251	60	2030	415	745	76	326	93	40	382	30	2107	1938	96	39	4	30	2107

市町村別基本集計表(世帯主-5)

市町村名	居住形態	11-1.けがについて現在も治療してい ※11治療または入院した方を母数とす				12.震災時の病気の有無						2-1.病気について現在も治療している ※12.治療または入院した方を母数とす				13.震災後に精神症状がひどい時期があったか					
		治療中	治療終了	無回答	計	病気をしなかった	病気をしたが治療を受けなかった	病気のために治療を受けた	病気のために入院した	無回答	計	治療中	治療終了	無回答	計	なかった	あったが治療は受けなかった	一時治療を受けた	今も治療を受けている	無回答	計
全市町村	非仮設	2	25	1	28	1560	41	84	35	56	1776	60	57	2	119	912	735	46	29	54	1776
	仮設	0	15	0	15	242	17	37	12	23	331	32	16	1	49	109	167	23	20	12	331
		2	40	1	43	1802	58	121	47	79	2107	92	73	3	168	1021	902	69	49	66	2107
旧長岡市	非仮設	1	13	0	14	607	17	38	17	19	698	26	28	1	55	391	268	15	16	8	698
	仮設	0	4	0	4	71	4	13	3	8	99	13	3	0	16	32	49	7	5	6	99
旧越路町	非仮設	0	0	0	0	103	2	2	2	2	111	2	2	0	4	63	46	1	0	1	111
	仮設	0	0	0	0	7	3	1	0	0	11	0	1	0	1	3	8	0	0	0	11
旧山古志村	非仮設	0	0	0	0	13	2	2	0	1	18	1	1	0	2	8	6	2	0	2	18
	仮設	0	3	0	3	74	2	9	5	5	95	7	7	0	14	31	52	5	7	0	95
小千谷市	非仮設	0	7	0	7	280	12	17	7	16	332	11	12	1	24	142	146	12	4	28	332
	仮設	0	5	0	5	46	6	9	4	2	67	9	3	1	13	16	35	4	7	5	67
見附市	非仮設	0	1	0	1	223	4	7	1	7	242	4	4	0	8	120	109	6	1	6	242
	仮設	0	1	0	1	7	1	0	0	1	9	0	0	0	0	2	7	0	0	0	9
旧十日町市	非仮設	0	3	1	4	294	4	16	7	11	332	14	9	0	23	162	145	9	8	8	332
	仮設	0	0	0	0	5	0	1	0	2	8	1	0	0	1	3	3	2	0	0	8
川口町	非仮設	1	1	0	2	40	0	2	1	0	43	2	1	0	3	26	15	1	0	1	43
	仮設	0	2	0	2	32	1	4	0	5	42	2	2	0	4	22	13	5	1	1	42
総計		2	40	1	43	1802	58	121	47	79	2107	92	73	3	168	1021	902	69	49	66	2107

市町村別基本集計表(世帯主-6)

市町村名	居住形態	14.震災後に受けた行政サービス(※複数回答)															
		資金援助	物資の配給	税金に関する相談	住居に関する相談	職業に関する相談	帰宅支援に関する相談	高齢者・障害者へのサービス	育児・教育に関する相談	身体に関する健康相談	こころの健康相談	訪問サービス	地域の座談会・講演会	その他	無回答	計	母数
全市町村	非仮設	840	1144	212	331	13	41	85	9	68	56	74	76	123	176	3248	1776
	仮設	200	288	72	162	17	70	63	10	72	59	71	74	5	12	1175	331
		1040	1432	284	493	30	111	148	19	140	115	145	150	128	188	4423	2107
旧長岡市	非仮設	362	319	90	120	3	8	19	2	13	12	15	15	80	79	1137	698
	仮設	60	77	17	39	2	9	12	1	7	7	10	10	4	4	259	99
旧越路町	非仮設	43	93	23	19	0	0	7	0	8	1	3	6	3	7	213	111
	仮設	6	10	3	6	0	3	2	0	5	2	3	3	0	0	43	11
旧山古志村	非仮設	11	16	5	6	0	5	7	0	7	4	3	11	0	1	76	18
	仮設	57	89	29	50	8	40	23	3	34	26	23	40	0	2	424	95
小千谷市	非仮設	156	297	45	76	5	14	18	2	32	26	26	17	9	7	730	332
	仮設	41	60	14	28	4	8	12	5	21	17	17	12	0	4	243	67
見附市	非仮設	89	130	18	30	1	1	3	2	0	5	1	7	13	58	358	242
	仮設	5	7	1	6	1	3	3	0	2	2	3	3	1	0	37	9
旧十日町市	非仮設	146	247	27	51	3	4	20	3	8	8	6	19	18	24	584	332
	仮設	4	7	2	6	0	2	1	0	0	0	1	2	0	1	26	8
川口町	非仮設	33	42	4	29	1	9	11	0	0	0	20	1	0	0	150	43
	仮設	27	38	6	27	2	5	10	1	3	5	14	4	0	1	143	42
総計		1040	1432	284	493	30	111	148	19	140	115	145	150	128	188	4423	2107

市町村別基本集計表(世帯主-7)

市町村名	居住形態	15.役立った行政サービス(複数回答)															
		資金援助	物資の配給	税金に関する相談	住居に関する相談	職業に関する相談	帰宅支援に関する相談	高齢者・障害者へのサービス	育児・教育に関する相談	身体に関する健康相談	こころの健康相談	訪問サービス	地域の座談会・講演会	その他	無回答	計	母数
全市町村	非仮設	822	1049	194	265	8	25	88	5	54	43	40	43	121	256	3013	1776
	仮設	189	253	39	100	5	36	48	6	32	24	24	16	4	21	797	331
		1011	1302	233	365	13	61	136	11	86	67	64	59	125	277	3810	2107
旧長岡市	非仮設	344	300	85	92	2	4	20	1	11	10	14	13	76	111	1083	698
	仮設	58	61	10	33	0	6	10	0	5	5	3	2	2	8	203	99
旧越路町	非仮設	43	91	20	15	0	0	5	1	3	1	1	6	4	10	200	111
	仮設	5	11	3	1	0	2	1	0	1	0	2	1	0	0	27	11
旧山古志村	非仮設	12	14	4	2	0	3	3	0	5	2	2	6	0	1	54	18
	仮設	52	77	13	28	3	22	18	1	14	12	5	9	0	2	256	95
小千谷市	非仮設	146	270	39	65	2	9	20	0	18	19	12	6	15	20	641	332
	仮設	38	55	7	13	1	3	7	3	10	3	10	2	1	8	161	67
見附市	非仮設	94	115	15	26	0	0	6	2	2	3	2	2	9	70	346	242
	仮設	5	8	0	3	0	1	2	0	1	0	0	1	1	0	22	9
旧十日町市	非仮設	149	218	28	47	3	3	24	1	14	5	4	9	17	44	566	332
	仮設	4	7	2	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	19	8
川口町	非仮設	34	41	3	18	1	6	10	0	1	3	5	1	0	0	123	43
	仮設	27	34	4	18	1	1	9	2	1	4	4	1	0	3	109	42
総計		1011	1302	233	365	13	61	136	11	86	67	64	59	125	277	3810	2107

市町村別基本集計表(世帯主-8)

市町村名	居住形態	17.現在の生活場所									17-1.今後の生活場所決定有無 7.仮設、親族・友人・知人宅の方を母数とす				17-1-1.今後の生活場所の内容 17-1.今後の生活場所が決まっている方を母数とす					
		自宅（震災前と同じ）	新築・改築または移転した自宅	仮設住宅から自宅（新築・改築または移転した自	仮設住宅	親族・友人・知人宅	復興住宅	その他	無回答	計	決まっている	決まっていない	無回答	計	自宅に戻る	もとの居住地に新築する	他の地域に転出する	その他	無回答	計
全市町村	非仮設	1616	104	31	7	5	1	7	5	1776	9	2	1	12	1	1	4	3	0	9
	仮設	10	2	10	301	0	2	0	6	331	247	39	15	301	38	76	70	57	6	247
		1626	106	41	308	5	3	7	11	2107	256	41	16	313	39	77	74	60	6	256
旧長岡市	非仮設	633	40	15	3	2	1	3	1	698	5	0	0	5	1	1	2	1	0	5
	仮設	2	0	3	92	0	0	0	2	99	71	17	4	92	11	22	20	15	3	71
旧越路町	非仮設	103	7	1	0	0	0	0	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮設	0	0	0	11	0	0	0	0	11	10	1	0	11	0	2	2	6	0	10
旧山古志村	非仮設	14	0	4	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮設	2	1	3	88	0	1	0	0	95	73	10	5	88	17	26	21	9	0	73
小千谷市	非仮設	289	25	8	4	1	0	1	4	332	4	0	1	5	0	0	2	2	0	4
	仮設	6	1	3	55	0	1	0	1	67	50	3	2	55	9	12	20	8	1	50
見附市	非仮設	233	7	1	0	1	0	0	0	242	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	仮設	0	0	0	8	0	0	0	1	9	5	3	0	8	0	1	1	3	0	5
旧十日町市	非仮設	314	13	1	0	1	0	3	0	332	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	仮設	0	0	0	8	0	0	0	0	8	6	2	0	8	0	4	1	1	0	6
川口町	非仮設	30	12	1	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮設	0	0	1	39	0	0	0	2	42	32	3	4	39	1	9	5	15	2	32
総計		1626	106	41	308	5	3	7	11	2107	256	41	16	313	39	77	74	60	6	256

市町村別基本集計表(世帯主-9)

市町村名	居住形態	17-1-2.今後の希望する生活場所 17-1.今後の生活場所が決まっていない方を母数とす						18.現在の職業										19.現在の同居家族の有無			
		もとの居住地に戻りたい	他の地域に転出したい	できるだけ長設仮設住宅での生活	その他	無回答	計	農業・酪農・養鯉などの生産業	生産業以外の自営業	会社員・会社役員・公務員	パート・アルバイト	専業主婦	学生	無職	その他	無回答	計	いる	いない	無回答	計
全市町村	非仮設	1	1	0	0	0	2	210	210	498	111	224	0	438	64	21	1776	1675	88	13	1776
	仮設	8	12	8	7	4	39	14	19	87	31	60	1	96	15	8	331	279	50	2	331
		9	13	8	7	4	41	224	229	585	142	284	1	534	79	29	2107	1954	138	15	2107
旧長岡市	非仮設	0	0	0	0	0	0	51	76	236	39	87	0	185	17	7	698	660	33	5	698
	仮設	1	5	4	5	2	17	1	4	25	12	22	0	25	6	4	99	80	17	2	99
旧越路町	非仮設	0	0	0	0	0	0	17	6	31	9	10	0	31	6	1	111	107	4	0	111
	仮設	0	0	0	1	0	1	0	1	7	0	0	0	3	0	0	11	10	1	0	11
旧山古志村	非仮設	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	0	10	0	0	18	16	2	0	18
	仮設	5	4	1	0	0	10	10	4	15	9	18	1	34	4	0	95	85	10	0	95
小千谷市	非仮設	0	0	0	0	0	0	67	41	96	16	27	0	69	11	5	332	308	19	5	332
	仮設	1	1	1	0	0	3	0	8	20	8	10	0	17	3	1	67	57	10	0	67
見附市	非仮設	0	1	0	0	0	1	13	37	42	16	41	0	73	17	3	242	229	13	0	242
	仮設	0	1	1	1	0	3	0	2	0	1	1	0	4	1	0	9	7	2	0	9
旧十日町市	非仮設	1	0	0	0	0	1	43	44	86	28	50	0	65	13	3	332	313	16	3	332
	仮設	0	1	0	0	1	2	0	0	4	0	2	0	2	0	0	8	7	1	0	8
川口町	非仮設	0	0	0	0	0	0	18	4	6	3	5	0	5	0	2	43	42	1	0	43
	仮設	1	0	1	0	1	3	3	0	16	1	7	0	11	1	3	42	33	9	0	42
総計		9	13	8	7	4	41	224	229	585	142	284	1	534	79	29	2107	1954	138	15	2107

市町村別基本集計表(世帯主-10)

市町村名	居住形態	20.震災後の家族構成の変化				21.生活再建の程度						22.現在、一番困っていること							
		あった	なかった	無回答	計	震災前に戻った	だいたい戻った	あまり戻っていない	全く戻っていない	無回答	計	生活費などの金銭的な問題	健康状態の悪化	家庭内の人間関係	職業上の問題	住居の問題	その他	無回答	計
全市町村	非仮設	108	1641	27	1776	878	707	124	29	38	1776	453	140	34	72	294	380	403	1776
	仮設	72	244	15	331	16	102	110	91	12	331	143	28	9	6	108	21	16	331
		180	1885	42	2107	894	809	234	120	50	2107	596	168	43	78	402	401	419	2107
旧長岡市	非仮設	48	642	8	698	387	242	43	9	17	698	153	50	15	22	125	190	143	698
	仮設	28	65	6	99	9	33	30	20	7	99	43	9	3	0	29	8	7	99
旧越路町	非仮設	6	102	3	111	67	36	6	1	1	111	20	9	4	2	23	31	22	111
	仮設	3	8	0	11	0	2	5	4	0	11	4	1	0	0	5	1	0	11
旧山古志村	非仮設	3	15	0	18	4	11	2	0	1	18	3	5	0	3	3	2	2	18
	仮設	16	78	1	95	3	30	26	36	0	95	35	9	1	5	38	6	1	95
小千谷市	非仮設	28	297	7	332	123	167	28	7	7	332	105	29	9	21	52	68	48	332
	仮設	13	50	4	67	3	24	23	15	2	67	34	6	3	1	15	4	4	67
見附市	非仮設	7	234	1	242	113	103	17	5	4	242	51	15	1	5	39	26	105	242
	仮設	2	6	1	9	0	1	4	3	1	9	4	2	0	0	3	0	0	9
旧十日町市	非仮設	15	310	7	332	178	116	24	7	7	332	94	30	5	18	48	61	76	332
	仮設	2	6	0	8	0	2	3	1	2	8	6	0	0	0	0	0	2	8
川口町	非仮設	1	41	1	43	6	32	4	0	1	43	27	2	0	1	4	2	7	43
	仮設	8	31	3	42	1	10	19	12	0	42	17	1	2	0	18	2	2	42
総計		180	1885	42	2107	894	809	234	120	50	2107	596	168	43	78	402	401	419	2107

市町村別基本集計表(世帯主-11)

市町村名	居住形態	23.こころの健康状態(震災前)							23.こころの健康状態(震災直後～１週間後)							23.こころの健康状態(現在)						
		非常に健康	少し健康	どちらともいえない	少し不健康	非常に不健康	無回答	計	非常に健康	少し健康	どちらともいえない	少し不健康	非常に不健康	無回答	計	非常に健康	少し健康	どちらともいえない	少し不健康	非常に不健康	無回答	計
全市町村	非仮設	869	481	272	82	11	61	1776	243	382	470	447	156	78	1776	590	537	366	195	34	54	1776
	仮設	131	85	63	21	8	23	331	23	47	95	92	46	28	331	46	80	89	70	24	22	331
		1000	566	335	103	19	84	2107	266	429	565	539	202	106	2107	636	617	455	265	58	76	2107
旧長岡市	非仮設	339	215	86	34	3	21	698	108	145	171	187	64	23	698	233	238	119	80	15	13	698
	仮設	47	16	19	3	4	10	99	11	15	22	21	18	12	99	20	22	22	19	8	8	99
旧越路町	非仮設	56	37	8	7	1	2	111	18	28	22	32	9	2	111	38	37	26	9	1	0	111
	仮設	3	5	2	0	1	0	11	0	1	4	5	1	0	11	1	1	7	2	0	0	11
旧山古志村	非仮設	9	4	3	1	0	1	18	0	5	2	8	2	1	18	5	5	4	3	0	1	18
	仮設	35	29	20	8	2	1	95	4	17	24	34	15	1	95	10	23	22	30	8	2	95
小千谷市	非仮設	166	78	51	16	4	17	332	35	59	91	86	37	24	332	96	91	76	46	7	16	332
	仮設	31	16	6	7	1	6	67	4	9	22	15	8	9	67	11	17	16	12	5	6	67
見附市	非仮設	147	44	37	7	2	5	242	35	61	77	46	14	9	242	115	52	52	11	4	8	242
	仮設	3	2	1	1	0	2	9	0	2	1	4	0	2	9	0	2	2	2	1	2	9
旧十日町市	非仮設	143	101	56	16	1	15	332	44	81	74	86	30	17	332	100	107	57	45	7	16	332
	仮設	3	2	1	0	0	2	8	1	0	2	3	0	2	8	1	3	2	0	2	0	8
川口町	非仮設	9	2	31	1	0	0	43	3	3	33	2	0	2	43	3	7	32	1	0	0	43
	仮設	9	15	14	2	0	2	42	3	3	20	10	4	2	42	3	12	18	5	0	4	42
総計		1000	566	335	103	19	84	2107	266	429	565	539	202	106	2107	636	617	455	265	58	76	2107

市町村別基本集計表(世帯主-12)

市町村名	居住形態	4.震災後につらさや苦労について誰かに話したか					24-1.つらさや苦労を話さなかった理由 ※24.話さなかった方を母数とする						25.現在、つらさや苦労を誰かに話すか					25-1.つらさや苦労を話さない理由 ※25.話さない方を母数とする					
		話した	話したかったが話せなかった	話さなかった	無回答	計	話したくなかった	話しても仕方がないと思った	話す必要がなかった	その他	無回答	計	話す	話したいが話せない	話さない	無回答	計	話したくない	話しても仕方がないと思う	話す必要がない	その他	無回答	計
全市町村	非仮設	1274	45	406	51	1776	7	216	156	18	9	406	941	35	677	123	1776	11	329	285	37	15	677
	仮設	223	25	72	11	331	5	50	14	2	1	72	185	26	97	23	331	5	72	16	4	0	97
		1497	70	478	62	2107	12	266	170	20	10	478	1126	61	774	146	2107	16	401	301	41	15	774
旧長岡市	非仮設	474	16	193	15	698	4	95	80	8	6	193	343	14	298	43	698	5	135	140	12	6	298
	仮設	58	6	29	6	99	2	18	8	1	0	29	49	8	35	7	99	2	24	7	2	0	35
旧越路町	非仮設	81	3	25	2	111	0	13	11	1	0	25	62	3	42	4	111	1	19	22	0	0	42
	仮設	9	0	2	0	11	1	1	0	0	0	2	8	1	2	0	11	1	1	0	0	0	2
旧山古志村	非仮設	14	0	4	0	18	1	2	1	0	0	4	12	0	6	0	18	0	4	2	0	0	6
	仮設	66	11	18	0	95	0	14	4	0	0	18	53	9	30	3	95	1	22	7	0	0	30
小千谷市	非仮設	246	15	56	15	332	1	36	13	5	1	56	191	13	99	29	332	1	69	22	6	1	99
	仮設	52	2	10	3	67	2	6	1	0	1	10	43	5	12	7	67	0	11	1	0	0	12
見附市	非仮設	174	8	53	7	242	1	22	25	4	1	53	123	3	100	16	242	3	32	51	8	6	100
	仮設	8	1	0	0	9	0	0	0	0	0	0	6	1	0	2	9	0	0	0	0	0	0
旧十日町市	非仮設	265	3	52	12	332	0	25	26	0	1	52	193	2	106	31	332	1	44	48	11	2	106
	仮設	5	1	2	0	8	0	1	0	1	0	2	6	0	2	0	8	0	1	0	1	0	2
川口町	非仮設	20	0	23	0	43	0	23	0	0	0	23	17	0	26	0	43	0	26	0	0	0	26
	仮設	25	4	11	2	42	0	10	1	0	0	11	20	2	16	4	42	1	13	1	1	0	16
総計		1497	70	478	62	2107	12	266	170	20	10	478	1126	61	774	146	2107	16	401	301	41	15	774

6　子ども用＜調査結果集計表＞

市町村別基本集計表(子ども-1)

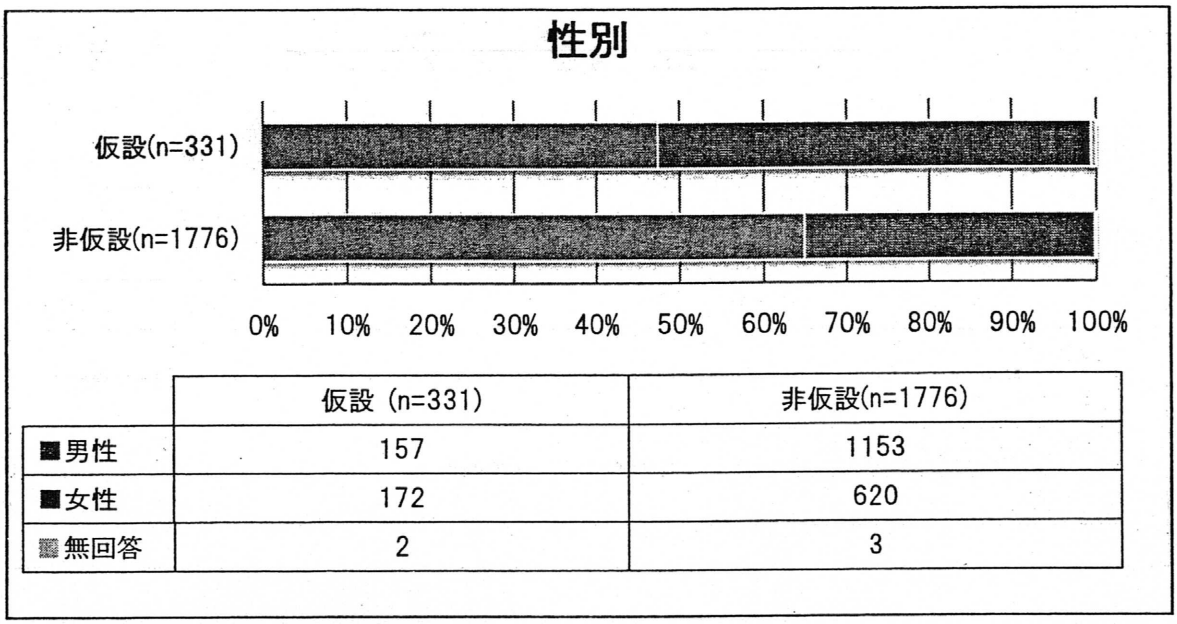
市町村名	居住形態	1.性別				2.学年										
		男	女	無回答	計	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	無回答	計
全市町村	非仮設	274	267	2	543	70	71	58	69	60	45	49	62	57	2	543
	仮設	25	30	1	56	5	7	6	2	7	8	7	9	5	0	56
		299	297	3	599	75	78	64	71	67	53	56	71	62	2	599
旧長岡市	非仮設	136	120	0	256	34	32	27	36	31	23	22	25	25	1	256
	仮設	7	9	0	16	3	3	3	0	1	1	1	3	1	0	16
旧越路町	非仮設	9	11	0	20	0	1	0	2	3	3	3	4	4	0	20
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧山古志村	非仮設	1	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	仮設	4	5	0	9	0	1	0	1	0	1	1	2	3	0	9
小千谷市	非仮設	45	46	2	93	12	11	10	9	10	11	5	13	11	1	93
	仮設	10	5	0	15	1	1	2	0	4	2	2	2	1	0	15
見附市	非仮設	25	31	0	56	9	9	5	6	7	0	5	7	8	0	56
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧十日町市	非仮設	52	47	0	99	11	18	15	15	7	7	11	10	5	0	99
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川口町	非仮設	6	10	0	16	3	0	1	1	2	1	3	2	3	0	16
	仮設	4	11	1	16	1	2	1	1	2	4	3	2	0	0	16
総計		299	297	3	599	75	78	64	71	67	53	56	71	62	2	599

市町村別基本集計表(子ども-2)

市町村名	居住形態	3.同居家族(※複数回答)														4.地震後、一番心配したこと								
		祖父	祖母	父	母	兄	姉	弟	妹	おじ	おば	その他	無回答	計	母数	家族のこと	学校や勉強のこと	友達のこと	家や物が壊れたこと	病気や怪我のこと	その他	特に心配したことはない	無回答	計
全市町村	非仮設	322	396	504	530	158	161	180	166	22	16	35	2	2492	543	156	25	68	142	8	16	117	11	1086
	仮設	27	36	53	54	17	17	14	18	0	0	1	0	237	56	15	0	13	11	0	1	15	1	112
		349	432	557	584	175	178	194	184	22	16	36	2	2729	599	171	25	81	153	8	17	132	12	599
旧長岡市	非仮設	133	171	243	251	88	71	87	80	7	6	20	0	1157	256	62	8	32	67	4	11	70	2	256
	仮設	7	7	16	16	5	4	2	7	0	0	0	0	64	16	3	0	2	6	0	0	6	0	32
旧越路町	非仮設	12	16	18	20	8	5	6	7	2	0	0	0	94	20	3	0	6	3	0	0	8	0	20
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧山古志村	非仮設	3	3	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	11	3	1	0	1	0	0	0	1	0	3
	仮設	4	5	8	9	3	1	3	4	0	0	0	0	37	9	4	0	2	2	0	0	1	0	9
小千谷市	非仮設	60	70	88	89	20	34	28	23	6	1	10	1	430	93	31	10	14	21	0	3	13	1	93
	仮設	8	10	14	14	6	5	5	0	0	0	1	0	63	15	3	0	5	3	0	1	3	0	15
見附市	非仮設	35	41	54	55	11	17	23	15	0	4	2	1	258	56	18	3	2	19	1	1	5	7	56
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧十日町市	非仮設	67	83	85	98	31	26	34	38	7	5	3	0	477	99	29	4	12	30	2	1	20	1	99
	仮設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川口町	非仮設	12	12	15	16	0	7	1	2	0	0	0	0	65	16	12	0	1	2	1	0	0	0	16
	仮設	8	14	15	15	3	7	4	7	0	0	0	0	73	16	5	0	4	1	0	0	5	1	16
総計		349	432	557	584	175	178	194	184	22	16	36	2	2729	599	171	25	81	153	8	17	132	12	615

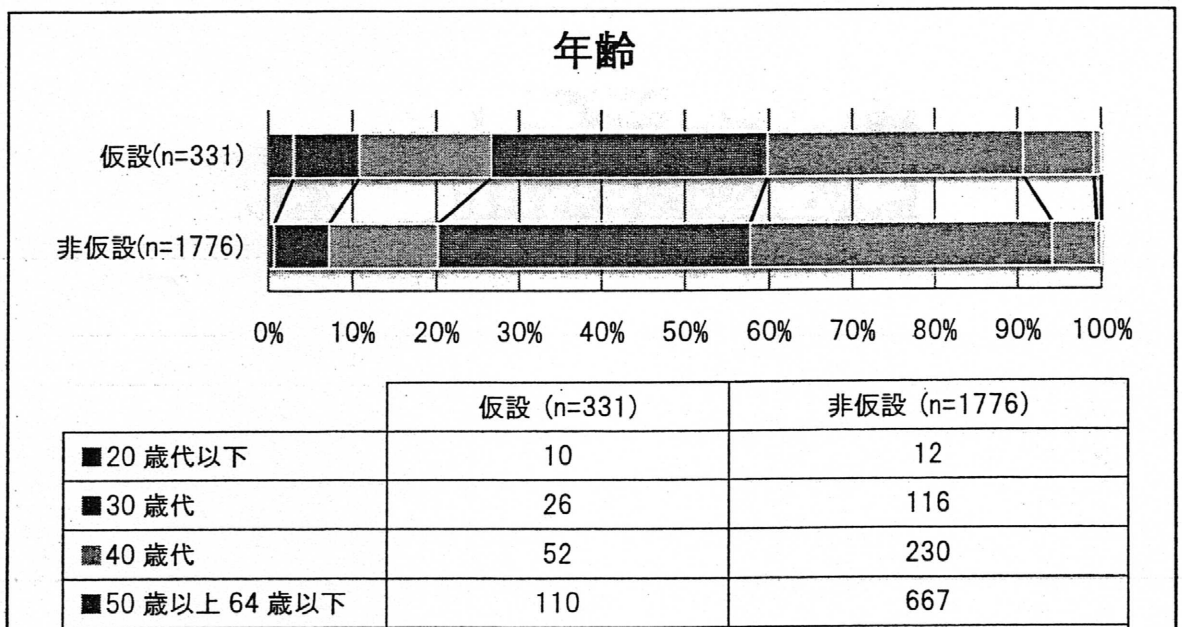
7　世帯主用＜調査結果集計グラフ＞

問 1. あなたの性別は。ひとつだけ選んでください。



	仮設 (n=331)	非仮設(n=1776)
■男性	157	1153
■女性	172	620
■無回答	2	3

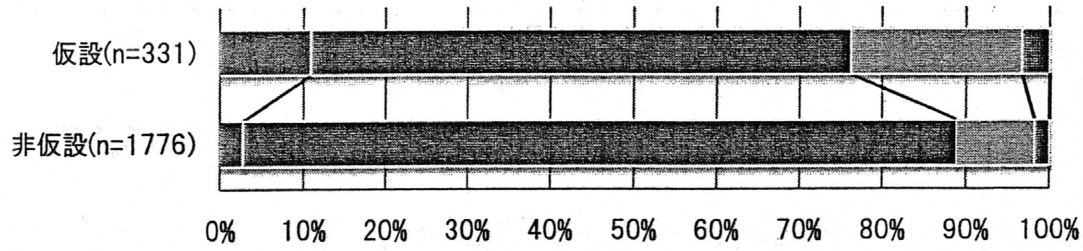
問2. あなたの年齢は。



	仮設 (n=331)	非仮設 (n=1776)
■20 歳代以下	10	12
■30 歳代	26	116
■40 歳代	52	230
■50 歳以上 64 歳以下	110	667
■65 歳以上 79 歳以下	102	646
■80 歳以上	28	94
■無回答	3	11

問3. あなたの現在の婚姻状態は。ひとつだけ選んでください。

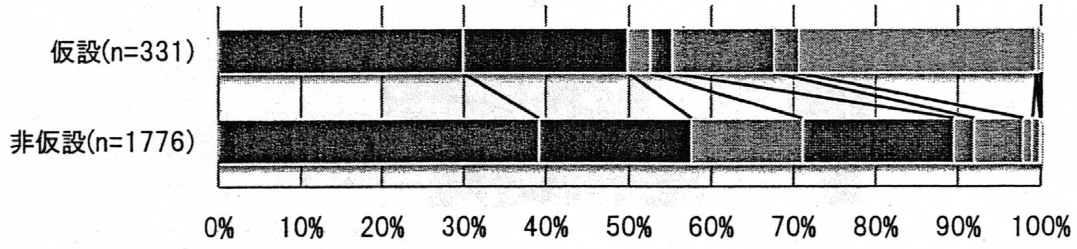
婚姻状態



	仮設 (n=331)	非仮設 (n=1776)
■男性	36	47
■女性	216	1532
■死別・離婚後	68	165
■無回答	11	32

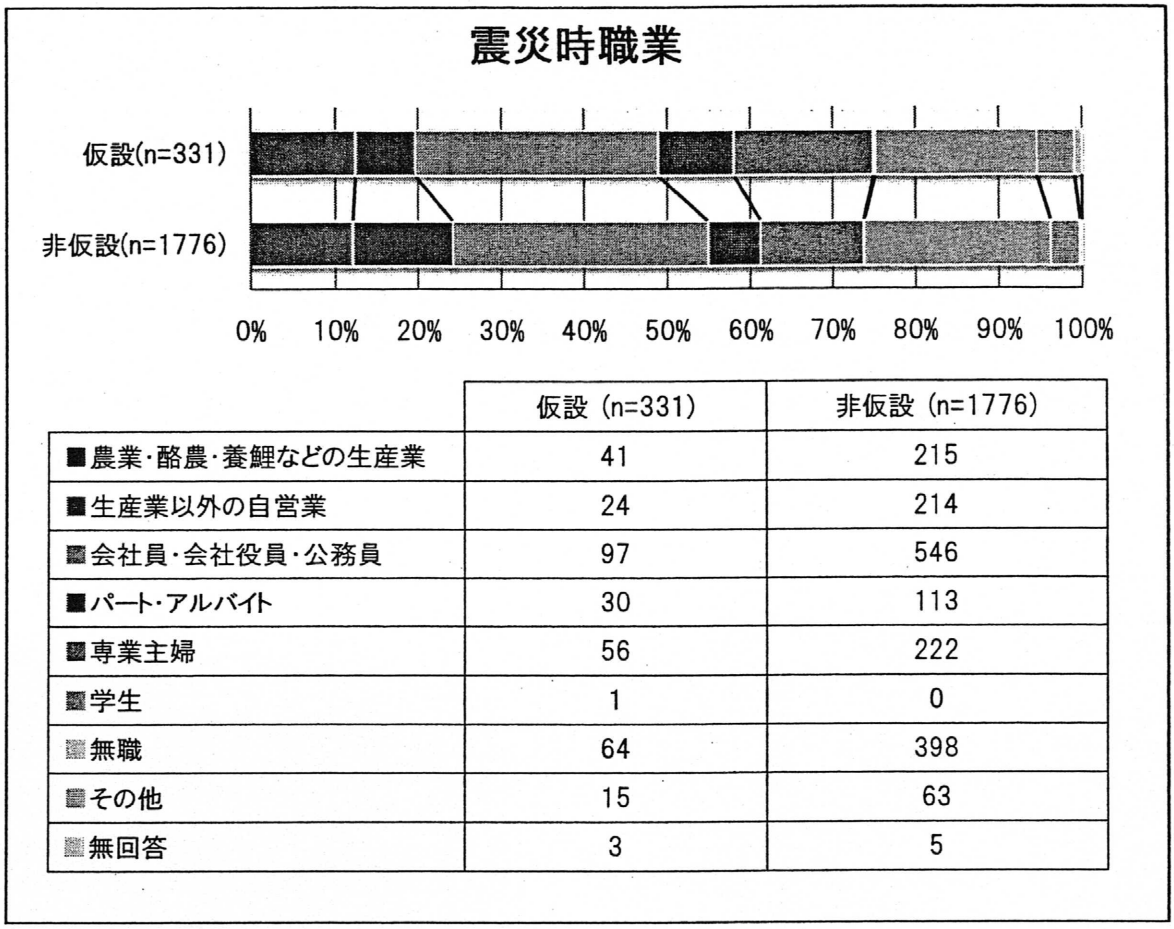
問4. 震災時のあなたの住所は。ひとつだけ選んでください。

震災時住所



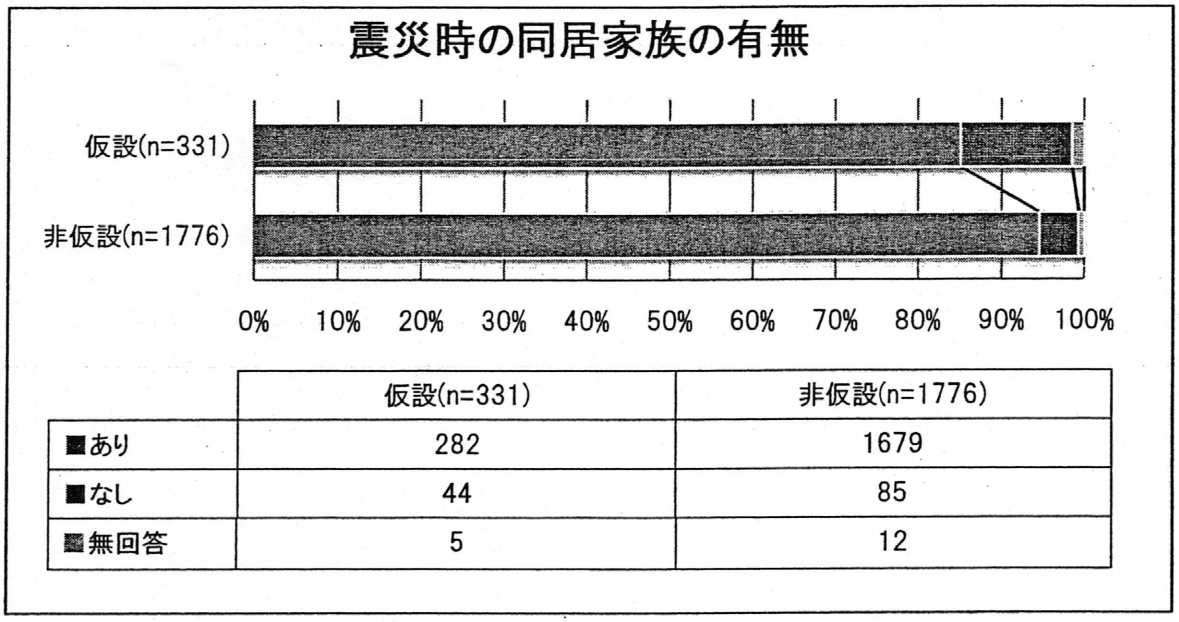
	仮設 (n=331)	非仮設 (n=1776)
■長岡市	99	695
■小千谷市	66	329
■見附市	9	240
■十日町市	9	325
■川口町	41	44
■旧越路町	10	105
■旧山古志村	95	20
■その他	0	16
■無回答	2	2

問5. 震災時のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。



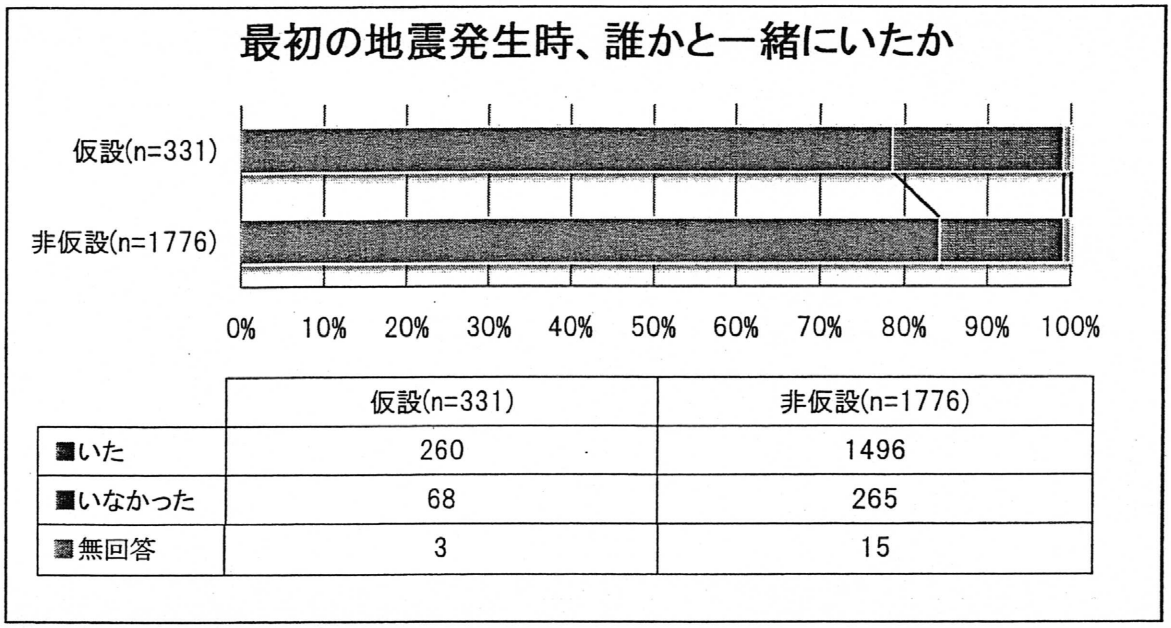
	仮設 (n=331)	非仮設 (n=1776)
■農業・酪農・養鯉などの生産業	41	215
■生産業以外の自営業	24	214
■会社員・会社役員・公務員	97	546
■パート・アルバイト	30	113
■専業主婦	56	222
■学生	1	0
■無職	64	398
■その他	15	63
■無回答	3	5

問6. 震災前にあなたと同居していたご家族は。ひとつだけ選んでください。



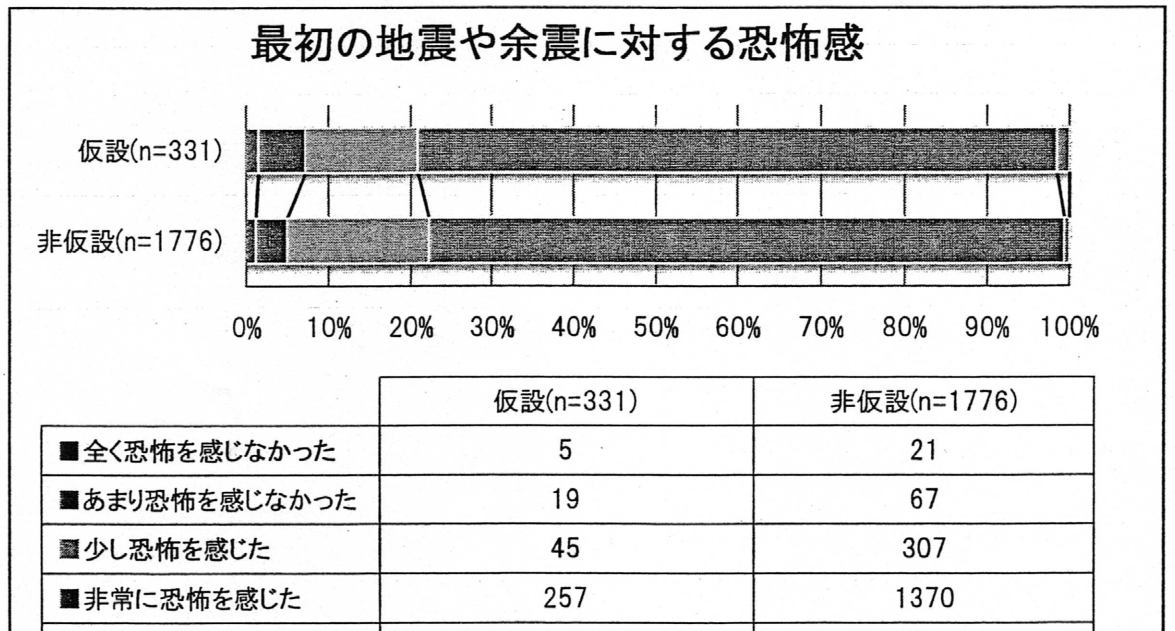
	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■あり	282	1679
■なし	44	85
■無回答	5	12

問7. 最初の地震が発生したとき、誰かと一緒にいましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
いた	260	1496
いなかった	68	265
無回答	3	15

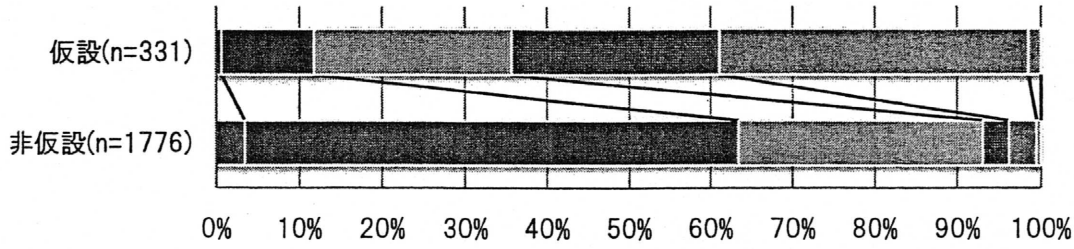
問8. 最初の地震や余震に対する恐怖感はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
全く恐怖を感じなかった	5	21
あまり恐怖を感じなかった	19	67
少し恐怖を感じた	45	307
非常に恐怖を感じた	257	1370
無回答	5	11

問9. 地震後、あなたのお住まいの被害はどの程度でしたか。ひとつだけ選んでください。

地震による住宅の被害状況

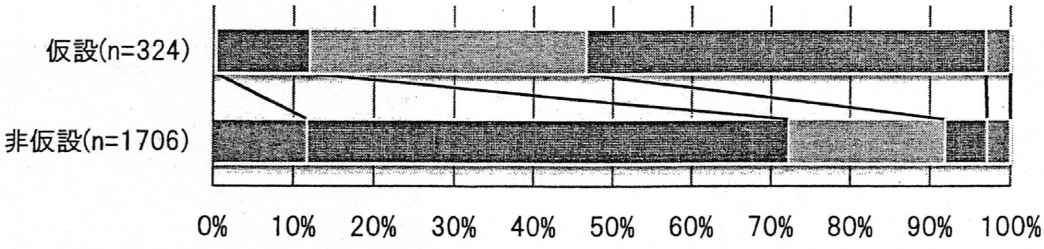


	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■被害を受けなかった	2	60
■少し被害を受けた	37	1066
■住めなくないが大きな被害を受けた	79	526
■ほぼ全壊に近い被害を受けた	84	56
■全壊した	124	58
■無回答	5	10

問9－1. 住まいの被害はどう認定されましたか。ひとつだけ選んでください。

（問9で「2」～「5」と回答された方のみ、ご回答ください）

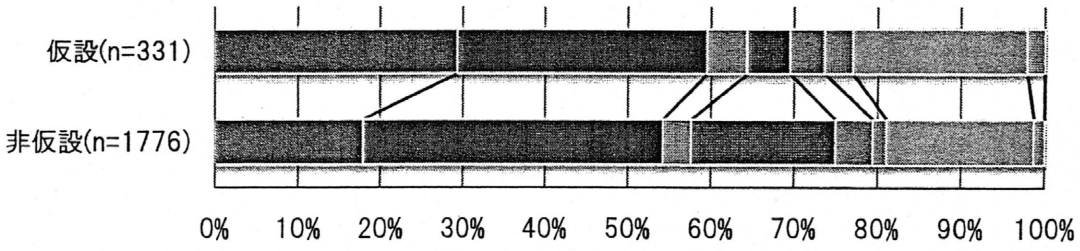
住宅被害の認定状況



	仮設(n=324)	非仮設(n=1706)
■認定なし	1	200
■一部損壊	38	1032
■半壊	112	336
■全壊	163	88
■無回答	10	50

問10. 地震直後、最初にどこへ避難しましたか。ひとつだけ選んでください。

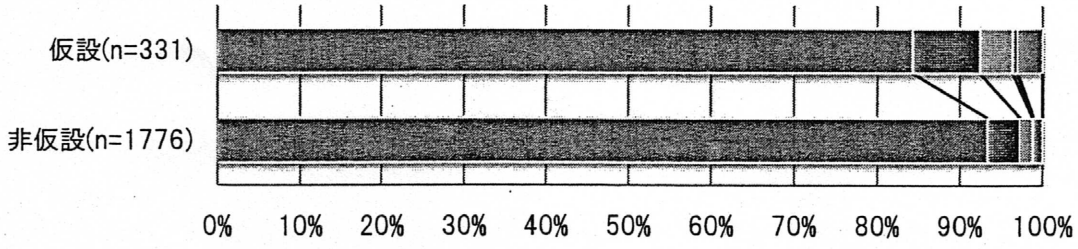
地震直後の避難場所



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■公共の避難所	97	318
■自動車	100	645
■親族・友人・知人宅	16	60
■自宅	17	309
■車庫	14	79
■テント	11	29
■その他	69	313
■無回答	7	23

問11. 震災時にけがをされましたか。ひとつだけ選んでください。

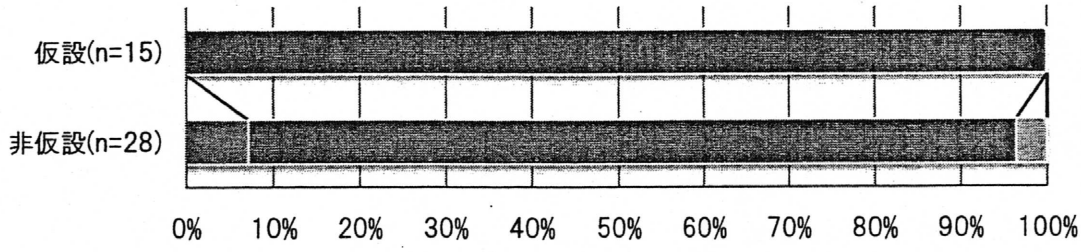
震災時のけがの有無



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■けがをしなかった	279	1659
■けがをしたが治療を受けなかった	27	69
■けがのため治療を受けた	13	26
■けがのため入院した	2	2
■無回答	10	20

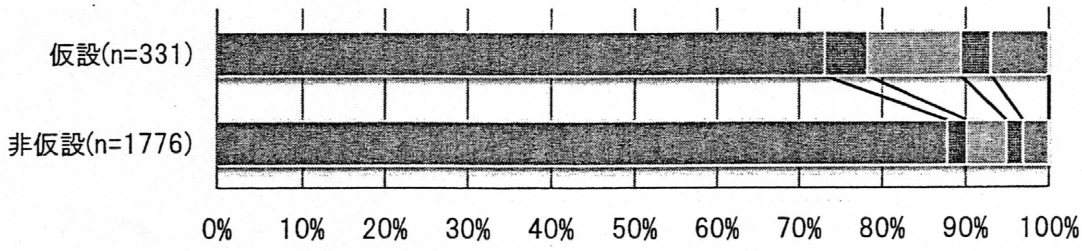
問11－1. そのけがについては、現在も治療中ですか。ひとつだけ選んでください。

（問11で「3」または「4」と回答された方のみ、ご回答ください）



	仮設(n=15)	非仮設(n=28)
■治療中	0	2
■治療終了	15	25
■無回答	0	1

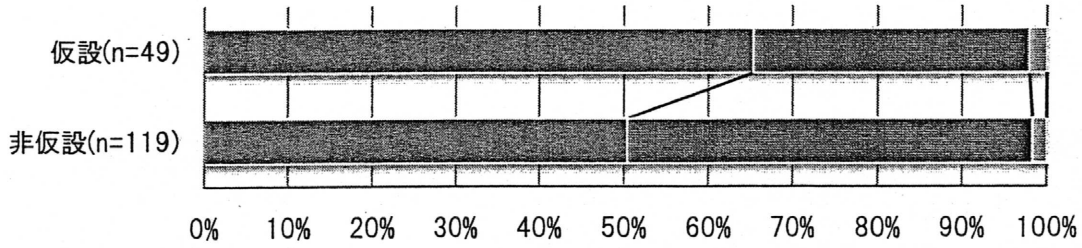
問12. 震災後に病気をなさいましたか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■病気をしなかった	242	1560
■病気をしたが治療は受けなかった	17	41
■病気のため治療を受けた	37	84
■病気のため入院した	12	35
■無回答	23	56

問12－1. その病気については、現在も治療中ですか。ひとつだけ選んでください。
（問12で「3」または「4」と回答された方のみ、ご回答ください）

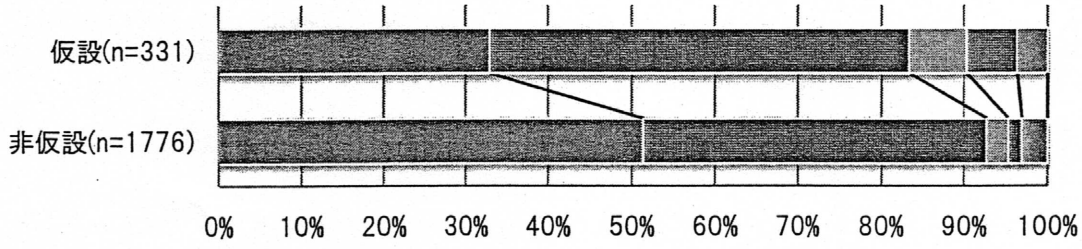
震災後の病気について、現在も治療しているか



	仮設(n=49)	非仮設(n=119)
■治療中	32	60
■治療終了	16	57
■無回答	1	2

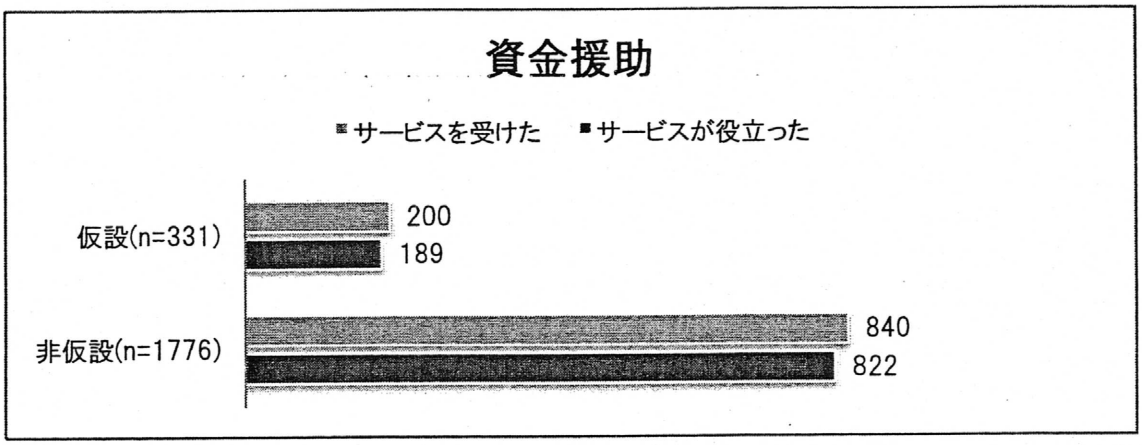
問13. 震災後、不眠・不安・気分の落ち込みなど精神的な症状がひどい時期はありましたか。ひとつだけ選んでください

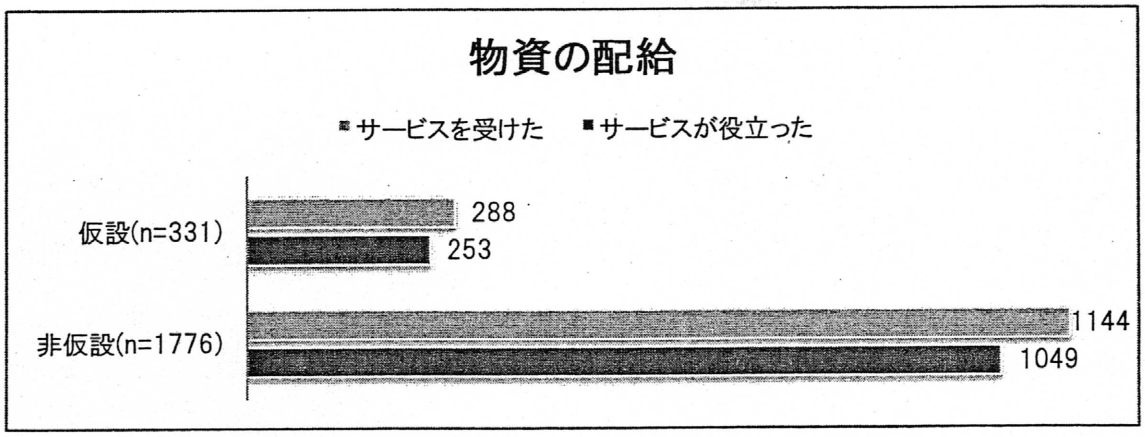
震災後に精神症状がひどい時期があったか

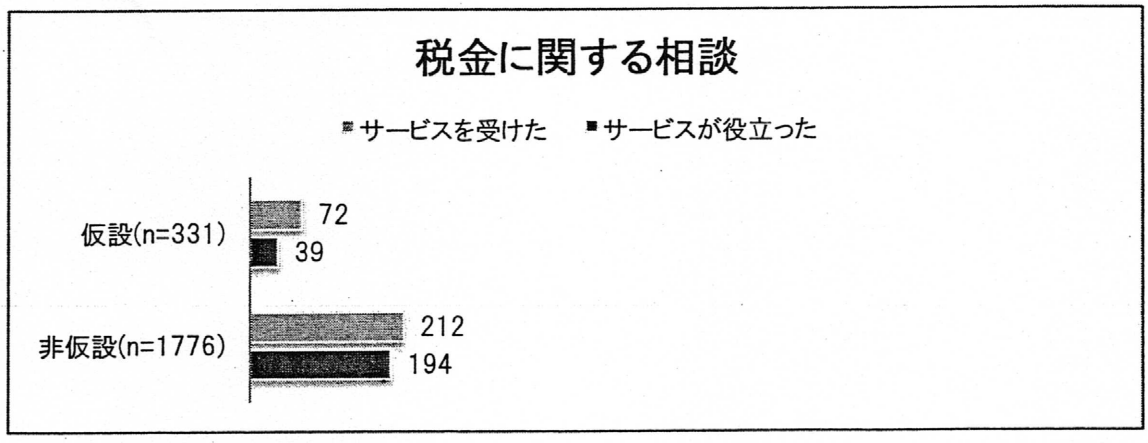


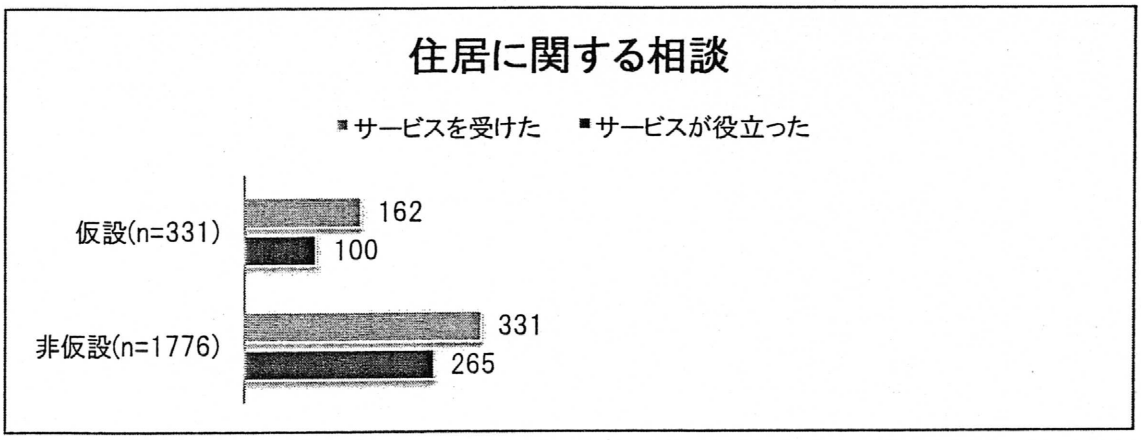
	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■なかった	109	912
■あったが治療は受けなかった	167	735
■一時治療を受けた	23	46
■今も治療を受けている	20	29
■無回答	12	54

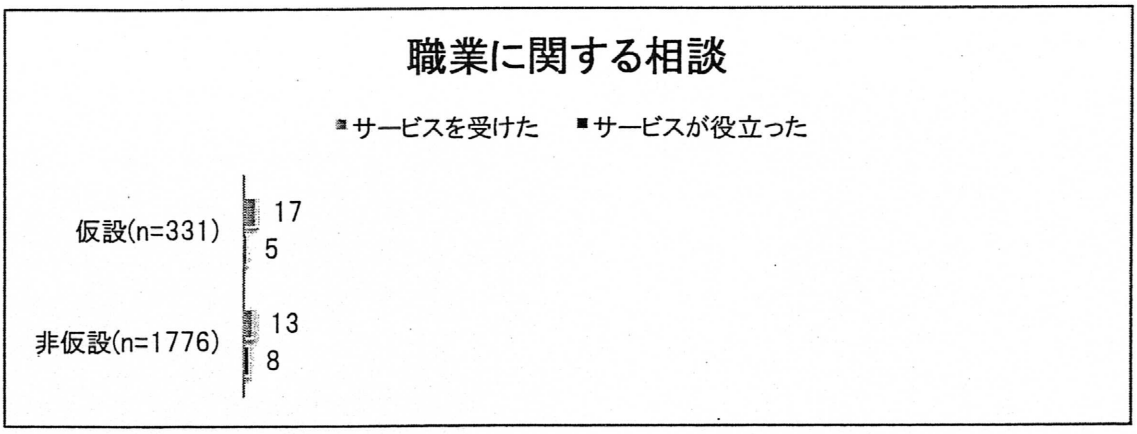
問14. 震災後、どのような行政サービスを受けましたか。あてはまるものをすべて選んでください。
問15. どのような行政サービスが役立ちましたか。あてはまるものを3つまで選んでください。

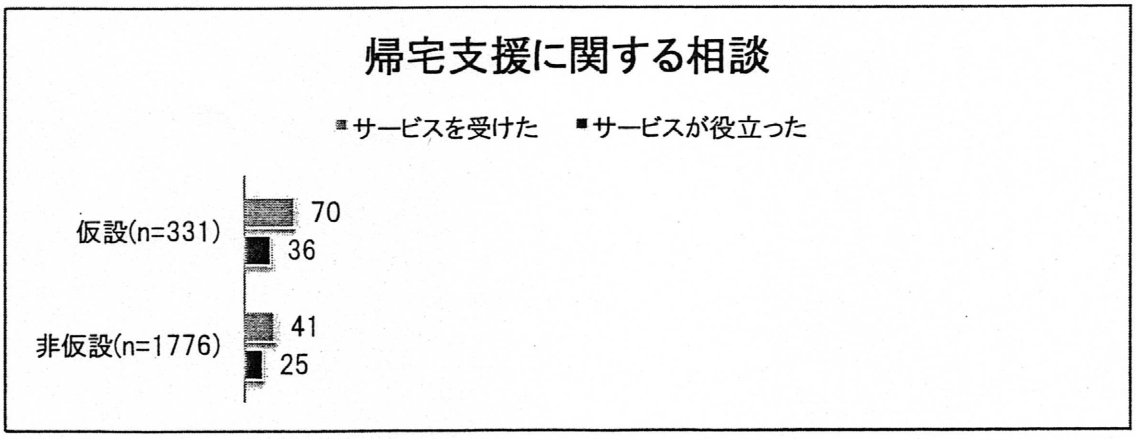


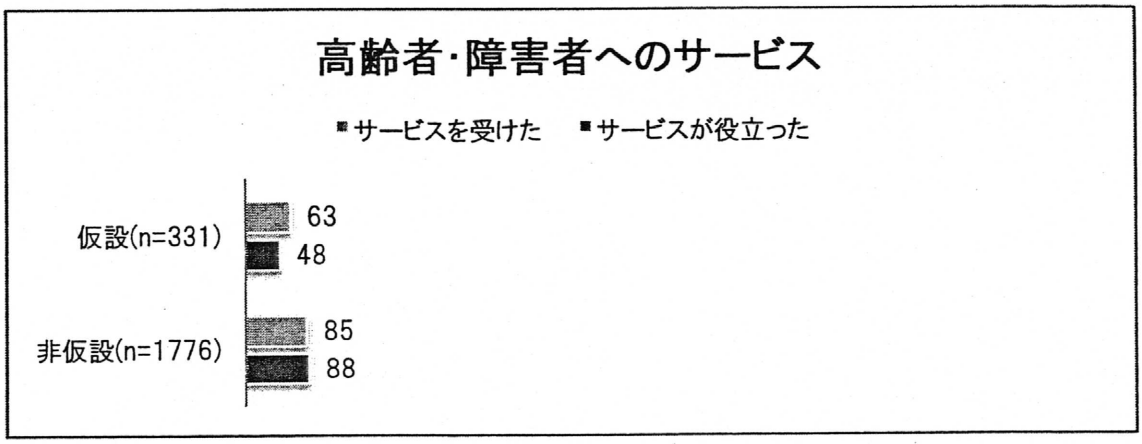


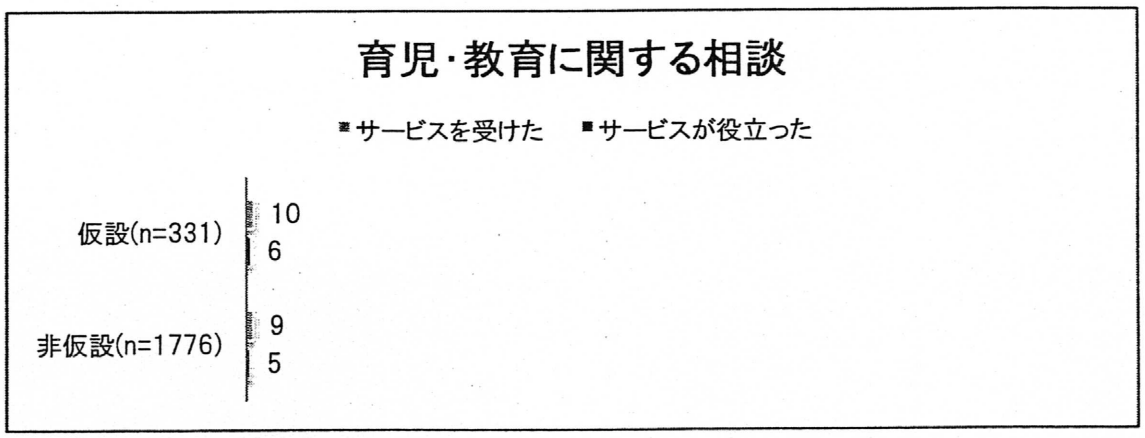


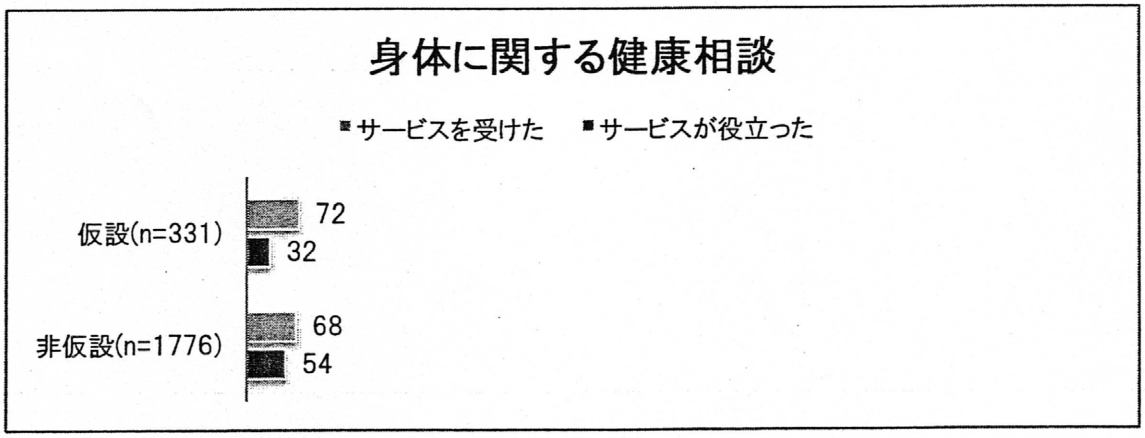

住居に関する相談
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
162
100
非仮設(n=1776)
331
265

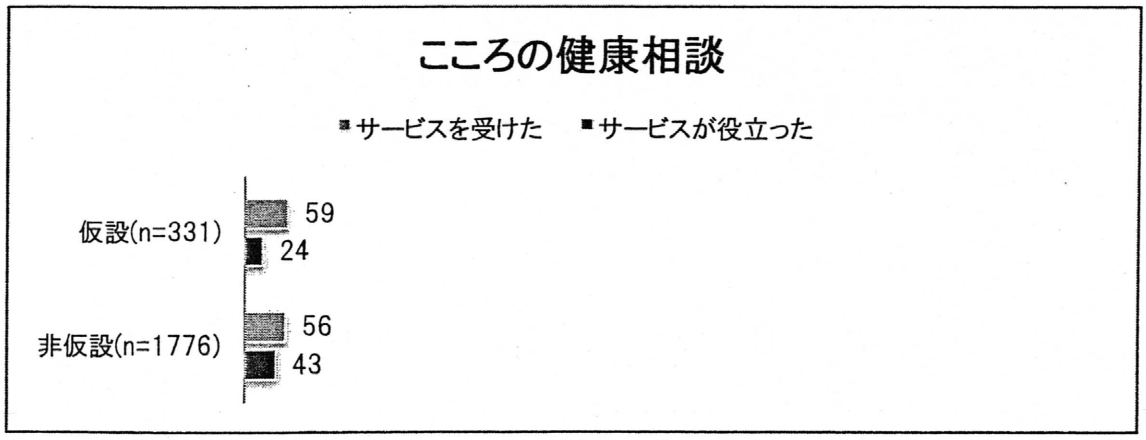

職業に関する相談
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
17
5
非仮設(n=1776)
13
8

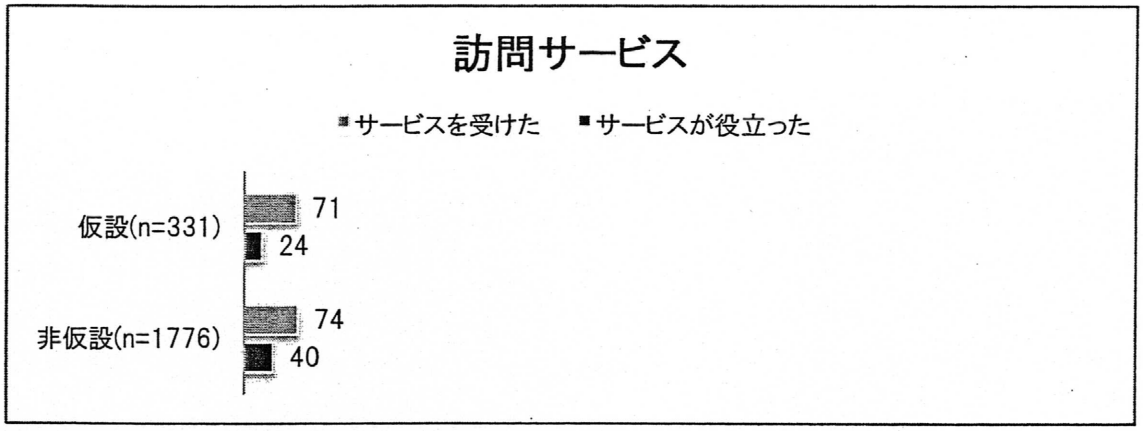

帰宅支援に関する相談
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
70
36
非仮設(n=1776)
41
25

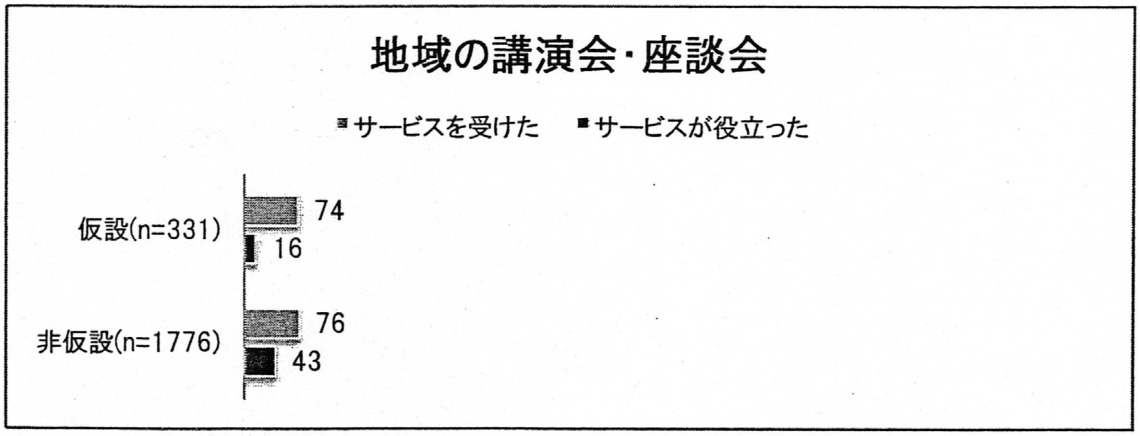

高齢者･障害者へのサービス
■サービスを受けた
■サービスが役立った
仮設(n=331)
63
48
非仮設(n=1776)
85
88

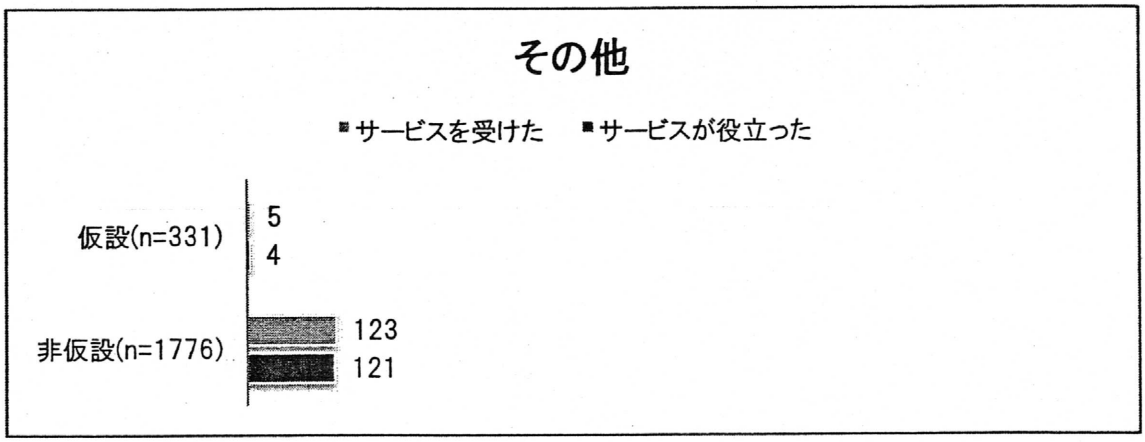

育児･教育に関する相談
■サービスを受けた
■サービスが役立った
仮設(n=331)
10
6
非仮設(n=1776)
9
5


身体に関する健康相談
■サービスを受けた
■サービスが役立った
仮設(n=331)
72
32
非仮設(n=1776)
68
54

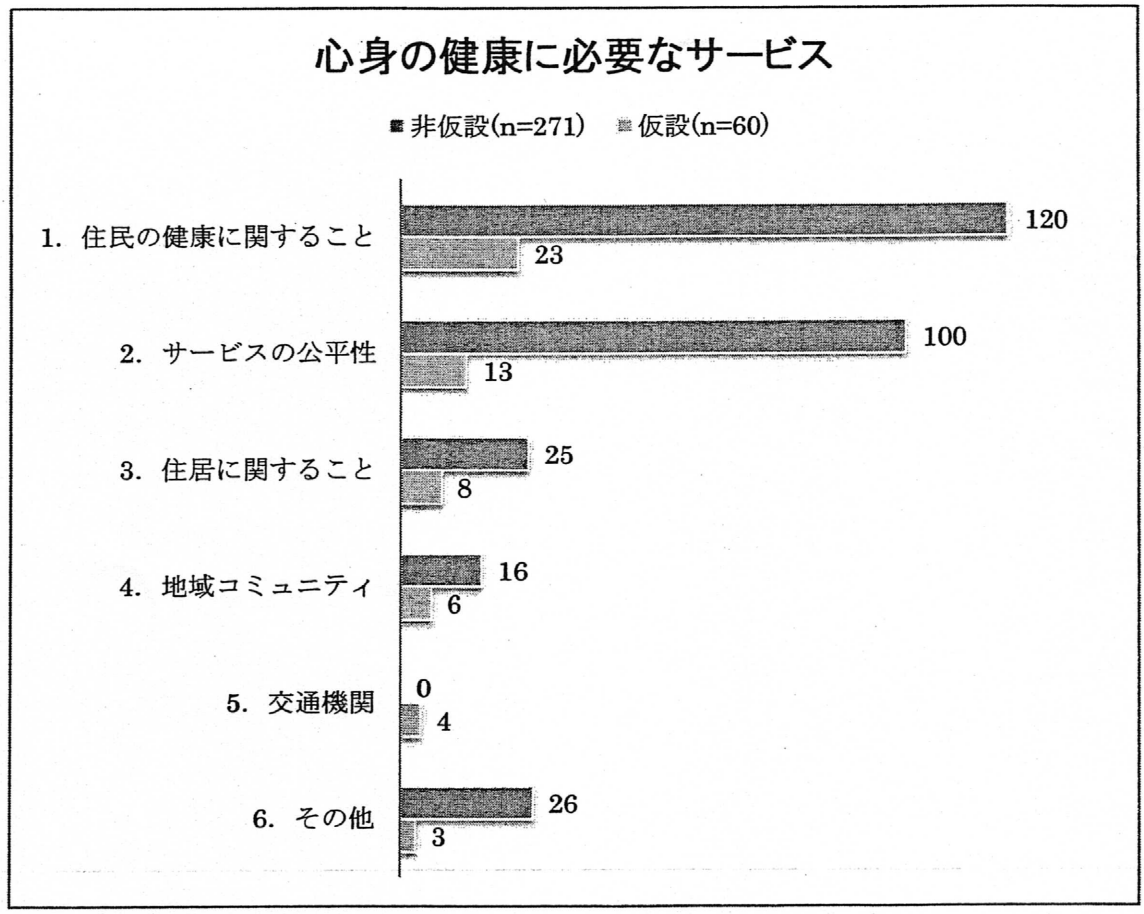

こころの健康相談
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
59
24
非仮設(n=1776)
56
43


訪問サービス
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
71
24
非仮設(n=1776)
74
40

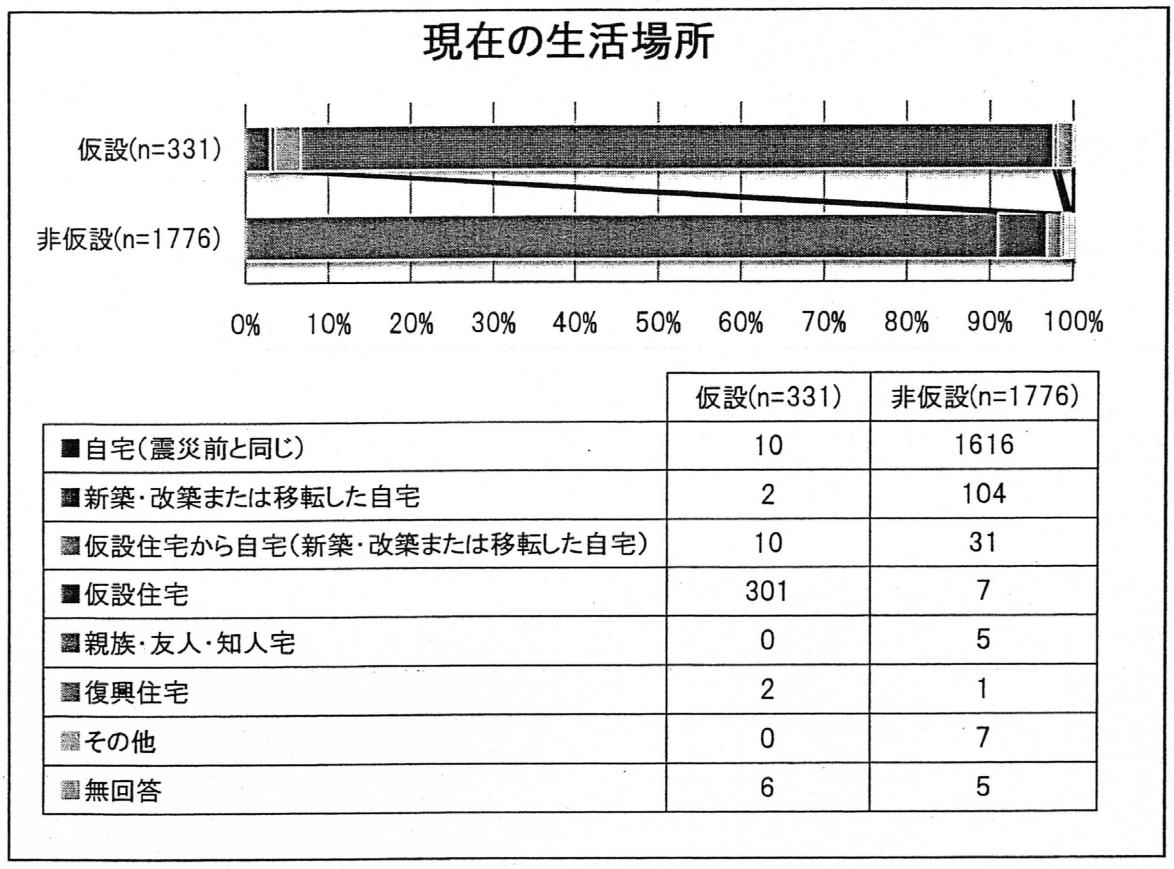

地域の講演会・座談会
サービスを受けた
サービスが役立った
仮設(n=331)
74
16
非仮設(n=1776)
76
43



問 16. 今後、心身の健康のためのサービスとしてどのようなものが必要であると思いますか。
ご自由にお書きください。

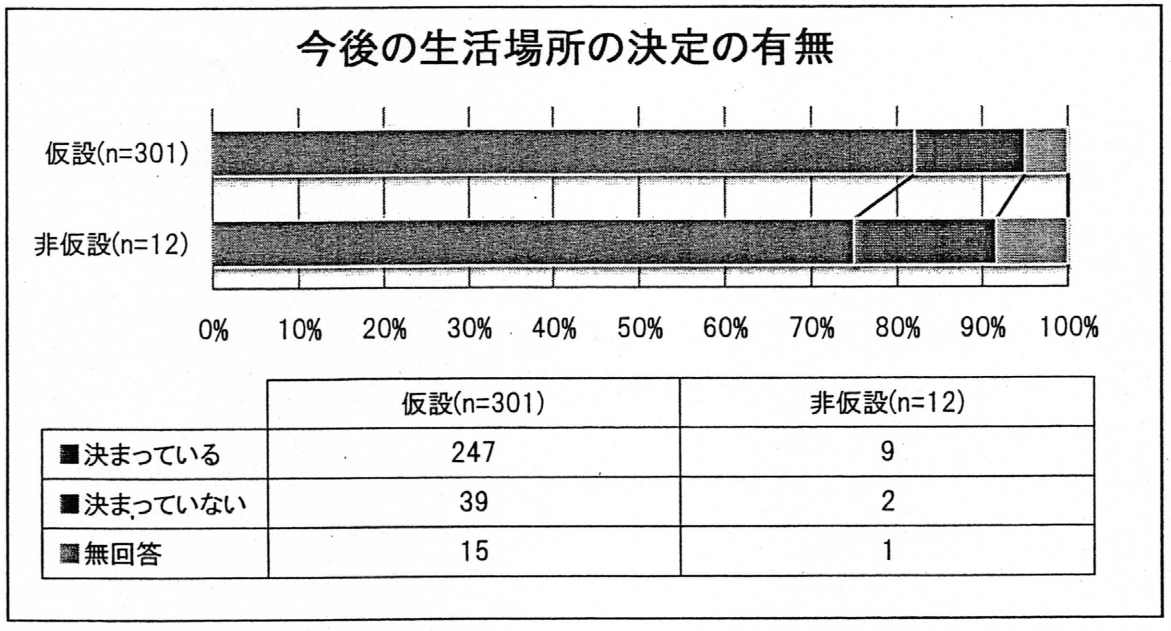


問17. 現在の生活場所はどこですか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■自宅(震災前と同じ)	10	1616
■新築・改築または移転した自宅	2	104
■仮設住宅から自宅(新築・改築または移転した自宅)	10	31
■仮設住宅	301	7
■親族・友人・知人宅	0	5
■復興住宅	2	1
■その他	0	7
■無回答	6	5

問17－1. 今後の生活場所は決まっていますか。ひとつだけ選んでください。
（問17で「4」または「5」と回答されたかたのみ、ご回答ください）

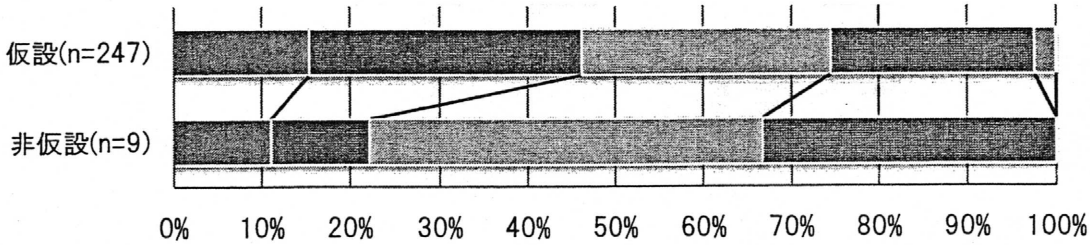


	仮設(n=301)	非仮設(n=12)
■決まっている	247	9
■決まっていない	39	2
■無回答	15	1

問17－1－1. 今後の生活場所はどのようにされますか。ひとつだけ選んでください。

（問17－1で「1」と回答された方のみ、ご回答ください）

今後の生活場所の内容

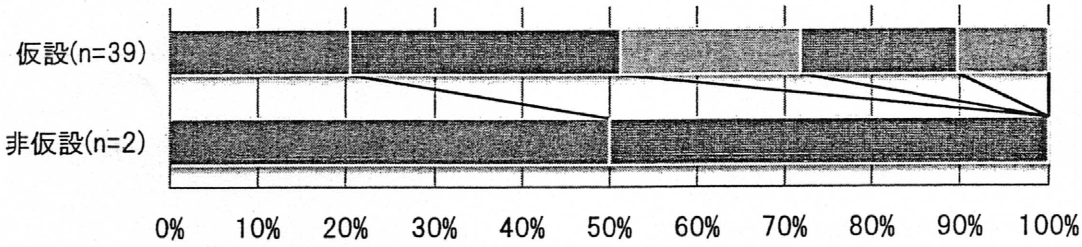


	仮設(n=247)	非仮設(n=9)
■自宅に戻る	38	1
■もとの居住地に新築する	76	1
■他の地域に転出する	70	4
■その他	57	3
■無回答	6	0

問17－1－2. 今後の生活場所についてどのように希望していますか。ひとつだけ選んでください。

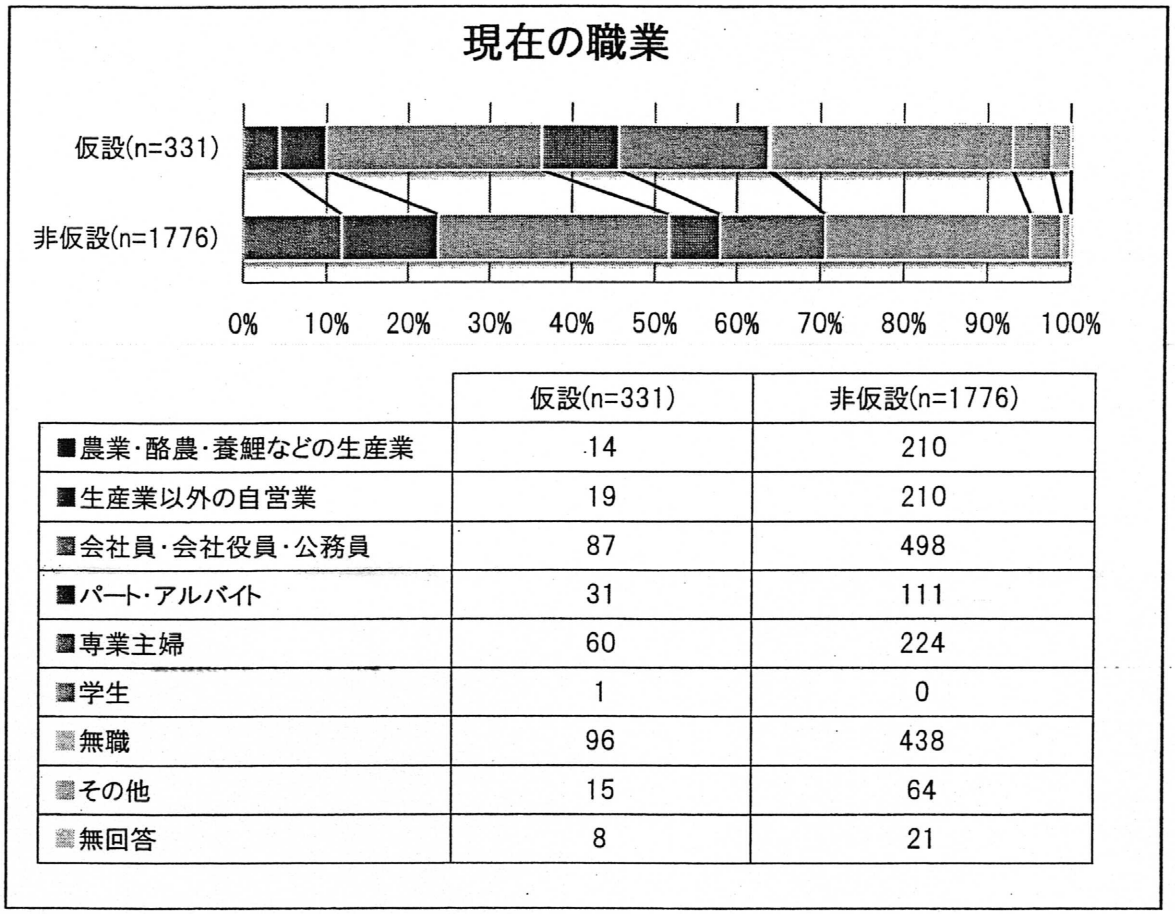
（問17－1の回答に「2」と回答された方のみ、ご回答ください）

今後の希望する生活場所



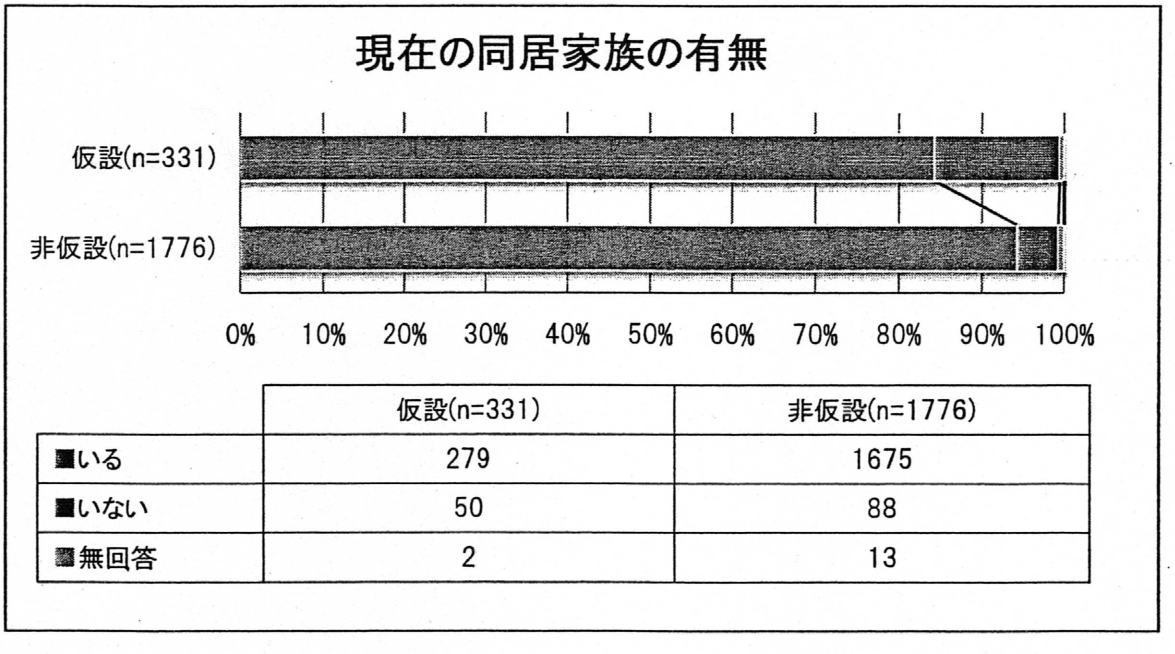
	仮設(n=39)	非仮設(n=2)
■もとの居住地に戻りたい	8	1
■他の地域に転出したい	12	1
■できるだけ長く仮設住宅で生活を続けたい	8	0
■その他	7	0
■無回答	4	0

問18. 現在のあなたの職業は。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■農業・酪農・養鯉などの生産業	14	210
■生産業以外の自営業	19	210
■会社員・会社役員・公務員	87	498
■パート・アルバイト	31	111
■専業主婦	60	224
■学生	1	0
■無職	96	438
■その他	15	64
■無回答	8	21

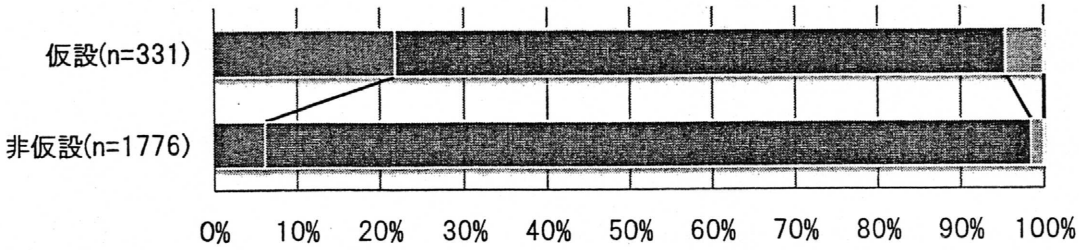
問19. 現在同居している家族はいますか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■いる	279	1675
■いない	50	88
■無回答	2	13

問20. 震災が原因で家族構成に変化がありましたか。ひとつだけ選んでください。

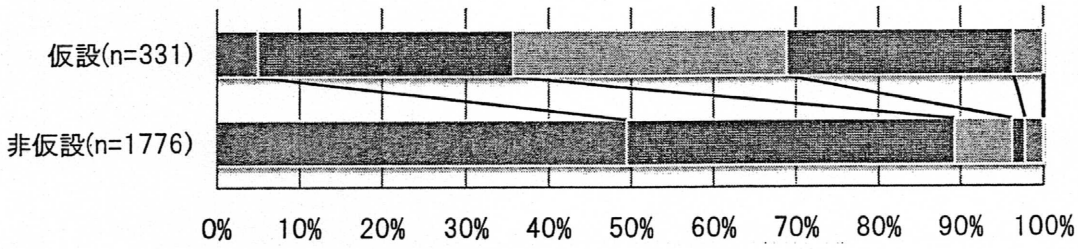
震災による家族構成の変化



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■あった	72	108
■なかった	244	1641
■無回答	15	27

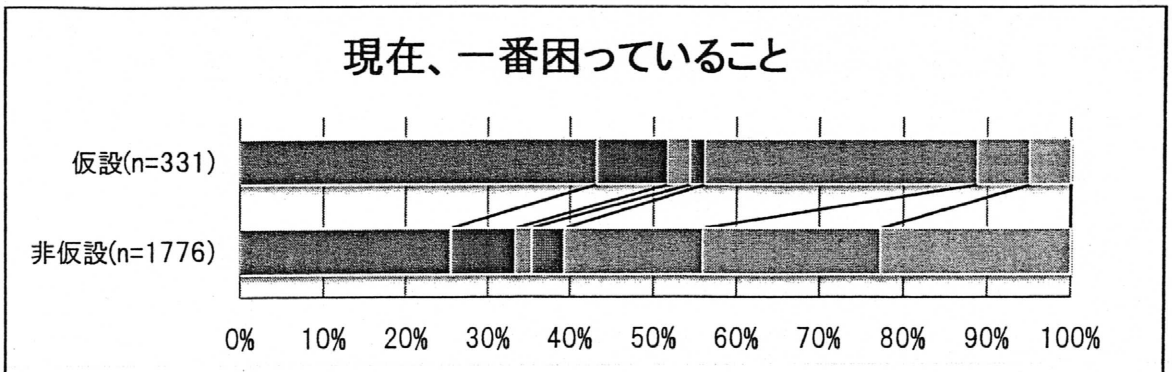
問21. 生活再建の程度はどうですか。ひとつだけ選んでください。

生活再建の程度



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■震災前に戻った	16	878
■だいたい戻った	102	707
■あまり戻っていない	110	124
■全く戻っていない	91	29
■無回答	12	38

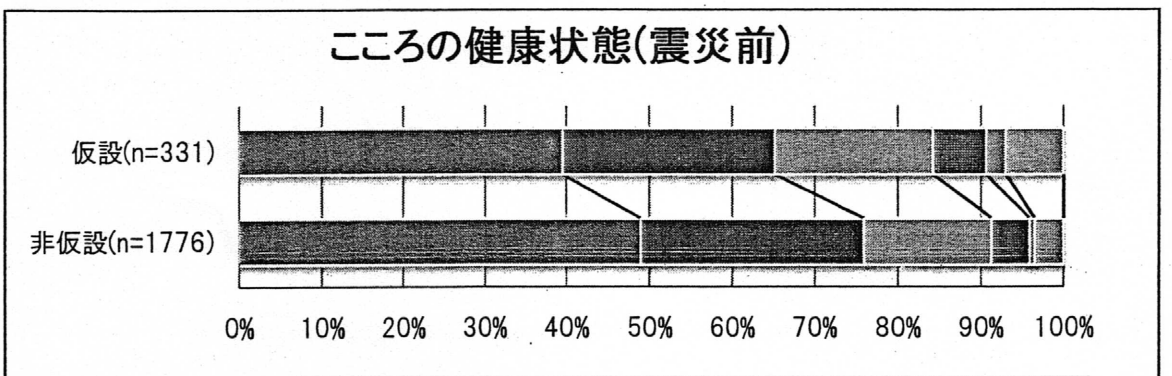
問22. 現在、一番お困りのことは何ですか。ひとつだけ選んでください。



	仮設群 (n=331)	非仮設群 (n=1776)
■生活費などの金銭的な問題	143	453
■健康状態の悪化	28	140
■家庭内の人間関係	9	34
■職業上の問題	6	72
■住居の問題	108	294
■その他	21	380
■無回答	16	403

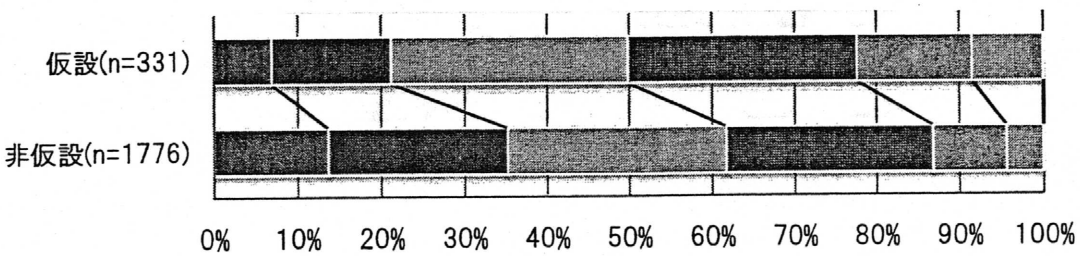
※その他の主な回答：ストレス、不安・交通の問題・高齢者の問題

問23. こころの健康状態はどうでしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。（震災前）



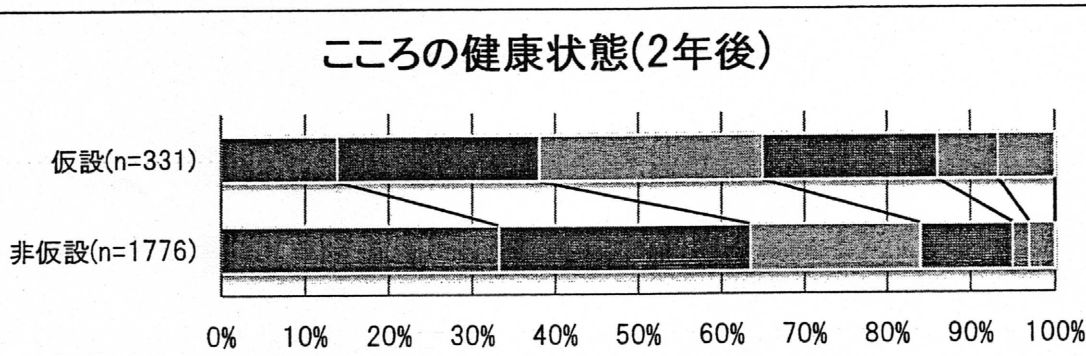
	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■非常に健康	131	869
■少し健康	85	481
■どちらともいえない	63	272
■少し不健康	21	82
■非常に不健康	8	11
■無回答	23	61

問23. こころの健康状態はどうでしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。（震災直後～1週間後）



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■非常に健康	23	243
■少し健康	47	382
■どちらともいえない	95	470
■少し不健康	92	447
■非常に不健康	46	156
■無回答	28	78

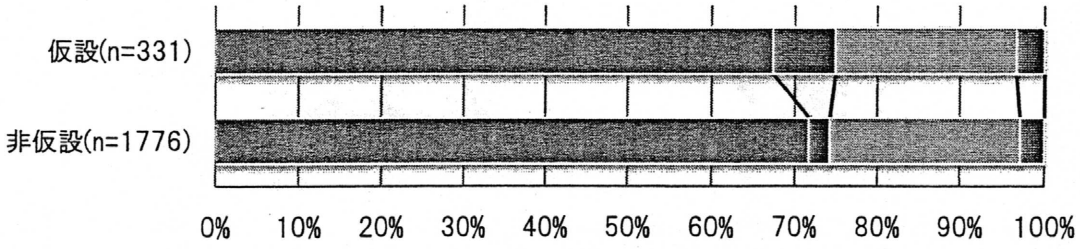
問23. こころの健康状態はどうでしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。（現在）



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■非常に健康	46	590
■少し健康	80	537
■どちらともいえない	89	366
■少し不健康	70	195
■非常に不健康	24	34
■無回答	22	54

問24. 震災後つらさや苦労を誰かに話しましたか。ひとつだけ選んでください。

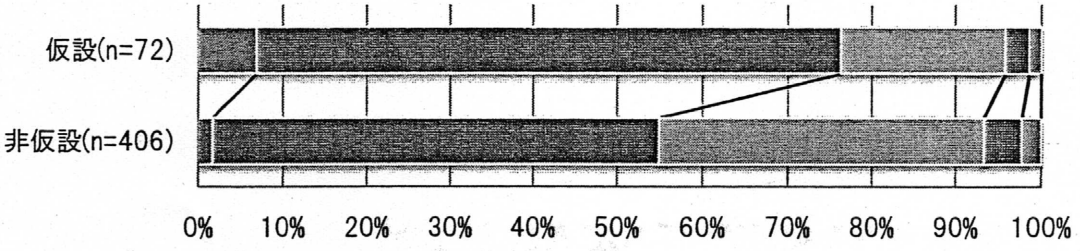
震災後のつらさや苦労について誰かに話した



	仮設(n=331)	非仮設(n=1776)
■話した	223	1274
■話したかったが話せなかった	25	45
■話さなかった	72	406
■無回答	11	51

問24－1. つらさや苦労を話さなかった理由は何ですか。ひとつだけ選んでください。
（問24で「3」と回答された方のみ、ご回答ください）

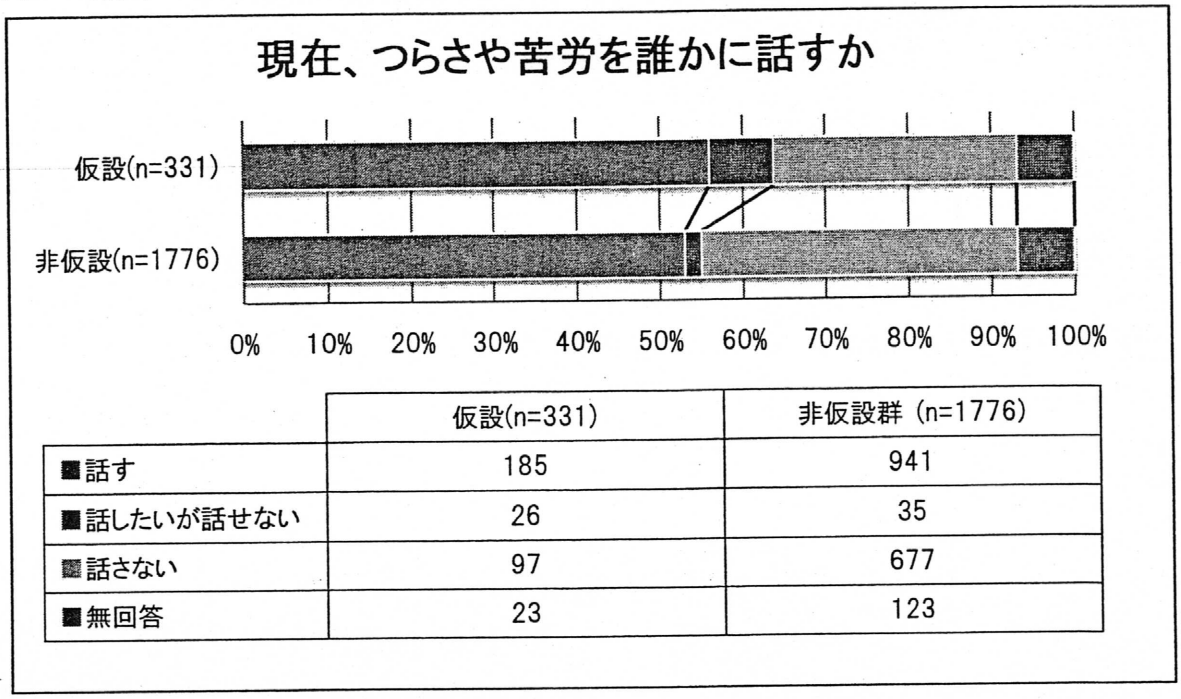
つらさや苦労を話さなかった理由



	仮設(n=72)	非仮設(n=406)
■話したくなかった	5	7
■話しても仕方がないと思った	50	216
■話す必要がなかった	14	156
■その他	2	18
■無回答	1	9

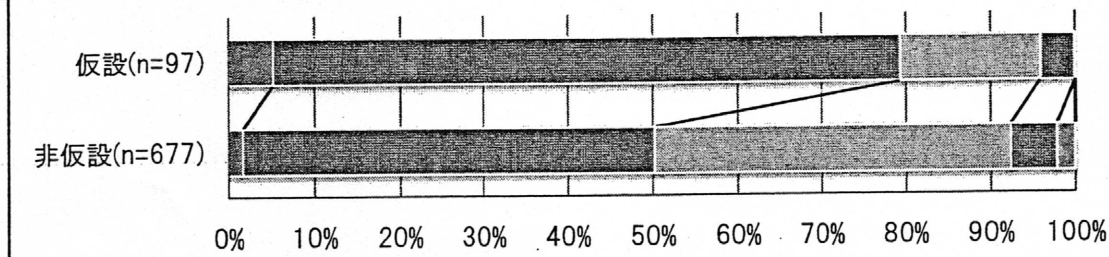
※その他の主な内容：つらいのは皆同じだから・それほどつらさや苦労は感じていないもっとつらいことがある・周囲に心配をかけたくない

問25. 現在、つらさや苦労を誰かに話しますか。ひとつだけ選んでください。



	仮設(n=331)	非仮設群 (n=1776)
■話す	185	941
■話したいが話せない	26	35
■話さない	97	677
■無回答	23	123

問25－1. つらさや苦労を話さなかった理由は何ですか。ひとつだけ選んでください。
（問25で「3」と回答された方のみ、ご回答ください）

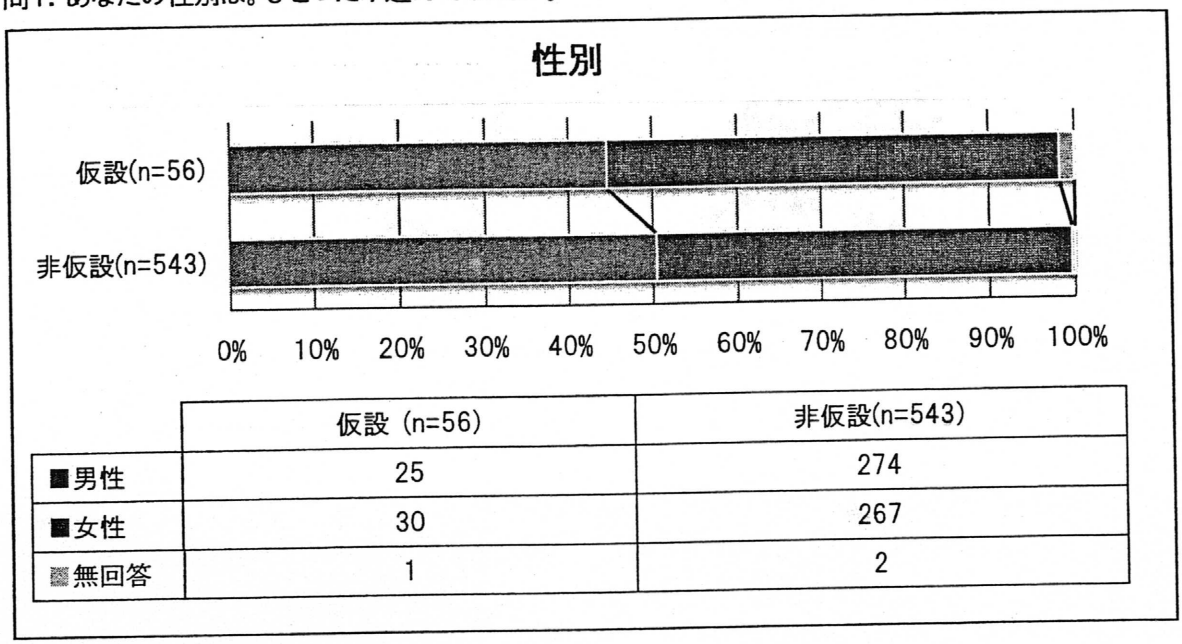


	仮設(n=97)	非仮設(n=677)
■話したくない	5	11
■話しても仕方がないと思う	72	329
■話す必要がない	16	285
■その他	4	37
■無回答	0	15

※その他の主な内容：それほどつらさや苦労は感じていない・あまり被害を受けていないから

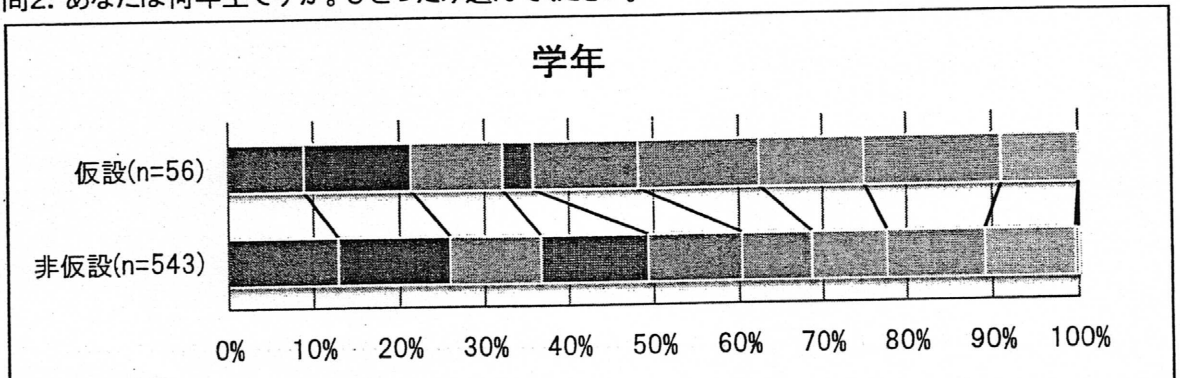
8　子ども用＜調査結果集計グラフ＞

問1. あなたの性別は。ひとつだけ選んでください。



	仮設（n=56）	非仮設(n=543)
■男性	25	274
■女性	30	267
■無回答	1	2

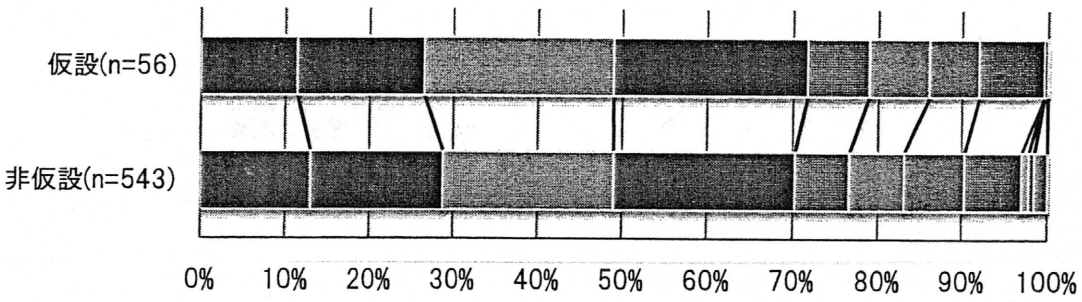
問2. あなたは何年生ですか。ひとつだけ選んでください。



	仮設（n=56）	非仮設（n=543）
■小学１年生	5	70
■小学２年生	7	71
■小学３年生	6	58
■小学４年生	2	69
■小学５年生	7	60
■小学６年生	8	45
■中学１年生	7	49
■中学２年生	9	62
■中学３年生	5	57
■無回答	0	2

問3. あなたが一緒に住んでいる人はだれですか。あてはまる人をすべて選んでください。

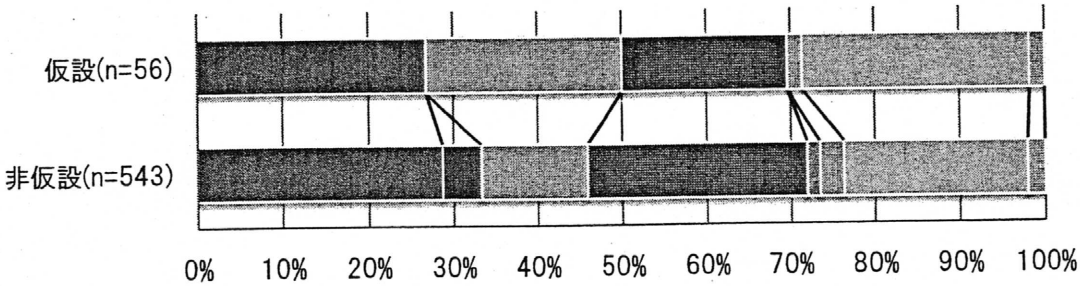
同居家族



	仮設 (n=56)	非仮設 (n=543)
■祖父	27	322
■祖母	36	396
■父	53	504
■母	54	530
■兄	17	158
■姉	17	161
■弟	14	180
■妹	18	166
■おじ	0	22
■おば	0	16
■その他	1	35
■無回答	0	2

※その他の主な内容：曾祖母、従兄妹、ペット

問4. 地震の後、一番心配したことはなんですか。ひとつだけ選んでください。



	仮設 (n=56)	非仮設 (n=543)
■学校のこと	15	156
■学校や勉強のこと	0	25
■友達のこと	13	68
■家や物が壊れたこと	11	142
■病気や怪我のこと	0	8
■その他	1	16
■特に心配したことはない	15	117
■無回答	1	11

その他の主な内容：次の地震の心配、将来に対する漠然とした不安感

9　世帯主用アンケート　＜その他の回収結果＞

問４．震災時のあなたの住所は。N=16　（非仮設）16（仮設）0　無回答=0

1．長岡市（旧越路町・旧山古志村を除く）	5．川口町
2．小千谷市	6．旧越路町
3．見附市	7．旧山古志村
4．十日町市	8．その他

1．長岡市（旧越路町・旧山古志村を除く）の選択肢に該当するもの	9
2．小千谷市	0
3．見附市	0
4．十日町市の選択肢に該当するもの	2
5．川口町	0
6．旧越路町	0
7．旧山古志村	0
8．その他	0
空欄	5
	計16件

問５．震災時あなたの職業は。N=78　（非仮設）65（仮設）13　無回答=0

1．農業・酪農・養鯉などの生産業	5．専業主婦
2．生産業以外の自営業	6．学生
3．会社員・会社役員・公務員	7．無職
4．パート・アルバイト	8．その他

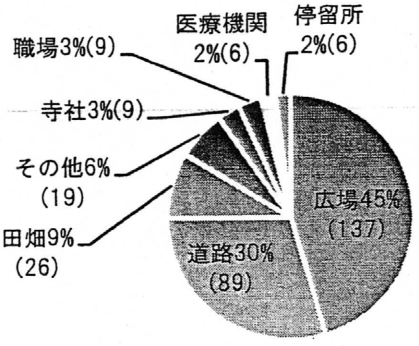
1．農業・酪農・養鯉などの生産業の選択肢に該当するもの	6	
2．生産業以外の自営業	17	
3．会社員・会社役員・公務員	14	
4．パート・アルバイト	12	
5．専業主婦	2	
6．学生	0	
7．無職	3	
8．その他	13	内職 6 / 建築・大工 5 / 印刷業 1 / 生活者 1
空欄	11	
	計78件	

問10. 地震直後、最初にどこへ避難しましたか。N=382　（非仮設）313（仮設）67　無回答=2

1．公共の避難所	5．車庫
2．自動車	6．テント
3．親族・友人・知人宅	7．その他
4．自宅	

1．公共の避難所の選択肢に該当するもの	22
2．自動車	13
3．親族・友人・知人宅	1
4．自宅	4
5．車庫	2
6．テント	1
7．その他	301
空欄	38
	計382件

避難した場所(n=301)



問14　震災後、どのような行政サービスを受けましたか。　N=128（非仮設）123（仮設）3　無回答=2

あてはまるものをすべて選択

1．資金援助	8．育児・教育に関する相談
2．物資の配給	9．身体に関する健康相談
3．税金に関する相談	10．こころの健康相談
4．住宅に関する相談	11．訪問サービス
5．職業に関する相談	12．地域の座談会・講演会
6．帰宅支援に関する相談	13．その他
7．高齢者・障害者へのサービス	

1．資金援助	22
2．物資の配給	12
3．税金に関する相談	0
4．住宅に関する相談	0
5．職業に関する相談	0
6．帰宅支援に関する相談	0
7．高齢者・障害者へのサービス	0
8．育児・教育に関する相談	0
9．身体に関する健康相談	0
10．こころの健康相談	0
11．訪問サービス	0
12．地域の座談会・講演会	0
13．その他	29
空欄	65
	計128件

サービスを受けなかった	16
他機関のサービスを受けた	6
仮設住宅	3
情報	2
その他	2

問15　どのような行政サービスが役に立ちましたか。　N=125　（非仮設）122（仮設）2　無回答=1

あてはまるものを3つまで選択

1．資金援助	8．育児・教育に関する相談
2．物資の配給	9．身体に関する健康相談
3．税金に関する相談	10．こころの健康相談
4．住宅に関する相談	11．訪問サービス
5．職業に関する相談	12．地域の座談会・講演会
6．帰宅支援に関する相談	13．その他
7．高齢者・障害者へのサービス	

1．資金援助	7
2．物資の配給	6
3．税金に関する相談	0
4．住宅に関する相談	0
5．職業に関する相談	0
6．帰宅支援に関する相談	0
7．高齢者・障害者へのサービス	0
8．育児・教育に関する相談	0
9．身体に関する健康相談	0
10．こころの健康相談	0
11．訪問サービス	0
12．地域の座談会・講演会	0
13．その他	26
空欄	86
	計125件

サービスを受けなかった	13
他機関のサービス（自衛隊、民生委員）	7
情報	3
その他	3

問16　今後、心身の健康のためのサービスとしてどのようなものが必要であると思いますか。

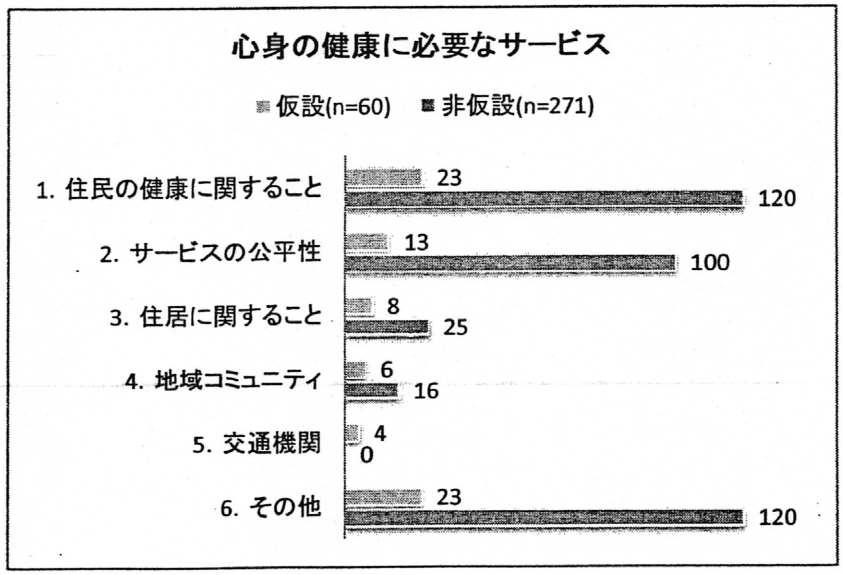
N=331　（非仮設）271（仮設）60　無回答=0　（自由記載）

（非仮設）　N=271

1．住民の健康に関すること	120
2．サービスの公平性	100
3．住居に関すること	25
4．地域コミュニティ	16
5．その他	26
	計287件（複数回答）

（仮設）　N=60

1．住民の健康に関すること	23
2．サービスの公平性	13
3．住居に関すること	8
4．地域コミュニティ	6
5．交通機関	4
6．その他	3
	計57件（複数回答）



問17　現在の生活場所はどこですか。 N=7

1．自宅（震災前と同じ）
2．新築・改築または移転した自宅
3．仮設住宅から自宅（新築・改築または移転した自宅）
4．仮設住宅
5．親族・友人・知人宅
6．復興住宅
7．その他

アパート・借家	5
空欄	2
	計7件

問17－1－1　今後の生活場所はどのようにされますか。 N=60（非仮設）0（仮設）60　無回答=0

問17　現在の生活場所はどこですか。　→「仮設住宅または親族・友人・知人宅」と回答かつ
問17－1　今後の生活場所はきまっていますか。　→「決まっている」と回答

1．自宅に戻る　　3．他の地域に転出する
2．もとの居住地に戻る　　4．その他

1．自宅に戻る	0		
2．もとの居住地に戻る	7		
3．他の地域に転出する	1		
4．その他	37	公営住宅	12
空欄	15	復興住宅	10
	計60件	市営住宅	5
		町営住宅	2
		集団移転	7
		会社の一部を改造	1

問17－1－2　　今後の生活場所についてどのように希望していますか。
問17－1　今後の生活場所は決まっていますか。　→「決まっていない」と回答
N=7　（非仮設）0（仮設）7　無回答=0

1．もとの居住地に戻りたい　3．できるだけ長く仮設住宅での生活を続けたい
2．他の地域に転出したい　　4．その他

1．もとの居住地に戻りたい	1		
2．他の地域に転出したい	0		
3．できるだけ長く仮設住宅での生活を続けたい	0	仮設退居希望	2
4．その他	6	市営、公営、復興住宅入居希望	4
	計7件		

問18　現在のあなたの職業は。　　N=79（非仮設）64（仮設）15　無回答=0

1．農業・酪農・養鯉などの生産業　　5．専業主婦
2．生産業以外の自営業　　6．学生
3．会社員・会社役員・公務員　　7．無職
4．パート・アルバイト　　8．その他

1．農業・酪農・養鯉などの生産業	7		
2．生産業以外の自営業	15		
3．会社員・会社役員・公務員	10		
4．パート・アルバイト	13		
5．専業主婦	2		
6．学生	0		
7．無職	4		
8．その他	6	内職	3
空欄	22	建築大工	2
	計79件	印刷業	1

問22　現在、一番お困りのことは何ですか。　N=401（非仮設）381（仮設）18　無回答=2

1．生活費などの金銭的な問題	4．職業上の問題
2．健康状態の悪化	5．住居の問題
3．家庭内の人間関係	6．その他

1．生活費などの金銭的な問題	8		
2．健康状態の悪化	3		
3．家庭内の人間関係	0		
4．職業上の問題	7		
5．住居の問題	21		
6．その他	55	ストレス、不安	31
空欄	307	困っていない	11
	計401件	交通の問題	6
		高齢者の問題	5
		その他	2

問24—1　つらさや苦労を話さなかった理由は何ですか。　N=20（非仮設）18（仮設）2　無回答= 0
問24　震災後、つらさや苦労を誰かに話しましたか。　→「話さなかった」と回答。

1．話したくなかった	3．話す必要がなかった
2．話しても仕方がないと思った	4．その他

1．話したくなかった	0		
2．話しても仕方がないと思った	0		
3．話す必要がなかった	0	つらいのはみな同じだから	6
4．その他	16	それほどつらさや苦労を感じていないから	2
空欄	4	もっとつらいことがある	2
	計20件	あまり被害を受けていないから	2
		周囲に心配をかけたくない	2
		その他	2

問25—1　つらさや苦労を話さない理由は何ですか。　N=41（非仮設）37（仮設）4　無回答 0
問25　現在、つらさや苦労を誰かに話しますか。　→「話さない」と回答

1．話したくない	3．話す必要がない
2．話しても仕方がないと思う	4．その他

1．話したくない	1		
2．話しても仕方がないと思	1		
3．話す必要がない	0		
4．その他	19	つらいのはみな同じだから	2
空欄	20	それほどつらさや苦労を感じていないから	7
	計41件	聞かれれば話せるが自ら話す必要はないから	2
		あまり被害を受けていないから	4
		その他	4

問16. 今後、心身の健康のためのサービスとしてどのようなものが必要であると思いますか。
（自由記載）
非仮設住宅

・周知の不徹底による不平・不満
・感謝の気持ち
・物資支給への不平・不満
・訪問、座談会
・どうにか自然災害への対応を考えてほしい
・訪問し精神的な負担を軽減してほしい
・診療、相談機能のある施設
・物資配給への不平
・地域ネットワーク
・被災時自宅へ戻りたかった
・相談機関の充実（カウンセリング）
・①災害時わかりやすいマニュアルの作成②地域ネットの必要性
・きめ細かくサービスを実施
・少しでも早い生活環境の復旧
・被害認定への不平
・精神、身体面へのサポートと医療費助成
・①精神、身体、経済面へのサポート体制の充実②専門家の配置
・独居高齢者への訪問、相談
・迅速な復旧作業、職（農業）を失った人へのサポート
・物資支給への不平・不満
・恐怖、不安のある高齢被災者への対応
・情報ラインの整備
・専門職員が地域に足を運び、１人１人を知って欲しい
・医療費助成（無料）
・被害認定への不平不満（サービスは何も期待しない）
・独居高齢者への訪問、相談（こころのケア）
・相談機能の充実
・震災保険、資金援助（啓発普及）
・①高齢者サービスの充実②避難場所の工夫
・①情報ラインの整備（現況、今後の対応について正確な情報）②避難所への見回り
・専門家の派遣
・座談会、講演会
・学校、老人施設など避難所でのカウンセリング
・こころの健康について気軽に相談できる場が必要
・情報・通信ラインの確保
・相談、サービスのリーチアウト
・不安・心配を解消してくれる楽しいイベント
・感謝
・ピアカウンセリングの場
・訪問・相談
・こころの健康相談（児）
・ライフライン、情報の確保
・迅速な情報伝達
・地震保険が役立った
・水害のサービスも欲しかった
・情報ライン、避難所の整備
・高齢者への健康サービス（健康調査）
・感謝
・迅速な情報伝達
・独居の方への対応
・座談会、みんなで語り合える場
・心の健康相談
・不満　（訪問がなく孤立）
・健康
・仮設の2年は短い
・地域座談会、講演会、娯楽
・資金援助　心身のケア
・重度被災者（仮設に住んでいる人、家業や職を失った人）に対する心身ケア、カウンセリング
・問15の設問の範囲内ではありません。
・迅速な情報提供（エコノミークラス症候群などの二次的な被害の予防）・訪問
・とにかく資金援助
・健康相談
・障害者へのプライバシー・人権に配慮（おむつを避難所で替える）
・満足
・物資支給時の声かけ

・心身のケア、相談窓口
・訪問（ニーズにあった対応）
・被災地で高齢者への呼びかけ（家を離れたくない）
・夜回り先生
・高齢者サービス
・子どものケア（物音に脅える）
・調査を震災を忘れた頃ではなく早期に実施して方がよい
・相談（特に高齢者）
・相談、訪問
・カウンセリング
・サービスの格差
・安心できる避難所の確保、医療機関の充実、無線機など通信の確保
・情報不足、不安とのつきあい方
・サービスは必要ない
・ただ話を聞いてくれる人の個別訪問
・わかりやすいパンフレットの普及
・高齢者への対応（町内など集団でのサポート）
・精神的なサポート、近所とのつながり
・訪問など高齢者へのサービス
・物資支給
・住宅など補助金の見直し
・企業・自営業者へのサービス
・資金援助の見直し（利便性）
・避難所・物資の確保、地域での災害対策
・ヘルパー、空家の取り壊し費用
・相談機関（土日）、行政サービスのわかりずらさ、行きづらさなど不満
・被災地のコミュニティ復興
・周知、通信
・ハード、ソフト面へのケア
・こころのケア
・感謝、近所単位で集まれた
・無料の定期健診
・心身のケア
・物資の選択、交通機関整備
・満足
・物資配給の公平なサービス
・訪問、こころのケア
・近所付き合いの大切さ
・思いつかない
・情報提供
・高齢者・障害者対策
・サービスの周知・訪問・不公平さ
・物資の不足、避難所が遠い
・避難所の徹底。災害時の体制の強化
・情報の周知、適切な誘導
・現状がわかる情報周知
・食料の確保
・地域の災害対策、地域別の相談できる機関
・憩いの場（公園など緑を増やす）
・高齢者の心身ケア
・高齢者への訪問（話し相手）
・高齢者サービスの充実（ｼｮｰﾄｽﾃｲ・ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ等）
・避難所（寺）で被災者に物資を配給する人、専門的に全体の様子を見れる人
・情報の周知徹底
・早期ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ
・資金援助
・定期健診（無料）→具合が悪く医療機関までいけない
・被災地とそうでないところでサービスが不公平、震災判定への不満
・資金援助
・高齢者への心身ケア（積極かつ計画的な対応）
・憩いの場
・高齢・障害者サービス
・高齢者サービス
・ボランティアなどの合理的な配置
・こころのケア（自分では気づかない部分）
・被害が大きかったところ直接聞いて欲しい（意見）
・サービス不要
・サービスの周知（特に高齢者や障害者へ伝わるように）

・近所同士の助け合い。道路状況の整備
・一部損壊者に対しての住居診断
・心の相談・カウンセリング
・手厚い金銭支援･所得税の減税・固定資産税の減税
・資金援助
・訪問・健康相談
・健康診断
・物資配給の公平性また周知
・訪問
・こころの健康サポート不要
・特に要望無し
・行政には一人一人への対応は無理
・物資配給の周知
・感謝
・地域座談会
・訪問
・不要
・経済的なことの相談
・講演会、公報。相談
・高齢者のケア、引きこもり防止など。
・公平な物資の配給
・ライフラインの確保
・直接受診できる医療機関などの説明
・地域の繋がり。
・避難所
・単身高齢者へのきめ細かいこころのケア
・高齢者施設の整備
・健康相談
・避難所の確保・公平な物資の配給
・感謝
・カウンセリング（障害者・高齢者）　生活全般に関する相談会
・地域の輪
・地震への不安→安心できるような訪問、座談会
・税金、職業の相談会、資金援助
・①健康相談②地域の座談会
・高齢者の話相手。
・サービスの公平性
・高齢者・障害者へのサービス
・医療サービス
・こころのケア・孤独の防止
・物資配給
・長期にわたるこころのケア
・接遇
・物資配給の地域格差
・住居の修復
・情報伝達がスムースに
・震災についての知識をつけたい
・体験談を語れる場
・正確な住宅調査
・アンケート調査への不満
・苦情相談窓口（被害判定への不満）
・サービスの不公平さ
・高齢者の話し相手
・医薬品などの支給
・子ども同士で遊べる場
・講演会
・心の健康相談
・訪問・相談
・講演、災害時に備えての訓練
・講演・座談会
・感想
・住宅修繕に向けての支援

・情報・サービスの周知
・高齢者への相談
・健康相談
・被害認定の適正化。物資配給のスピードアップ
・こころの健康サービス不要　ボランティアの訪問への感謝
・感謝
・単身者への訪問（うつ・自殺対策として）
・風呂、トイレの早期設置
・相談者
・感謝・地域に心身の健康相談所
・保健師の訪問指導（うつ病）
・訪問（自分が正常なのかわからない）
・うつ状態になったこと
・避難場所により格差があった。高齢者やその家族へのケア
・保健師の訪問
・サービス格差（仮設だけでなく非仮設も）
・感謝「9．身体に関する健康相談」「10．こころの健康相談」「11．訪問サービス」
・行政職員による巡回訪問
・感謝
・地域座談会
・公平な物資配給・相談所
・苦情処理サービス　物資の不公平
・水害対策
・身体が健康になるためのサービス
・心の健康相談
・避難の方法、連絡のとり方がわかるポスター
・物資配給
・物資配給
・物資配給
・感謝
・物資配給の平等
・資金援助　物資配給の平等
・サービスの情報周知（市で乳児の入浴サービスを行っていた）
・物資配給
・ボランティア（家財の片付け）
・こころのケア
・地域でのいきいきサロン
・高齢者サービス
・①入浴②食事等③税免除。
・資金援助
・健康相談
・被害認定の地域格差
・高齢者サービス
・今後も受けられる震災における住居、資金などのサービス
・近くにスーパがほしい
・高齢化に対応した住宅損壊による無念を訴える　喪失感
・不満　こころのケア
・相談所
・不満（仮設住宅の対応が遅い）→早い対応
・医療機関の充実
・身体健康相談、心の健康相談
・「地域の茶の間」
・継続的な相談、情報提供
・定期的に健康診断（こころのケアを含む）
・情報の周知徹底・地域格差
・講演会、健康体操などの教室
・エコノミー症候群の検査
・エコノミー症候群ではないのかと不安
・復興対策など支援する具体的な取り扱いの情報がもっとほしい（たとえば風呂の設置場所など）
・早期の心のケア
・笑う事
・①災害後の非常時対応窓口の簡素化②避難所に他県の医師がこられ、相談に応じた事
・不要
・単身高齢者への訪問サービス
・相談
・資金援助
・物資支給　公共施設（トイレ・かまど）
・高齢者の話し相手（ボランティア）

問16. 今後、心身の健康のためのサービスとしてどのようなものが必要であると思いますか。
（自由記載）

仮設

・とにかく人が恋しい気持ちが強くなった様に思う。ゆっくり落ち着いて話す事ができず、以前より早口に話し他人の話も最後まで聞くのが難しい。
・高齢者、障害者へのいたわり。
・バスの本数を増やして欲しい
・感謝の気持ち
・集会場
・啓発普及
・①早く町営住宅に入居したい。②身体的ケア
・人と対話すること
・個別性に富んだサービス
・長期にわたるケア、資金援助
・住居に対して国の支援・障害者に対して各町内の対応
・身体のケア
・高齢者へのサービスの充実、住宅再建にあたって各種援助の充実
・調査に対する不満
・コミュニティで行う足腰の体操
・資金援助（他のサービスは役に立たない）
・サービスの不公平さ（早い者勝ち）
・訪問の回数増（話を聞いてもらいたい）
・講演会
・病院へ行くときの配車
・アロマテラピー、足つぼマッサージ、整体、針灸の無料参加できるサポートセンター、集会所
・地域コミュニティの確保
・感謝の気持ち
・医療等のサービスの充実
・不満
・自宅用のお薬を配って欲しい。
・心の健康相談　訪問サービス
・交通機関の問題
・帰宅支援に対する相談。公営住宅など各種サービスの決めこまやかな説明と訪問。高齢者・精神障害者に対する配慮。
・資金援助
・住居相談
・迅速な行政の対応
・体を動かすこと
・交通手段の確保
・将来への展望を明確に示す
・仮設住宅入居へ人数の配慮（大人が多く狭い）
・情報の周知
・①被害判定には阪神大震災判定を基準にしたやり方では合わない②市の担当者（住宅担当）の接遇への不満③資金援助も
・老人に比べ不満（知的障害2名を抱える母親）
・訪問
・座談会
・不満
・高齢者の話し相手
・定期的健康診断のサービス
・基礎検診を年2回くらい3年間続けて欲しい。
・宅地の確保。感謝の気持ち。
・住宅への資金援助
・高齢者サービスの充実
・震災を受けてた状況は一緒でも、仮設を出て、これからの生活基盤は個々に違うと思う。今までの生活が成り立たないのに心身のケアのサービスの必要かどうかかはわからない。アンケートの統計も大事かもしれませんが一人一人の声を聞いていくことが一番大切なことではないかと感じる。
・村全体の人が集まれる場所
・お茶会
・感謝（ボランィア）
・娘（高1）が震災後、人間不信となり登校拒否→相談
・物資配給の公平性

10　子ども用アンケート　〈その他の回答欄集計結果〉

問3　あなたが一緒に住んでいる人はだれですか。あてはまる人をすべて選んでください。
N=34　無回答=0

1．おじいさん	2．おばあさん	3．お父さん
4．お母さん	5．お兄さん	6．お姉さん
7．おとうと	8．いもうと	9．おじさん
10．おばさん	11．その他	

曾祖母	28
従兄弟	1
ペット	5
	計34件

問4　地震の後、一番心配したことはなんですか。
N=15　無回答=0

1．家族のこと	2．学校や勉強のこと
3．友だちのこと	4．家やものがこわれたこと
5．病気やケガのこと	6．その他
7．とくに心配したことはない	

次の地震の心配	6
将来に対する漠然とした不安感	6
食糧	2
お金	1
	計15件

問4　地震の後、一番心配したことはなんですか。
（自由記載）
子ども

・余震が来ないか
・又地震がくるかもしれない事
・これからどうなるのか
・すべて
・次の地震の心配、又大きいのが来るかも
・食べ物
・又大きい地震が来ないかどうか
・又地震が起こるか
・家に帰れるか
・食料
・又地震が来ないか
・なにも考えられなかった
・今後の生活
・これからみんなちゃんと生きていけるのか
・金